

潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事（R6-1）

図面番号	図面名称	図面縮尺	図面番号	図面名称	図面縮尺	図面番号	図面名	図面縮尺
—	図面リスト	—	A-29	部分詳細図(16)	S=1/50	S-23	軸組図(6)(改修後)	S=1/100
AT-01	改修特記仕様書(1)	—	A-30	Y5通り縦樋詳細図	S=1/50	S-24	軸組図(7)(改修前)	S=1/100
AT-02	改修特記仕様書(2)	—	A-31	(改修前)1階天井伏図	S=1/100	S-25	軸組図(7)(改修後)	S=1/100
AT-03	改修特記仕様書(3)	—	A-32	(改修後)1階天井伏図	S=1/100	S-26	補強詳細図(1)	S=1/40
AT-04	改修特記仕様書(4)	—	A-33	建具表(1)	S=1/50	S-27	補強詳細図(2)	S=1/40
AT-05	改修特記仕様書(5)	—	A-34	建具表(2)	S=1/50	S-28	補強詳細図(3)	S=1/40
AT-06	改修特記仕様書(6)	—	A-35	天井クレーン走行スッパ-移設図	S=1/100	S-29	補強詳細図(4)	S=1/40
AT-07	改修特記仕様書(7)	—	A-36	仮設足場計画図(参考図)	S=1/200	S-30	補強詳細図(5)	S=1/40
AT-08	改修特記仕様書(8)	—	A-37	雨水ポンプ配置図(参考図)	S=1/50	S-31	補強詳細図(6)	S=1/40
A-01	付近見取図、配置図兼外部仮設計計画図	S=1/800	A-38	プラント機械設備図(1)(参考図)	—	S-32	補強詳細図(7)	S=1/40
A-02	内部仮設計計画図	S=1/150	A-39	プラント機械設備図(2)(参考図)	—	S-33	補強詳細図(8)	S=1/40
A-03	地下3階平面図(参考図)	S=1/100	A-40	プラント機械設備図(3)(参考図)	—	S-34	補強詳細図(9)	S=1/40
A-04	地下2階平面図(参考図)	S=1/100				S-35	補強詳細図(10)	S=1/40
A-05	(改修前)地下1階平面図	S=1/100				S-36	補強詳細図(11)	S=1/40
A-06	(改修後)地下1階平面図	S=1/100				S-37	補強詳細図(12)	S=1/40
A-07	(改修前)1階平面図	S=1/100	S-01	改修設計特記仕様書(1)	—	S-38	補強詳細図(13)	S=1/40
A-08	(改修後)1階平面図	S=1/100	S-02	改修設計特記仕様書(2)	—	S-39	補強詳細図(14)	S=1/40
A-09	(改修前)2階平面図	S=1/100	S-03	鉄筋コンクリート構造配筋標準図	—	S-40	補強詳細図(15)	S=1/40
A-10	(改修後)2階平面図	S=1/100	S-04	地下1階床伏図(改修前)	S=1/100	S-41	補強詳細図(16)	S=1/40
A-11	(改修前後)R階平面図	S=1/100, 15	S-05	地下1階床伏図(改修後)	S=1/100	S-42	補強詳細図(17)	S=1/40
A-12	(改修前)立面図	S=1/200	S-06	1階床伏図(改修前)	S=1/100			
A-13	(改修後)立面図	S=1/200	S-07	1階床伏図(改修後)	S=1/100			
A-14	部分詳細図(1)	S=1/50	S-08	2階床伏図(改修前)	S=1/100			
A-15	部分詳細図(2)	S=1/50	S-09	2階床伏図(改修後)	S=1/100			
A-16	部分詳細図(3)	S=1/50	S-10	R階床伏図(改修前)	S=1/100			
A-17	部分詳細図(4)	S=1/50	S-11	R階床伏図(改修後)	S=1/100			
A-18	部分詳細図(5)	S=1/50	S-12	軸組図(1)(改修前)	S=1/100			
A-19	部分詳細図(6)	S=1/50	S-13	軸組図(1)(改修後)	S=1/100			
A-20	部分詳細図(7)	S=1/50	S-14	軸組図(2)(改修前)	S=1/100			
A-21	部分詳細図(8)	S=1/50	S-15	軸組図(2)(改修後)	S=1/100			
A-22	部分詳細図(9)	S=1/50	S-16	軸組図(3)(改修前)	S=1/100			
A-23	部分詳細図(10)	S=1/50	S-17	軸組図(3)(改修後)	S=1/100			
A-24	部分詳細図(11)	S=1/50	S-18	軸組図(4)(改修前)	S=1/100			
A-25	部分詳細図(12)	S=1/50	S-19	軸組図(4)(改修後)	S=1/100			
A-26	部分詳細図(13)	S=1/50	S-20	軸組図(5)(改修前)	S=1/100			
A-27	部分詳細図(14)	S=1/50	S-21	軸組図(5)(改修後)	S=1/100			
A-28	部分詳細図(15)	S=1/50	S-22	軸組図(6)(改修前)	S=1/100			

株式会社日産技術コンサルタント				工事名	係	係長	課長補佐	課長	図面番号
一級建築士事務所 大阪府知事登録(チ)第10818号 大阪市中央区南久宝寺町3-1-8 TEL 06-6243-2311 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号				潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事(R6-1)					
				図面名 図面リスト	縮尺 1/-		作図 年 月 日		

2024.04 潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事（R6-1） 特記仕様書		項目	特記事項	項目	特記事項																																																																					
I 工事概要 1. 工事場所 高知市南新田町5番69号 2. 工事種目 【雨水ポンプ棟】 鉄筋コンクリート造（一部鉄骨鉄筋コンクリート造） 地下3階地上2階建て 延べ面積1,539.37㎡ 1) 耐震改修 ①鉄筋コンクリート壁増設 16箇所 ②開口閉塞 10箇所 ③柱補強 10箇所 ④耐震改修に伴う解体撤去 一式 2) 防水改修 一式 3) 外壁改修 一式 4) 建具改修 一式 5) 内装改修 一式 6) 塗装改修 一式 7) その他 一式 3. 関連工事等 ○電気設備工事 ○機械設備工事 ・ガス設備工事 ・昇降機設備工事 ・植栽工事 ・合併処理装置設置工事 ・外構工事 4. 概成工期 ・完成期限の()日()月()日()年()月()日 5. 部分使用(工事請負契約書第34条第1項) 令和 年 月 日からは、全ての室内部分を使用する。		10 工事安全計画書 11 統括安全衛生管理義務者の指名 12 発生材の処理	配置人員の資格 ・1名以上/1班は交通誘導警備業務に係る検定合格者(1級又は2級)を配置する工事。 ※交通誘導に関し、1名以上/1班は専門的な知識及び技能を有する警備員等を配置する工事。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>資格</th> <th>資格要件</th> <th>配置人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1. 2級交通誘導警備員 検定合格者 (交通誘導警備員A)</td> <td>交通誘導警備員に関して、公安委員会が学科及び実施試験を行い、専門的な知識及び技能を有すると認められたもの</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>交通誘導に関し、専門的な知識及び技能を有する警備員等 (交通誘導警備員B)</td> <td>警備業法における指定講習を受講したものの警備業法における基本的基礎教育及び業務別教育(警備業法第2条第1項第2号の警備業務)を現に受けているもので、交通誘導に関する警備業務に従事した期間(実務経験年数)が1年以上であるもの</td> <td>50人</td> </tr> </tbody> </table> なお、事前に監督職員に検定合格証の写し等の資格要件の確認できる資料を提出する。また、警備員等に変更が生じた場合は、速やかに監督職員に同様の資料を提出する。 建設工事公衆災害防止対策要綱及び建築工事安全施工技術指針を参考に、工事安全計画書を監督職員に提出する。 労働安全衛生法第30条第2項に基づき指名をする。 産業廃棄物の運搬、処分等については、1.3.12により適切に処分するものとし、[1.3.12]事前に監督職員に処理計画書を提出する。 産業廃棄物の運搬、あるいは処分を他業者に委託する場合は、書面による委託契約を行い、処理計画書にその写しを添付する。 自己処分場等では処分する場合は、その処分場が関係法令の規定に適合する旨の資料を提出し、監督職員の現地立会を受けたうえで承諾を得る。(積替・保管についても同様とする) 産業廃棄物の収集・運搬に当たっては、廃棄物の処理及び清掃に関する法律(以下廃棄物処理法という)施行令に基づく車両への表示及び書面の備え付けを行うこと。 また、産業廃棄物を搬出する車両について、処分場ごとに1台のみ写真撮影(現場搬出時及び処分場到着時)し、随時監督職員に報告する。 廃棄物処理法を遵守し、工期内に最終処分(埋立処分、海洋投入処分又は再生)を終了しなければならない。 また、産業廃棄物管理票(以下 manifests という)により適正に処理されていることを確認するとともに、監督職員にそのE票の写しを提出する。 ただし、廃棄物処理法を遵守した上で、工期内に産業廃棄物の最終処分を終了することが困難な場合で、監督職員が認める場合においては、工期内に中間処理業者への搬入が終了すればよいものとする。この場合、manifestsにより適正に中間処理業者に搬入されていることを確認するとともに、監督職員にそのB2票の写しを提出する。また、最終処分終了後速やかにE票の写しを提出する。 なお、廃棄物処理法に定める電子情報処理組織を使用する場合は別途協議する。 ・引渡しを要するもの () ・現場再利用を図るもの () ○再資源化を図るもの (※コンクリート ※コンクリート及び鉄から成る建設資材 ※木材 ※アスファルトコンクリート) 特別管理産業廃棄物の施工計画調査 ※行う ・行わない 分析調査 ※施工計画調査の結果により、監督職員と協議する。 ・行う () ・行わない () <table border="1"> <tbody> <tr> <td>・PCBを含む機器類</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・変圧器</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・コンデンサ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・蛍光灯、HID器具の安定器</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・その他()</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・PCB含有シーリング材</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・廃油</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・廃酸 廃アルカリ</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・臭化リチウム水溶液</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・電池の溶解液</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・ダイオキシン類</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	資格	資格要件	配置人数	1. 2級交通誘導警備員 検定合格者 (交通誘導警備員A)	交通誘導警備員に関して、公安委員会が学科及び実施試験を行い、専門的な知識及び技能を有すると認められたもの	人	交通誘導に関し、専門的な知識及び技能を有する警備員等 (交通誘導警備員B)	警備業法における指定講習を受講したものの警備業法における基本的基礎教育及び業務別教育(警備業法第2条第1項第2号の警備業務)を現に受けているもので、交通誘導に関する警備業務に従事した期間(実務経験年数)が1年以上であるもの	50人	・PCBを含む機器類		・変圧器		・コンデンサ		・蛍光灯、HID器具の安定器		・その他()		・PCB含有シーリング材		・廃油		・廃酸 廃アルカリ		・臭化リチウム水溶液		・電池の溶解液		・ダイオキシン類		19 施工数量調査 調査範囲 ※ 図示 ・ 改修建築物の外壁、軒天、パラペット [1.6.2] 調査方法 ※ 外部足場を使用した目視及び打診 破壊部分の補修方法 ※ 現状に復旧 外壁調査は、外壁改修フローに対する外壁面のひび割れ、浮き、欠損部、内部まで貫通したひび割れ及び雨漏りの有無についての位置及び数量(幅、長さ、面積)の調査を行う。 また、その調査の結果を立面図等に記載し集計表を添えて電子データと共に、監督職員に報告する。(必要に応じ写真等を添付する) ※適用する(○:一級、●:二級) [1.7.2][1.7.3] <table border="1"> <thead> <tr> <th>工事種別</th> <th>技能検定の作業の種別</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>○仮設工事</td> <td>※●とび作業(又は足場組立作業主任者)</td> </tr> <tr> <td>○鉄筋工事</td> <td>※○鉄筋組立作業</td> </tr> <tr> <td>○コンクリート工事</td> <td>○コンクリート圧送工事業業 ○型枠工事業業</td> </tr> <tr> <td>・鉄骨工事</td> <td>※●とび作業</td> </tr> <tr> <td>・ブロック・ALCパネル工事</td> <td>・コンクリートブロック工事業業 ・(単一)エネルギーパネル工事業業</td> </tr> <tr> <td>○防水工事</td> <td>・アスファルト防水工事業業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事業業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事業業 ・合成ゴムシート防水工事業業 ・塩化ビニルシート防水工事業業 ・セメント系防水工事業業 ○シーリング防水工事業業 ○改良アスファルトシートトーチ工法防水工事業業 ○FRP防水工事業業</td> </tr> <tr> <td>・石工事</td> <td>※○石張り作業</td> </tr> <tr> <td>・タイル工事</td> <td>※○タイル張り作業</td> </tr> <tr> <td>・木工事</td> <td>※○大工工事業業</td> </tr> <tr> <td>・屋根及びとどい工事</td> <td>・おかわらぶき ・●スレート工事業業 ・○内外装板金作業</td> </tr> <tr> <td>○金風工事</td> <td>○鋼製地下工事業業 ・(単一)金属製バルコニー工事業業</td> </tr> <tr> <td>○左官工事</td> <td>※○左官作業</td> </tr> <tr> <td>○建具工事</td> <td>○ビル用サッシ施工作業 ・木製建具製作 ○ガラス工事業業</td> </tr> <tr> <td>・カーテンウォール工事</td> <td>※○金属製カーテンウォール工事業業</td> </tr> <tr> <td>○塗装工事</td> <td>※○建築塗装作業</td> </tr> <tr> <td>○内装工事</td> <td>○プラスチック系床仕上げ工事業業 ・○壁装作業 ・カーペット系床仕上げ工事業業 ・○畳製作作業 ○ボード仕上げ工事業業</td> </tr> <tr> <td>・植栽工事</td> <td>※○造園工事業業</td> </tr> <tr> <td>・その他</td> <td>・樹脂接着剤注入工事業業(エポキシ樹脂注入工事) 又は(単一)樹脂接着剤注入工事業業(エポキシ樹脂注入工事) ・家具手加工作業</td> </tr> </tbody> </table> 適用する技能士について、当該資格を有することが確認できる書類及び資格者が特定できる書類(運転免許証等)の写しを提出する。	工事種別	技能検定の作業の種別	○仮設工事	※●とび作業(又は足場組立作業主任者)	○鉄筋工事	※○鉄筋組立作業	○コンクリート工事	○コンクリート圧送工事業業 ○型枠工事業業	・鉄骨工事	※●とび作業	・ブロック・ALCパネル工事	・コンクリートブロック工事業業 ・(単一)エネルギーパネル工事業業	○防水工事	・アスファルト防水工事業業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事業業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事業業 ・合成ゴムシート防水工事業業 ・塩化ビニルシート防水工事業業 ・セメント系防水工事業業 ○シーリング防水工事業業 ○改良アスファルトシートトーチ工法防水工事業業 ○FRP防水工事業業	・石工事	※○石張り作業	・タイル工事	※○タイル張り作業	・木工事	※○大工工事業業	・屋根及びとどい工事	・おかわらぶき ・●スレート工事業業 ・○内外装板金作業	○金風工事	○鋼製地下工事業業 ・(単一)金属製バルコニー工事業業	○左官工事	※○左官作業	○建具工事	○ビル用サッシ施工作業 ・木製建具製作 ○ガラス工事業業	・カーテンウォール工事	※○金属製カーテンウォール工事業業	○塗装工事	※○建築塗装作業	○内装工事	○プラスチック系床仕上げ工事業業 ・○壁装作業 ・カーペット系床仕上げ工事業業 ・○畳製作作業 ○ボード仕上げ工事業業	・植栽工事	※○造園工事業業	・その他	・樹脂接着剤注入工事業業(エポキシ樹脂注入工事) 又は(単一)樹脂接着剤注入工事業業(エポキシ樹脂注入工事) ・家具手加工作業	20 技能士及び技能資格者 21 化学物質の室内濃度の測定 化学物質の室内濃度を測定し、厚生労働省が定める指針値以下であることを確認し、[1.7.9]報告書を監督職員に提出する。 ただし、完成検査前に報告書の提出が困難な場合は、事前に信頼のおける速報等の資料を監督職員に提出する。この場合、後日に正式な報告書を速やかに監督職員に提出しなければならない。 測定する業者の選定にあたっては、あらかじめ監督職員に報告すること。 測定方法 ※厚生労働省「室内空气中化学物質の室内濃度指針値及び標準的測定方法について」による。 測定対象化学物質 ※ホルムアルデヒド ※トルエン ※キシレン ※エチルベンゼン ※スチレン ※パラジクロロベンゼン 測定箇所 ()箇所 施工前・施工後(計 回測定) 測定対象室 () なお、測定結果が厚生労働省の定める指針値を超えている場合は、原則として本工事の引き渡しを行わないこととする。ただし、次のいずれかに該当する場合は除く。 1 何らかの対策が施された結果、揮発性有機化合物の濃度が厚生労働省の定める指針値以下となることが確認された場合。 2 濃度測定の結果が、本工事の施工により生じたものでないことが明確である場合。 3 濃度測定が、使用開始後(備品の搬入等を含む)に行われた場合。 本工事の引き渡し後、あるいは、使用開始後に室内の揮発性有機化合物(VOC)の濃度測定が行われ、測定結果が厚生労働省の指針値を超えている場合については、受注者は、工事引き渡し後であっても、その原因究明に当たって協力しなければならない。 また、本工事の施工が原因となって、化学物質の濃度が厚生労働省の定める指針値を超えたものであることが判明した場合は、受注者の負担により、その対策を講じなければならない。 22 直接仮設の養生 内部養生に合板又は構造用パネルを使用する場合、その合板または構造用パネルのホルムアルデヒド放散量はF☆☆☆☆、又はそれと同等と認められる製品を使用する。 23 建築材料等 本工事に使用する材料等のうち、特定のものが特記された場合は、設計図書に規定するもの又はこれらと同等のものとする。(記載順序は不同)また、「評価名簿による」と特記されたものについては、(社)公共建築協会発行の「建築材料・設備機材等品質性能評価事業建築材料等評価名簿」によるもの、又は評価の内容についてこれらと同等と認められるものとする。 ただし、同等とする場合は、監督職員に承諾を受ける。 県内産資材の優先使用 本工事に使用する資材は、機能、品質、価格等が同等であれば、県内産資材を優先して使用するものとする。なお、県外産資材を使用する場合は、使用理由を施工計画書の打合せ事項に記載し、監督職員の確認を受けること。 注1： 県内産資材とは、高知県内で産出した原材料を用いて、高知県内で製造、加工した資材、又は高知県外で産出した原材料を用いて、高知県内で製造、加工された資材をいう。 ただし、①木材は、高知県内の森林から生産されたもの、②生コンクリートの細骨材に配合する海砂は、高知県内で産出されたものとする。 注2： 県外産資材とは、県内産資材以外の資材をいう。 24 特別な材料の工法 公共建築工事標準仕様書に記載されていない特別な材料の工法は、監督職員の承諾を受けて当該材料製造所の指定する工法による。 25 風圧力 本工事に使用する材料及び工法は、建築基準法に基づき定まる風圧力に対応したものとし、速度圧を求める場合の風速(Vo)及び地表面粗土区分は、次の数値とする。 風速(Vo)： ※ 38m/sec ・ 36m/sec 地表面粗土区分： ※ III ・ II 26 仕上面の出隅処理 内外部とも仕上出隅で利用者の手の届く範囲は、図示が無くとも原則として全て面取りを施す。 木部(家具を含む) 6mm程度 コンクリート、モルタル部 20mm程度 鉄部、金属部 3mm程度 建具類等、上記により難い場合は、監督職員と協議する。
資格	資格要件	配置人数																																																																								
1. 2級交通誘導警備員 検定合格者 (交通誘導警備員A)	交通誘導警備員に関して、公安委員会が学科及び実施試験を行い、専門的な知識及び技能を有すると認められたもの	人																																																																								
交通誘導に関し、専門的な知識及び技能を有する警備員等 (交通誘導警備員B)	警備業法における指定講習を受講したものの警備業法における基本的基礎教育及び業務別教育(警備業法第2条第1項第2号の警備業務)を現に受けているもので、交通誘導に関する警備業務に従事した期間(実務経験年数)が1年以上であるもの	50人																																																																								
・PCBを含む機器類																																																																										
・変圧器																																																																										
・コンデンサ																																																																										
・蛍光灯、HID器具の安定器																																																																										
・その他()																																																																										
・PCB含有シーリング材																																																																										
・廃油																																																																										
・廃酸 廃アルカリ																																																																										
・臭化リチウム水溶液																																																																										
・電池の溶解液																																																																										
・ダイオキシン類																																																																										
工事種別	技能検定の作業の種別																																																																									
○仮設工事	※●とび作業(又は足場組立作業主任者)																																																																									
○鉄筋工事	※○鉄筋組立作業																																																																									
○コンクリート工事	○コンクリート圧送工事業業 ○型枠工事業業																																																																									
・鉄骨工事	※●とび作業																																																																									
・ブロック・ALCパネル工事	・コンクリートブロック工事業業 ・(単一)エネルギーパネル工事業業																																																																									
○防水工事	・アスファルト防水工事業業 ・ウレタンゴム系塗膜防水工事業業 ・アクリルゴム系塗膜防水工事業業 ・合成ゴムシート防水工事業業 ・塩化ビニルシート防水工事業業 ・セメント系防水工事業業 ○シーリング防水工事業業 ○改良アスファルトシートトーチ工法防水工事業業 ○FRP防水工事業業																																																																									
・石工事	※○石張り作業																																																																									
・タイル工事	※○タイル張り作業																																																																									
・木工事	※○大工工事業業																																																																									
・屋根及びとどい工事	・おかわらぶき ・●スレート工事業業 ・○内外装板金作業																																																																									
○金風工事	○鋼製地下工事業業 ・(単一)金属製バルコニー工事業業																																																																									
○左官工事	※○左官作業																																																																									
○建具工事	○ビル用サッシ施工作業 ・木製建具製作 ○ガラス工事業業																																																																									
・カーテンウォール工事	※○金属製カーテンウォール工事業業																																																																									
○塗装工事	※○建築塗装作業																																																																									
○内装工事	○プラスチック系床仕上げ工事業業 ・○壁装作業 ・カーペット系床仕上げ工事業業 ・○畳製作作業 ○ボード仕上げ工事業業																																																																									
・植栽工事	※○造園工事業業																																																																									
・その他	・樹脂接着剤注入工事業業(エポキシ樹脂注入工事) 又は(単一)樹脂接着剤注入工事業業(エポキシ樹脂注入工事) ・家具手加工作業																																																																									
II 建築工事仕様 1. 特記仕様 1) 項目は、番号に○印の付いたものを適用する。 2) 特記事項は、○印の付いたものを適用する。○印のつかない場合は、※印の付いたものを適用する。 ○印と◎印の付いた場合は、共に適用する。 3) 特記事項に記載の()内表示番号は、「公共建築工事標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。特記事項に記載の[]内表示番号は、「公共建築改修工事標準仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。特記事項に記載の< >内表示番号は、「建築物解体工事共通仕様書」の当該項目、当該図又は当該表を示す。 2. 適用基準等 図面及び特記事項に記載されていない事項は、全て国土交通省(建設)大臣官房官庁管理課長の以下による。 ○公共建築工事標準仕様書(建築工事編) (令和4年版) ◎公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編) (令和4年版) ◎建築工事標準詳細図 (令和4年版) ・敷地調査共通仕様書 (令和4年版) ○建築物解体工事共通仕様書 (令和4年版) 3. 「週休2日制モデル工事」の実施について ○対象 (○)発注者指定型 ・受注者希望型 本工事は、工事着手日から工事完成日までの間の土曜日及び日曜日を現場の休工日の基本とする「週休2日制モデル工事」の対象工事である。実施にあたっては高知市上下水道局「週休2日制モデル工事」試行要領(官庁工事編)による。 (https://www.city.kochi.kochi.jp/soshiki/197/) ・対象外(理由：)		13 再生資源利用(促進)計画書及び実施書の提出(請負金額100万円以上) 再生資源利用(促進)計画書及び実施書を、建設副産物情報交換システム(COBRIS)により作成し、提出は以下による。 a) COBRISについては、建設副産物情報センターのホームページ(http://www.recycle.jacic.or.jp)より、利用申請等を行うことができる。 b) 建設資材の利用量の大小や有無に関らず、紙に出力した再生資源利用計画書及び実施書(建設リサイクルガイドライン様式1)を、完成資料として監督職員に提出する。 c) 建設副産物の発生量及び搬出量の大小や有無に関らず、紙に出力した再生資源利用促進計画書及び実施書(建設リサイクルガイドライン様式2)を、完成資料として監督職員に提出する。 d) 受注者は再生資源利用(促進)計画書(現場揭示用様式)を工事現場の見やすい場所に掲げること。 e) 受注者は作成したデータを含め、再生資源利用(促進)計画書及び実施書を工事完成後5年間保存する。 14 工事の保険 工事請負契約後、速やかに工事目的物、工事材料等に生じる損害、第三者に及ぼした損害を補償する保険を締結する。保険期間は、工事着工のときから完成期限より24日後以降までの期間とする。 ※金銭的保証方式 ・有 ○無 17 証明書の提出(グリーン購入法) 「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」(グリーン購入法)及び「高知県グリーン購入基本方針及び実施計画」に基づき、重点調達品目については、積極的に利用すること。なお、重点調達品目の中で木材・木材製品等においては、その原料とされる原木が生産された国における森林に関する法律に照らして合法なものを使用する。 木材・木材製品等については、県産木材納入証明書、県外産合法木材納入証明書を監督職員に提出すること。[1.4.2] 18 石綿含有建材の調査 事前調査の報告 一定規模以上の工事は労働基準監督署と高知市に報告が必要となる 事前調査範囲 ※ 改修範囲 [1.5.1] 貸与資料 ※ 有 (○既存の設計図書 ○石綿含有建材分析結果報告書(図面番号 AT-08)) ・無 分析調査 ◎書面調査及び現地での目視調査の結果により、監督職員と協議する。 ○行う(調査建材使用部位 消音室床 調査建材名 床断熱材 検体数 1) 分析方法 ※定性分析 定性分析の結果により、定量分析を行う場合は監督職員と協議する。																																																																								
項目 特記事項 一般共通事項 ① 工事実績情報サービス(CORINS)への登録(請負金額500万円以上)(受注、変更、完成時) 登録の手続きについては、(一財)日本建設情報総合センターの「建設実績情報のコリンズ」[1.1.4]テクニカル登録等に関する規約)による。 ② 総合工程表 原則、工事の着手に先立ち、別契約関連工事の受注者と協議し、受注者及び別契約関連工事の受注者連名による総合工程表を監督職員に提出する。 3 総合図 工事の施工に先立ち別契約関連工事の受注者と調整のうえ、総合図を作成し、監督職員の承諾[1.2.3]を受ける。 ④ 工事日誌 週ごとに工事の全般的な経過及び次週の工事予定を記載した日誌を監督職員に提出する。[1.2.4]また、工事の経過が明確にわかる写真を貼付すること。 ⑤ 工事写真 工事写真はL版程度とし、工事の内容、日付等必要事項を記入し1部提出する。(A4版台紙) [1.2.4]撮影方法は、「営繕工事写真撮影要領(令和5年版)」による。 デジタル工事写真の黒板情報電子化の実施をする場合は、監督職員の承諾を受ける。 なお、実施については、国営建技第14号(令和5年3月1日付)「デジタル工事写真の黒板情報電子化について」による。 ⑥ 下請負者の報告 各下請負者については下請負契約前に監督職員に報告する。 7 電気保安技術者 適用する。 [1.3.3] ⑧ 施工条件 施工日及び施工時間 ※1.3.5(1)(7)による。 [1.3.5] ・ 施工順序 ・ 図示 工用車両の駐車場所及び資機材の置場所 ※ 仮囲内 ○ 図示 その他の施工条件 ○資機材の搬入時には、専任の誘導員を配置する。その他の場合でも、工事関係車両(乗用車も含む)が敷地内を通行する際には必ず誘導するものをつけ、公道まで徐行する。 ・ 登下校時間帯や休み時間等は車両の通行を中止する等必要な配慮をする。 ○図面番号A-02参照 ⑨ 交通誘導警備員 交通誘導警備員を配置する場合は、原則として警備業法(昭和47年法律第117号)第4条による認定を受けた警備業者の警備員を配置することとし、建設作業員等の他職種の者を従事させないこととする。ただし、一時的な作業等で、安全確保に対処できると監督職員が認めたものについては、この限りでないものとする。 配置人員等 ・令和 年 月 日から令和 年 月 日までの間は 名常駐する。 ・作業日は 名常駐する。その他監督職員と協議し、適宜配置する。 ○監督職員と協議し、適宜配置する。	受注者 株式会社日産技術コンサルタント 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (チ) 第10818号 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号 工事名 潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事(R6-1) 係 係長 課長補佐 課長 図面番号 AT-01 図面名 改修特記仕様書(1) 2024.04 縮尺 1/ 作図 年 月 日																																																																									

項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項																																																																																																																																																																																																																												
27 事業損失補償	※現場説明書による。	5 監督職員の備品等	備品等の設置 <table border="1"> <tr><th>備品の種類</th><th>機・椅子</th><th>書棚</th><th>黒板</th><th>PC</th><th>掛時計</th></tr> <tr><td>数量</td><td>組</td><td>台</td><td>枚</td><td>台</td><td>個</td></tr> <tr><th>備品の種類</th><th>温度計</th><th>ゴム長靴</th><th>雨がっぱ</th><th>保護帽</th><th>懐中電灯</th></tr> <tr><td>数量</td><td>個</td><td>足</td><td>着</td><td>個</td><td>個</td></tr> <tr><th>備品の種類</th><th>衣類ロッカー</th><th>冷暖房機器</th><th>消火器</th><th>湯沸器</th><th>加入電話付機器</th></tr> <tr><td>数量</td><td>人用</td><td>台</td><td>個</td><td>台</td><td>台</td></tr> <tr><th>備品の種類</th><th>掃除具</th><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>数量</td><td>個</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </table>	備品の種類	機・椅子	書棚	黒板	PC	掛時計	数量	組	台	枚	台	個	備品の種類	温度計	ゴム長靴	雨がっぱ	保護帽	懐中電灯	数量	個	足	着	個	個	備品の種類	衣類ロッカー	冷暖房機器	消火器	湯沸器	加入電話付機器	数量	人用	台	個	台	台	備品の種類	掃除具					数量	個					4 改質アスファルトシート防水	絶縁工法のルーフィングの材料 [3.3.2] 部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート 種類及び厚さ ※表3.3.3及び表3.3.4による ・砂付あなきルーフィング 押え金物の材質及び形状 ※図示 ・アルミニウム製、L-30×15×2.0(mm)程度 [3.3.2] 屋内防水 [3.3.3][表3.3.10] 防水層の種類 <table border="1"> <tr><th>工法</th><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>保護層</th></tr> <tr><td>・P1E</td><td>・E-2</td><td></td><td>・設ける</td></tr> <tr><td>・P2E</td><td>※E-2</td><td></td><td>・設けない</td></tr> </table> E-1の場合で工程3を行う場合 ※貯水槽、浴槽等の常時水に接する部分 押え金物の材質及び形状 ※アルミニウム製、L-30×15×2.0(mm)程度 [3.3.2] 平場の保護コンクリート こて仕上げの場合 ※80mm以上 床タイル張り等仕上げの場合 ※60mm以上 コンクリートの仕上りの平たんさ ※a種 ・b種 ・c種 [3.3.5][表8.1.5] 防水層の種類 [3.4.2][表3.4.1～表3.4.3] <table border="1"> <tr><th>工法</th><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>断熱材</th><th>仕上塗料</th><th>備考</th></tr> <tr><td rowspan="3">・M4AS</td><td>・AS-T1</td><td></td><td></td><td rowspan="3">・高日射反射率塗料の適用</td><td rowspan="3">※製造所の指定による</td></tr> <tr><td>・AS-T2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>・AS-T3</td><td></td><td></td></tr> <tr><td rowspan="3">・M3AS</td><td>・AS-T3</td><td></td><td></td><td rowspan="3">・高日射反射率塗料の適用</td><td rowspan="3">※製造所の指定による</td></tr> <tr><td>・AS-T4</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>・AS-J1</td><td></td><td></td></tr> <tr><td rowspan="3">・POAS</td><td>・AS-J1</td><td></td><td></td><td rowspan="3">・高日射反射率塗料の適用</td><td rowspan="3">改修用ドレン・設ける</td></tr> <tr><td>・AS-J2</td><td></td><td></td></tr> <tr><td>・AS-J3</td><td></td><td></td></tr> <tr><td rowspan="2">・M3ASI</td><td>・ASI-T1</td><td></td><td>JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材</td><td rowspan="2">・高日射反射率塗料の適用</td><td rowspan="2">改修用ドレン・設ける</td></tr> <tr><td>・ASI-J1</td><td></td><td>※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号</td></tr> <tr><td>・M4ASI</td><td></td><td></td><td>厚さ： mm</td><td></td><td>・設けない</td></tr> <tr><td>・POASI</td><td></td><td></td><td>※図示</td><td></td><td>・設けない</td></tr> </table> 露出防水層表面の仕上げ塗装除去 ・行う ・行わない [3.2.6] 改質アスファルトシートの種類及び厚さ [3.4.2] ※表3.4.1から表3.4.3による 粘着層付改質アスファルトシート及び部分粘着層付改質アスファルトシートの種類及び厚さ [3.4.2] ※表3.4.1から表3.4.3による 押え金物の材質及び形状 ※図示 ・アルミニウム製、L-30×15×2.0(mm)程度 [3.4.2] 脱気装置の種類及び設置数量 ※製造所の指定とする [3.4.3] 5 合成高分子系ルーフィングシート防水 [3.5.2][表3.5.1～表3.5.2] <table border="1"> <tr><th>工法</th><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>厚さ(mm)</th><th>種類</th><th>仕上塗料</th><th>高日射反射率塗料の適用</th><th>備考</th></tr> <tr><td rowspan="2">・POS</td><td>・S-F1</td><td></td><td>※1.2</td><td rowspan="2">※製造所の仕様による</td><td rowspan="2">※製造所の仕様による</td><td rowspan="2">・</td><td rowspan="2">改修用ドレン・設ける</td></tr> <tr><td>・S4S</td><td>・S-F2</td><td>※2.0</td></tr> <tr><td rowspan="2">・S3S</td><td>・S-M1</td><td></td><td>※1.5</td><td rowspan="2">※製造所の仕様による</td><td rowspan="2">※製造所の仕様による</td><td rowspan="2">・</td><td rowspan="2">改修用ドレン・設ける</td></tr> <tr><td>・S4S</td><td>・S-M2</td><td>※1.5</td></tr> <tr><td rowspan="2">・M4S</td><td>・S-F1</td><td></td><td>※1.2</td><td rowspan="2">※製造所の仕様による</td><td rowspan="2">※製造所の仕様による</td><td rowspan="2">・</td><td rowspan="2">改修用ドレン・設ける</td></tr> <tr><td>・S4S</td><td>・S-F2</td><td>※2.0</td></tr> <tr><td rowspan="2">・M4S</td><td>・S-M1</td><td></td><td>※1.5</td><td rowspan="2">※製造所の仕様による</td><td rowspan="2">※製造所の仕様による</td><td rowspan="2">・</td><td rowspan="2">改修用ドレン・設ける</td></tr> <tr><td>・S4S</td><td>・S-M2</td><td>※1.5</td></tr> <tr><td rowspan="2">・POSI</td><td>・SI-F1</td><td></td><td>※1.2</td><td rowspan="2">※製造所の仕様による</td><td rowspan="2">※製造所の仕様による</td><td rowspan="2">・</td><td rowspan="2">改修用ドレン・設ける</td></tr> <tr><td>・S3SI</td><td>・SI-F2</td><td>※2.0</td></tr> <tr><td rowspan="2">・S4SI</td><td>・SI-M1</td><td></td><td>※1.5</td><td rowspan="2">※製造所の仕様による</td><td rowspan="2">※製造所の仕様による</td><td rowspan="2">・</td><td rowspan="2">改修用ドレン・設ける</td></tr> <tr><td>・M4SI</td><td>・SI-M2</td><td>※1.5</td></tr> <tr><td>・P1S</td><td>・S-C1</td><td></td><td>※1.0</td><td></td><td></td><td></td><td>立上り保護モルタルの塗厚・図示・7mm</td></tr> </table> 断熱工法に用いる断熱材 (SI-F1, SI-F2, SI-M1, SI-M2の場合) [3.5.2] <table border="1"> <tr><th>工法</th><th>材料</th><th>厚さ</th></tr> <tr><td>機械的固定工法</td><td>JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材</td><td>・</td></tr> <tr><td>接着工法</td><td>JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材2種1号又は2号</td><td>・</td></tr> <tr><td>接着工法</td><td>JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材2種1号又は2号</td><td>・</td></tr> <tr><td>接着工法</td><td>JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材2種1号又は2号</td><td>・</td></tr> </table> S-M2及びSI-M2の立上り面の工法及びシートの厚さ [3.1.1] 工法： ※図示 ・接着工法(厚さ mm) ・機械固定工法(厚さ mm) 立上り部等の防水層撤去 ・行う ・行わない 立上り部等の保護層撤去 ・行う ・行わない P O S工法及びP O S I工法(機械的固定工法)の立上り部等の既存保護層を撤去し防水層を非撤去とした場合の既存防水層の処理 ※3.2.6(4)(ウ)(g)による 固定金具の材質及び形状 [3.5.2] 材質 ※防錆処理した鋼板、ステンレス鋼板またはそれらの鋼板の片面及び両面に樹脂を積層加工したもの 厚さ(mm) ※0.4以上 S-M1及びSI-M2の絶縁用シート及び可塑性移行防止用シートの材質 [3.5.2] ※発泡ポリエチレンシート 脱気装置の種類及び設置数量 ※製造所の仕様による [3.5.3] SI-M1及びSI-M2の防湿用フィルムの設置 ※設けない ・設ける [表3.5.2] プレキャストコンクリート下地の目地処理(接着工法の場合) [3.5.4] ・行う(・図示) ・行わない S-F1及びSI-F1のプレキャストコンクリート下地の入隅部増張り [3.5.4] ・行う(・図示) ・行わない 一般部のルーフィングシートの張付けで機械的固定工法の場合 [3.5.4] 建築基準法に基づく風圧力の(※1・1.15・1.3)倍の風圧力に対応した工法	工法	種別	施工箇所	保護層	・P1E	・E-2		・設ける	・P2E	※E-2		・設けない	工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料	備考	・M4AS	・AS-T1			・高日射反射率塗料の適用	※製造所の指定による	・AS-T2			・AS-T3			・M3AS	・AS-T3			・高日射反射率塗料の適用	※製造所の指定による	・AS-T4			・AS-J1			・POAS	・AS-J1			・高日射反射率塗料の適用	改修用ドレン・設ける	・AS-J2			・AS-J3			・M3ASI	・ASI-T1		JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材	・高日射反射率塗料の適用	改修用ドレン・設ける	・ASI-J1		※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号	・M4ASI			厚さ： mm		・設けない	・POASI			※図示		・設けない	工法	種別	施工箇所	厚さ(mm)	種類	仕上塗料	高日射反射率塗料の適用	備考	・POS	・S-F1		※1.2	※製造所の仕様による	※製造所の仕様による	・	改修用ドレン・設ける	・S4S	・S-F2	※2.0	・S3S	・S-M1		※1.5	※製造所の仕様による	※製造所の仕様による	・	改修用ドレン・設ける	・S4S	・S-M2	※1.5	・M4S	・S-F1		※1.2	※製造所の仕様による	※製造所の仕様による	・	改修用ドレン・設ける	・S4S	・S-F2	※2.0	・M4S	・S-M1		※1.5	※製造所の仕様による	※製造所の仕様による	・	改修用ドレン・設ける	・S4S	・S-M2	※1.5	・POSI	・SI-F1		※1.2	※製造所の仕様による	※製造所の仕様による	・	改修用ドレン・設ける	・S3SI	・SI-F2	※2.0	・S4SI	・SI-M1		※1.5	※製造所の仕様による	※製造所の仕様による	・	改修用ドレン・設ける	・M4SI	・SI-M2	※1.5	・P1S	・S-C1		※1.0				立上り保護モルタルの塗厚・図示・7mm	工法	材料	厚さ	機械的固定工法	JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材	・	接着工法	JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材2種1号又は2号	・	接着工法	JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材2種1号又は2号	・	接着工法	JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材2種1号又は2号	・
備品の種類	機・椅子	書棚	黒板	PC	掛時計																																																																																																																																																																																																																												
数量	組	台	枚	台	個																																																																																																																																																																																																																												
備品の種類	温度計	ゴム長靴	雨がっぱ	保護帽	懐中電灯																																																																																																																																																																																																																												
数量	個	足	着	個	個																																																																																																																																																																																																																												
備品の種類	衣類ロッカー	冷暖房機器	消火器	湯沸器	加入電話付機器																																																																																																																																																																																																																												
数量	人用	台	個	台	台																																																																																																																																																																																																																												
備品の種類	掃除具																																																																																																																																																																																																																																
数量	個																																																																																																																																																																																																																																
工法	種別	施工箇所	保護層																																																																																																																																																																																																																														
・P1E	・E-2		・設ける																																																																																																																																																																																																																														
・P2E	※E-2		・設けない																																																																																																																																																																																																																														
工法	種別	施工箇所	断熱材	仕上塗料	備考																																																																																																																																																																																																																												
・M4AS	・AS-T1			・高日射反射率塗料の適用	※製造所の指定による																																																																																																																																																																																																																												
	・AS-T2																																																																																																																																																																																																																																
	・AS-T3																																																																																																																																																																																																																																
・M3AS	・AS-T3			・高日射反射率塗料の適用	※製造所の指定による																																																																																																																																																																																																																												
	・AS-T4																																																																																																																																																																																																																																
	・AS-J1																																																																																																																																																																																																																																
・POAS	・AS-J1			・高日射反射率塗料の適用	改修用ドレン・設ける																																																																																																																																																																																																																												
	・AS-J2																																																																																																																																																																																																																																
	・AS-J3																																																																																																																																																																																																																																
・M3ASI	・ASI-T1		JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材	・高日射反射率塗料の適用	改修用ドレン・設ける																																																																																																																																																																																																																												
	・ASI-J1		※硬質ウレタンフォーム断熱材2種1号又は2号																																																																																																																																																																																																																														
・M4ASI			厚さ： mm		・設けない																																																																																																																																																																																																																												
・POASI			※図示		・設けない																																																																																																																																																																																																																												
工法	種別	施工箇所	厚さ(mm)	種類	仕上塗料	高日射反射率塗料の適用	備考																																																																																																																																																																																																																										
・POS	・S-F1		※1.2	※製造所の仕様による	※製造所の仕様による	・	改修用ドレン・設ける																																																																																																																																																																																																																										
	・S4S	・S-F2	※2.0																																																																																																																																																																																																																														
・S3S	・S-M1		※1.5	※製造所の仕様による	※製造所の仕様による	・	改修用ドレン・設ける																																																																																																																																																																																																																										
	・S4S	・S-M2	※1.5																																																																																																																																																																																																																														
・M4S	・S-F1		※1.2	※製造所の仕様による	※製造所の仕様による	・	改修用ドレン・設ける																																																																																																																																																																																																																										
	・S4S	・S-F2	※2.0																																																																																																																																																																																																																														
・M4S	・S-M1		※1.5	※製造所の仕様による	※製造所の仕様による	・	改修用ドレン・設ける																																																																																																																																																																																																																										
	・S4S	・S-M2	※1.5																																																																																																																																																																																																																														
・POSI	・SI-F1		※1.2	※製造所の仕様による	※製造所の仕様による	・	改修用ドレン・設ける																																																																																																																																																																																																																										
	・S3SI	・SI-F2	※2.0																																																																																																																																																																																																																														
・S4SI	・SI-M1		※1.5	※製造所の仕様による	※製造所の仕様による	・	改修用ドレン・設ける																																																																																																																																																																																																																										
	・M4SI	・SI-M2	※1.5																																																																																																																																																																																																																														
・P1S	・S-C1		※1.0				立上り保護モルタルの塗厚・図示・7mm																																																																																																																																																																																																																										
工法	材料	厚さ																																																																																																																																																																																																																															
機械的固定工法	JIS A 9521(建築用断熱材)に基づく発泡プラスチック断熱材	・																																																																																																																																																																																																																															
接着工法	JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材2種1号又は2号	・																																																																																																																																																																																																																															
接着工法	JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材2種1号又は2号	・																																																																																																																																																																																																																															
接着工法	JIS A 9521に基づく発泡プラスチック断熱材2種1号又は2号	・																																																																																																																																																																																																																															
28 完成時の提出図書	※現場説明書による。 ○完成図(作成範囲・配置図 ○平面図・立面図 ○断面図 ○仕上表) [1.9.1][1.9.2] ○完成図(CADデータの提出 ※する(CD-R等) ・しない) ○保全に関する資料(提出部数 ※2部 ・部) [1.9.3] 上記のほか、使用材料のメーカー名、品番、色(マンセル値等)をCADデータ等で監督職員に提出する。 また、工種別下請負者の一覧表を提出する。 ○施工図、施工計画書 [1.9.2] 提出した施工図及び施工計画書の著作に係る当該建物に限る使用権は、発注者に移譲するものとする。	6 工事用水・電力	構内既存の施設(用水) ○利用できる (※有償 ・無償) ※利用できない 構内既存の施設(電力) ○利用できる (※有償 ・無償) ※利用できない 構内既存の施設を利用できる場合で、無償の場合は、下記a)～c)による。 a) 既存設備の水栓等から直接水を使用する場合は、監督職員と協議する。 b) 既存のコンセントから直接電力を使用する場合は、監督職員と協議する。 c) 工事用電源を既存建築物から分岐する場合は、原則、既設分電盤の共用回路のコンセントからとする。なお、接続する回路の負荷状態等を確認し、既設負荷への波及がないようにする。 また、漏電遮断器付コンセント等を使用し、安全の確保を図る。 構内既存の施設を利用できる場合で、有償の場合は、上記a)～c)に下記d)～e)を加える。 d) 工事用水は、既存設備に量水器を設けて、仮設配管を施し使用するものとする。 e) 工事用電力は、原則、既存設備に電力計を設けて、仮設配電盤を設置し、使用するものとする。 四国電力送配電網などの架空線に防護管の設置が必要な場合は、監督職員と協議する。 ※図示 ※原形の復旧 ・良土にて設計地盤まで盛土整地する。 範囲(図示) 厚さ() [2.5.1]	5 合成高分子系ルーフィングシート防水																																																																																																																																																																																																																													
29 完成写真	下表のものを監督職員に提出する。 <table border="1"> <tr><th>位置</th><th>分類・規格</th><th>撮影枚数</th><th>部数</th><th>原版の大きさ(mm)</th></tr> <tr><td>・各室</td><td>手札版(L版)</td><td>※2枚</td><td>枚※1部</td><td>・100×125以上</td></tr> <tr><td>・外部</td><td>キャビネ版</td><td>※4枚</td><td>枚※1部</td><td>・24×36以上</td></tr> <tr><td>・外部</td><td>半切パネル(木製枠※アルミ枠)</td><td>※1枚</td><td>枚※1部</td><td></td></tr> <tr><td>・</td><td>スライド</td><td>※1部</td><td>部</td><td></td></tr> </table> カラー・電子データ化(CD-R等)し、すべて提出する。 撮影箇所は監督職員と協議する。 上表のほか、監督職員指示の箇所をデジタルカメラにて撮影し、CD-R等にて提出する。 画像形式等 フォーマット：JPEG 画質：標準 画像サイズ：1024×768ピクセル程度	位置	分類・規格	撮影枚数	部数	原版の大きさ(mm)	・各室	手札版(L版)	※2枚	枚※1部	・100×125以上	・外部	キャビネ版	※4枚	枚※1部	・24×36以上	・外部	半切パネル(木製枠※アルミ枠)	※1枚	枚※1部		・	スライド	※1部	部		7 仮囲い		5 合成高分子系ルーフィングシート防水																																																																																																																																																																																																				
位置	分類・規格	撮影枚数	部数	原版の大きさ(mm)																																																																																																																																																																																																																													
・各室	手札版(L版)	※2枚	枚※1部	・100×125以上																																																																																																																																																																																																																													
・外部	キャビネ版	※4枚	枚※1部	・24×36以上																																																																																																																																																																																																																													
・外部	半切パネル(木製枠※アルミ枠)	※1枚	枚※1部																																																																																																																																																																																																																														
・	スライド	※1部	部																																																																																																																																																																																																																														
30 別途設備工事との取合い	施工範囲 ・貫通孔、開口部の補強 ※下表 ・図示 ・壁、天井の仕上材、下地材の切込み及び下地材の補強 ※下表 ・図示 ・駆動装置が電動による建具類の2次配線及び操作スイッチ ・自動閉鎖装置取付け箇所の切込み及び補強 <table border="1"> <tr><th>補強種別</th><th>内容</th></tr> <tr><td rowspan="3">貫通孔、開口部の補強</td><td>梁</td></tr> <tr><td>壁</td></tr> <tr><td>スラブ</td></tr> <tr><td>壁切込み及び補強</td><td></td></tr> <tr><td>天井切込み及び補強</td><td></td></tr> </table>	補強種別	内容	貫通孔、開口部の補強	梁	壁	スラブ	壁切込み及び補強		天井切込み及び補強		8 仮設物撤去後の整地・跡片付け		5 合成高分子系ルーフィングシート防水																																																																																																																																																																																																																			
補強種別	内容																																																																																																																																																																																																																																
貫通孔、開口部の補強	梁																																																																																																																																																																																																																																
	壁																																																																																																																																																																																																																																
	スラブ																																																																																																																																																																																																																																
壁切込み及び補強																																																																																																																																																																																																																																	
天井切込み及び補強																																																																																																																																																																																																																																	
31 撤去部分	コンクリート、モルタル等の撤去部分の境目は、原則としてダイヤモンドカッター切りとする。	防水改修工事	1 降雨等に対する養生方法 ※3.1.3(5)による [3.1.3] 2 既存下地の処理 既存下地の補修箇所、範囲、数量等 ※図示 [3.2.6] 設備機器架台、配管受部、パラペット、貫通パイプ回り、手すり・丸環の取付け部、塔屋出入口部、防水層末端部等の納まり部の処理 ※図示(図示のない場合は監督職員と協議による) ・製造所の仕様による	5 合成高分子系ルーフィングシート防水																																																																																																																																																																																																																													
32 不当要求等への対応	暴力団又は暴力団関係者からの不当要求又は工事妨害(以下この文において「不当介入」という。)の排除については次による。 a) 受注者は、暴力団又は暴力団関係者からの工事の施工に関して不当介入を受けたときは、その旨を直ちに監督職員に報告し、所轄の警察署に届出なければならない。 b) 受注者は、不当介入による被害を受けたときは、その旨を直ちに監督職員に報告し、所轄の警察署に届出なければならない。 c) 受注者は、監督職員及び所轄警察署と協力して、不当介入の排除処理を講じなければならない。 d) 受注者が、不当介入の報告を怠った場合は、「高知市競争入札指名停止措置要綱」に基づき、指名停止措置を行うものとする。	1 屋根保護防水 防水層の種類別 <table border="1"> <tr><th>工法</th><th>種別</th><th>施工箇所</th><th>断熱材の厚さ</th><th>絶縁用シート</th><th>立上り部の保護</th></tr> <tr><td rowspan="3">・P2A</td><td>・A-1</td><td></td><td rowspan="3">厚さ： mm</td><td rowspan="3">※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上</td><td rowspan="3">・乾式保護材</td></tr> <tr><td>・A-2</td><td></td></tr> <tr><td>・A-3</td><td></td></tr> <tr><td rowspan="2">・P1B</td><td>・B-1</td><td></td><td rowspan="2">厚さ： mm</td><td rowspan="2">※フラットヤンクス(70g/m2程度)</td><td rowspan="2">・れんが押え</td></tr> <tr><td>・B-2</td><td></td></tr> <tr><td rowspan="3">・P2AI</td><td>・AI-1</td><td></td><td rowspan="3">厚さ： mm</td><td rowspan="3">※フラットヤンクス(70g/m2程度)</td><td rowspan="3">・コンクリート押え</td></tr> <tr><td>・AI-2</td><td></td></tr> <tr><td>・AI-3</td><td></td></tr> <tr><td rowspan="2">・P1BI</td><td>・BI-1</td><td></td><td rowspan="2">厚さ： mm</td><td rowspan="2">※フラットヤンクス(70g/m2程度)</td><td rowspan="2">・</td></tr> <tr><td>・BI-2</td><td></td></tr> </table> 改質アスファルトルーフィングシートの種類及び厚さ [3.3.2] ※表3.3.5及び表3.3.6による 絶縁工法のルーフィングの材料 [3.3.2] ・部分粘着層付改質アスファルトルーフィングシート 種類及び厚さ ※表3.3.3及び表3.3.4による ・砂付あなきルーフィング 押え金物の材質及び形状 ※図示 ・アルミニウム製、L-30×15×2.0(mm)程度 [3.3.2] 乾式保護材 ・窯業系パネル(・I種 ※II種) ・金属複合板 [3.3.5] 製造所 評価名簿による 立上り部等の断熱材及び絶縁用シートの設置 [表3.3.4][表3.3.5] ・適用する ・適用しない 平場の保護コンクリート [3.3.5] こて仕上げの場合 ※80mm以上 床タイル張り等仕上げの場合 ※60mm以上 コンクリートの仕上りの平たんさ [3.3.5][表8.1.5] ※a種 ・b種 ・c種 屋上排水溝 [3.3.5]	工法	種別	施工箇所	断熱材の厚さ	絶縁用シート	立上り部の保護	・P2A	・A-1		厚さ： mm	※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上	・乾式保護材	・A-2		・A-3		・P1B	・B-1		厚さ： mm	※フラットヤンクス(70g/m2程度)	・れんが押え	・B-2		・P2AI	・AI-1		厚さ： mm	※フラットヤンクス(70g/m2程度)	・コンクリート押え	・AI-2		・AI-3		・P1BI	・BI-1		厚さ： mm	※フラットヤンクス(70g/m2程度)	・	・BI-2		5 合成高分子系ルーフィングシート防水																																																																																																																																																																																				
工法	種別	施工箇所	断熱材の厚さ	絶縁用シート	立上り部の保護																																																																																																																																																																																																																												
・P2A	・A-1		厚さ： mm	※ポリエチレンフィルム厚さ0.15mm以上	・乾式保護材																																																																																																																																																																																																																												
	・A-2																																																																																																																																																																																																																																
	・A-3																																																																																																																																																																																																																																
・P1B	・B-1		厚さ： mm	※フラットヤンクス(70g/m2程度)	・れんが押え																																																																																																																																																																																																																												
	・B-2																																																																																																																																																																																																																																
・P2AI	・AI-1		厚さ： mm	※フラットヤンクス(70g/m2程度)	・コンクリート押え																																																																																																																																																																																																																												
	・AI-2																																																																																																																																																																																																																																
	・AI-3																																																																																																																																																																																																																																
・P1BI	・BI-1		厚さ： mm	※フラットヤンクス(70g/m2程度)	・																																																																																																																																																																																																																												
	・BI-2																																																																																																																																																																																																																																
33 消防計画	工事の着手にあたり、火災等の災害の予防や、使用部分と工事部分の安全を確保するため、別契約の関連工事業者と協議の上、「工事中の消防計画書」を作成し、当該施設の防火管理者の承諾を得て届出を行う。	2 仮設工事(改修)	1 足場その他 内部足場 ☉きやつ、足場板等 ○本足場 [2.1.3][2.2.1][表2.2.1] 外部足場 ※本足場 外部足場の養生 ※図示 ・防護シート ・メッシュシート ○防音シート ・防音パネル 内部足場(きやつ除く)の養生 ※粉塵対策を十分に行うため、合板張りのうへビニールシート程度の養生とし、縦目、床、天井等との隙間には養生テープで目張りを行うこと。 材料、撤去材の運搬方法 ・A種 ☉B種 ・C種 ○D種 ○E種 C種の場合 利用可能なエレベーター(※図示)) D種の場合 利用可能な階段(※図示) ○A、B階段) ・屋上防水作業の端部には、墜落防止手摺等墜落の危険を防止する措置を講ずる。 本足場を設ける場合は、公共建築改修工事標準仕様書2.2.1(2)によるほか、足場の組立、解体又は変更の作業は、「手すり先行工法による足場の組立て等に関する基準」により行うこと。 ○既存部分の養生 ※ビニールシート、合板等 [2.3.1] ○既存家具、既存設備等の養生 ※ビニールシート等 ・既存ブラインド、カーテン等の養生、保管場所 ※図示 ・固定された備品等の移動 ※図示 ・開口部養生 窓等の破損の危険がある工事を行う場合は、施工を行う周辺及びその下部の窓等には、室内に破損物等が飛散しない様、堅固な養生を行う。	3 仮設間仕切り(屋内)																																																																																																																																																																																																																													
34 工事特性等	受注者は、自ら立案した工事特性、創意工夫、社会性等のそれぞれの評価項目について、実施しようとする場合は、事前に計画内容を所定の様式で監督職員に提出する。 また、実施後、工事完成時までに所定の様式に実施状況の分かる図面や状況写真等を添付して監督職員に提出する。	3 アスファルト防水	2 養生 設置箇所 ※図示 [2.3.2][表2.3.1] 間仕切り種別 ・A種 ○B種 ※C種 A種、B種の場合 仕上げの材種 ※せつこうボード 厚さ9.5mm ・合板(普通合板)厚さ9.0mm 塗装仕上げ等 ・行う ※行わない 仮設間仕切りの養生 ※粉塵対策を十分に行うため、各ボードの縦目、床、天井等との隙間には養生テープ等で目張りを行うこと。 仮設扉設置箇所 ※図示 ○監督職員と協議のうえ決定 仮設扉種別 ○合板張り木製扉程度 ・図示 ・設ける (m程度) ※設けない	3 仮設間仕切り(屋内)																																																																																																																																																																																																																													
35 撤去部分			3 仮設間仕切り(屋内)																																																																																																																																																																																																																														
36 不当要求等への対応			3 仮設間仕切り(屋内)																																																																																																																																																																																																																														
37 消防計画			3 仮設間仕切り(屋内)																																																																																																																																																																																																																														
38 工事特性等			3 仮設間仕切り(屋内)																																																																																																																																																																																																																														
39 仮設工事(改修)			3 仮設間仕切り(屋内)																																																																																																																																																																																																																														
40 足場その他			3 仮設間仕切り(屋内)																																																																																																																																																																																																																														
41 養生			3 仮設間仕切り(屋内)																																																																																																																																																																																																																														
42 仮設間仕切り(屋内)			3 仮設間仕切り(屋内)																																																																																																																																																																																																																														
43 監督職員事務所			3 仮設間仕切り(屋内)																																																																																																																																																																																																																														
株式会社日産技術コンサルタント 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (子) 第10818号 大阪府中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号		受注者 株式会社日産技術コンサルタント 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (子) 第10818号 大阪府中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号		工事名 潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)																																																																																																																																																																																																																													
図面番号 AT-02		図面名 改修特記仕様書(2) 2024.04 縮尺 1/		係 係長 課長補佐 課長 図面番号																																																																																																																																																																																																																													
				作図 年 月 日																																																																																																																																																																																																																													

項目	特記事項																																								
6 塗膜防水	防水層の種類 [3.6.3][表3.6.1~表3.6.3] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">工法</th> <th rowspan="2">種別</th> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th colspan="2">仕上塗料</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>種類</th> <th>使用量</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">POX ・X-1 ・X-1H ・L4X</td> <td rowspan="2">■</td> <td rowspan="2">■</td> <td>※2成分形アクリル樹脂系</td> <td>※製造所の仕様による</td> <td rowspan="2">改修用ドレン ・ 設けない ○設けない</td> </tr> <tr> <td>カチオン樹脂系 ・ 有機シリコン樹脂系</td> <td></td> </tr> <tr> <td>P1Y ・P2Y</td> <td>※Y-2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>保護層 ・ 設ける ・ 設けない</td> </tr> </tbody> </table> <p>高日射反射率塗料の適用</p> <p>施設工における脱気装置の種類及び設置数量 ※主材料の製造所の仕様による [3.6.3] ウレタン防水材 ※化学物質MOCAを含有しないもの</p>	工法	種別	施工箇所	仕上塗料		備考	種類	使用量	POX ・X-1 ・X-1H ・L4X	■	■	※2成分形アクリル樹脂系	※製造所の仕様による	改修用ドレン ・ 設けない ○設けない	カチオン樹脂系 ・ 有機シリコン樹脂系		P1Y ・P2Y	※Y-2				保護層 ・ 設ける ・ 設けない																		
工法	種別				施工箇所	仕上塗料		備考																																	
		種類	使用量																																						
POX ・X-1 ・X-1H ・L4X	■	■	※2成分形アクリル樹脂系	※製造所の仕様による	改修用ドレン ・ 設けない ○設けない																																				
			カチオン樹脂系 ・ 有機シリコン樹脂系																																						
P1Y ・P2Y	※Y-2				保護層 ・ 設ける ・ 設けない																																				
7 FRP防水	ガラスマット ・ 1層タイプ ・ 2層タイプ 表面の仕上げ ・ 平滑 ・ 粗面 押え金物の材質 ※アルミニウム 押え金物の寸法 ※図示																																								
8 シーリング	シーリング改修工法の種類 [3.1.4][3.7.4~3.7.7][表3.1.2] ○シーリング充填工法 ○シーリング再充填工法 ・ 拡幅シーリング再充填工法 ・ブリッジ工法 ・ボンドプレーカー張り ・ 適用する [3.7.7] ・エッジング材張り ・ 適用する シーリング材の種類、施工箇所 [3.1.4][3.7.2][表3.7.1] ※下表による(下表以外は表3.7.1による) <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類(記号)</th> <th>主成分による区分</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・SR-1</td> <td rowspan="2">シリコーン系</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>・SR-2</td> </tr> <tr> <td>○MS-2</td> <td>変成シリコーン系</td> <td>図示</td> </tr> <tr> <td>○PS-2</td> <td>ポリサルファイド系</td> <td>図示</td> </tr> <tr> <td>・PU-2</td> <td>ポリウレタン系</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>仕上げを行わない箇所 () [表3.7.1] シーリング材の目地寸法 [3.7.3] <table border="1"> <thead> <tr> <th>箇所</th> <th>寸法</th> <th>目地</th> <th>左記以外の目地</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>幅(mm)</td> <td>※20以上</td> <td>※幅及び深さ5以上[5.13]</td> <td>※10以上</td> </tr> <tr> <td>深さ(mm)</td> <td>※10以上</td> <td>※3]による場合を除く)</td> <td>※10以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>接着性試験 [3.7.8] ※ 簡易接着性試験 ・ 引張接着性試験 材料 [3.8.2][表3.8.1] <table border="1"> <thead> <tr> <th>材種</th> <th>寸法</th> <th>施工箇所</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・硬質ポリ塩化ビニル管(VP)</td> <td></td> <td>※たてどい</td> </tr> <tr> <td>○硬質ポリ塩化ビニル管カラー(カラーVP)</td> <td>φ100</td> <td>※たてどい</td> </tr> <tr> <td>・硬質塩化ビニル雨どい</td> <td></td> <td>※軒どい ・ たてどい</td> </tr> </tbody> </table> <p>とい受金物及び足金物の材種、形状及び取付け間隔 [3.8.2] 材種：※ステンレス製 ・ 溶融亜鉛めっき その他：※表3.8.2による 防露材のホルムアルデヒド放出量 ※F☆☆☆☆ [3.8.2] 既存のといその他の撤去 ※図示 [3.8.3] 降雨等に対する養生方法 ※監督職員と協議による ・ 図示 鋼管製といの防露巻き ※表3.8.4による たてどい受金物の取付け ・ 図示 ルーフドレンの取付け ・ 水はけがよく、床面より下げ、周囲の隙間にモルタルを充填する。</p> </p></p>	種類(記号)	主成分による区分	施工箇所	・SR-1	シリコーン系		・SR-2	○MS-2	変成シリコーン系	図示	○PS-2	ポリサルファイド系	図示	・PU-2	ポリウレタン系		箇所	寸法	目地	左記以外の目地	幅(mm)	※20以上	※幅及び深さ5以上[5.13]	※10以上	深さ(mm)	※10以上	※3]による場合を除く)	※10以上	材種	寸法	施工箇所	・硬質ポリ塩化ビニル管(VP)		※たてどい	○硬質ポリ塩化ビニル管カラー(カラーVP)	φ100	※たてどい	・硬質塩化ビニル雨どい		※軒どい ・ たてどい
種類(記号)	主成分による区分	施工箇所																																							
・SR-1	シリコーン系																																								
・SR-2																																									
○MS-2	変成シリコーン系	図示																																							
○PS-2	ポリサルファイド系	図示																																							
・PU-2	ポリウレタン系																																								
箇所	寸法	目地	左記以外の目地																																						
幅(mm)	※20以上	※幅及び深さ5以上[5.13]	※10以上																																						
深さ(mm)	※10以上	※3]による場合を除く)	※10以上																																						
材種	寸法	施工箇所																																							
・硬質ポリ塩化ビニル管(VP)		※たてどい																																							
○硬質ポリ塩化ビニル管カラー(カラーVP)	φ100	※たてどい																																							
・硬質塩化ビニル雨どい		※軒どい ・ たてどい																																							
9 とい	アルミニウム製笠木 種類 ・ オープン形式(・ 押出250形 ・ 押出300形 ・ 押出350形) [3.9.2][表3.9.1] ・ 板材折曲げ形(・ オープン形式 ・ シール形式) 本体幅()mm 板厚(※2.0)mm 表面処理 種別 表5.2.2による()種 色合い等 ※標準色 既存の笠木等の撤去 ・ 行う(範囲 ※図示) ・ 行わない ・ 一時取外し再取付け[3.9.3] 新規アルミニウム製笠木の下の補修工法 ※図示 板材折曲げ形笠木の取付方法 ※図示 笠木の固定金具の固定工法 建築基準法に基づく風圧力の(※1 ・ 1.15 ・ 1.3)倍の風圧力に対応した工法																																								
10 アルミニウム製笠木	保証書(シーリング除く) 受注者、施工者、材料製造所連名による 10年保証(完成届提出日より15日後から)																																								
11 保証書	高日射反射率塗料塗り JIS K 5675(屋根用高日射反射率塗料)に適合するもの、または、グリーン購入法の高日射反射率防水に適合する保護塗料とする。																																								
12 高日射反射率塗料塗り																																									

項目	特記事項																																																																																							
エポキシ樹脂モルタル [4.2.4] JIS A 6024による	<table border="1"> <thead> <tr> <th>だれ</th> <th>接着強度(MPa)</th> <th>圧縮強度(MPa)</th> <th>曲げ強度(MPa)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>形状に異常がなく、だれが生じないこと</td> <td>1.0以上</td> <td>20.0以上</td> <td>10.0以上 (3日後の値)</td> </tr> </tbody> </table> <p>1)ここで塗りやすいこと、かつ、硬化後の仕上がり良好であること。 2)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 3)「労働安全衛生法」に基づく「有機溶剤中毒予防規則」に規定された第一種有機溶剤を使用しないこと。 4)常温常湿(温度20±15℃、湿度65±20%)において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月間保存した後であっても、品質・性能が上記の各項目の規定に適合していること。</p> <p>ポリマーセメントモルタル [4.2.4] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">下がり量</th> <th rowspan="2">表面状態</th> <th rowspan="2">曲げ強度(N/mm2)</th> <th rowspan="2">圧縮強度(N/mm2)</th> <th colspan="3">接着強度(N/mm2)</th> </tr> <tr> <th>標準条件</th> <th>高温時</th> <th>低温時</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>5mm以内</td> <td>ひびわれの発生がないこと</td> <td>6.0以上</td> <td>20.0以上</td> <td>1.0以上</td> <td>0.8以上</td> <td>0.5以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>1)透水性 裏面のぬれ、水滴の付着がないこと。 2)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 3)ポリマーセメントモルタルに用いる高分子エマルジョンは、常温常湿において製造後6ヶ月間保存しても変質しないこと。</p> <p>ポリマーセメントスラリー [4.3.5] <table border="1"> <thead> <tr> <th>拡がり速さ(cm/s)</th> <th>長さ変化率(収縮)(%)</th> <th>引張接着性(材齢28日)(N/mm2)</th> <th>曲げ強度(材齢28日)(N/mm2)</th> <th>吸水率(72時間)(%)</th> <th>劣化曲げ強度(N/mm2)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3以上</td> <td>3以下</td> <td>0.49以上</td> <td>4.9以上</td> <td>15以下</td> <td>4.9以上</td> </tr> </tbody> </table> <p>1)保水係数 0.35~0.55 2)粘着係数 0.50~1.00 3)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 4)ポリマーセメントスラリー用の材料は、常温常湿において製造後6ヶ月間保存しても変質しないこと。</p> <p>既調合モルタル [4.3.10] モルタル下地としたタイル工事に使用する張付け用モルタルとして、セメント、細骨材、混和材等を予め工場において所定の割合に配合した材料とする。 <table border="1"> <thead> <tr> <th>保水率(%)</th> <th>単位容積質量(kg/L)</th> <th>接着強度(標準養生 温冷養生後)</th> <th>長さ変化率(%)</th> <th>曲げ強度(N/mm2)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>70.0以上</td> <td>1.8以上</td> <td>0.6N/mm2以上</td> <td>0.4%/mm2以上</td> <td>0.2以下</td> </tr> </tbody> </table> <p>外壁改修工事 1 ひび割れ部改修工法 ※樹脂注入工法 [4.2.5] <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>ひび割れ幅(mm)</th> <th>注入間隔(mm)</th> <th>注入量(mL/m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上1.0以下</td> <td>※200~300</td> <td>※製造所の仕様・130</td> </tr> <tr> <td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>・50~100</td> <td>※40</td> </tr> <tr> <td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>・100~200</td> <td>※70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0以下</td> <td>・150~250</td> <td>※130</td> </tr> </tbody> </table> <p>コア抜き検査 ※行わない ・行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による)</p> <p>・Uカットシール材充填工法 [4.2.6] ・シーリング材 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない ・可とう性エポキシ樹脂</p> <p>・シール工法 [4.2.7] ・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂</p> <p>※充填工法 [4.2.8] ※エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル</p> <p>外壁改修工事 1 ひび割れ部改修工法 ※樹脂注入工法 [4.2.5(1)~(5)][4.3.6] <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>ひび割れ幅(mm)</th> <th>注入間隔(mm)</th> <th>注入量(mL/m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上1.0以下</td> <td>※200~300</td> <td>※製造所の仕様・130</td> </tr> <tr> <td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>・50~100</td> <td>※40</td> </tr> <tr> <td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>・100~200</td> <td>※70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0以下</td> <td>・150~250</td> <td>※130</td> </tr> </tbody> </table> <p>コア抜き検査 ※行わない ・行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による)</p> <p>・Uカットシール材充填工法 [4.2.6][4.3.7] ・シーリング材 充填材料 ※1成分形又は2成分形ポリウレタン系 ポリマーセメントモルタルの充填 ※行う ・行わない ・可とう性エポキシ樹脂</p> <p>・シール工法 [4.2.7][4.3.8] ・パテ状エポキシ樹脂 ・可とう性エポキシ樹脂</p> <p>※充填工法 [4.2.8(3)(4)][4.3.9] ※エポキシ樹脂モルタル ・ポリマーセメントモルタル</p> <p>・モルタル塗替え工法 [4.3.10] 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ステンレス製アンカーピン縦横φ200打込、ステンレス製ラス等張り ・ 図示</p> </p></p></p></p></p>	だれ	接着強度(MPa)	圧縮強度(MPa)	曲げ強度(MPa)	形状に異常がなく、だれが生じないこと	1.0以上	20.0以上	10.0以上 (3日後の値)	下がり量	表面状態	曲げ強度(N/mm2)	圧縮強度(N/mm2)	接着強度(N/mm2)			標準条件	高温時	低温時	5mm以内	ひびわれの発生がないこと	6.0以上	20.0以上	1.0以上	0.8以上	0.5以上	拡がり速さ(cm/s)	長さ変化率(収縮)(%)	引張接着性(材齢28日)(N/mm2)	曲げ強度(材齢28日)(N/mm2)	吸水率(72時間)(%)	劣化曲げ強度(N/mm2)	3以上	3以下	0.49以上	4.9以上	15以下	4.9以上	保水率(%)	単位容積質量(kg/L)	接着強度(標準養生 温冷養生後)	長さ変化率(%)	曲げ強度(N/mm2)	70.0以上	1.8以上	0.6N/mm2以上	0.4%/mm2以上	0.2以下	種類	ひび割れ幅(mm)	注入間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※200~300	※製造所の仕様・130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・50~100	※40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	・100~200	※70		0.5以上1.0以下	・150~250	※130	種類	ひび割れ幅(mm)	注入間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※200~300	※製造所の仕様・130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・50~100	※40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	・100~200	※70		0.5以上1.0以下	・150~250	※130
だれ	接着強度(MPa)	圧縮強度(MPa)	曲げ強度(MPa)																																																																																					
形状に異常がなく、だれが生じないこと	1.0以上	20.0以上	10.0以上 (3日後の値)																																																																																					
下がり量	表面状態	曲げ強度(N/mm2)	圧縮強度(N/mm2)	接着強度(N/mm2)																																																																																				
				標準条件	高温時	低温時																																																																																		
5mm以内	ひびわれの発生がないこと	6.0以上	20.0以上	1.0以上	0.8以上	0.5以上																																																																																		
拡がり速さ(cm/s)	長さ変化率(収縮)(%)	引張接着性(材齢28日)(N/mm2)	曲げ強度(材齢28日)(N/mm2)	吸水率(72時間)(%)	劣化曲げ強度(N/mm2)																																																																																			
3以上	3以下	0.49以上	4.9以上	15以下	4.9以上																																																																																			
保水率(%)	単位容積質量(kg/L)	接着強度(標準養生 温冷養生後)	長さ変化率(%)	曲げ強度(N/mm2)																																																																																				
70.0以上	1.8以上	0.6N/mm2以上	0.4%/mm2以上	0.2以下																																																																																				
種類	ひび割れ幅(mm)	注入間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																					
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※200~300	※製造所の仕様・130																																																																																					
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・50~100	※40																																																																																					
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	・100~200	※70																																																																																					
	0.5以上1.0以下	・150~250	※130																																																																																					
種類	ひび割れ幅(mm)	注入間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																					
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0以下	※200~300	※製造所の仕様・130																																																																																					
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・50~100	※40																																																																																					
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	・100~200	※70																																																																																					
	0.5以上1.0以下	・150~250	※130																																																																																					
2 欠損部改修工法	外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ 1 ひび割れ部改修工法																																																																																							
2 欠損部改修工法	外壁改修工事 モルタル塗り仕上げ 1 ひび割れ部改修工法																																																																																							

項目	特記事項																																																																																																																																																																																																																																																																	
3 浮き部改修工法	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">改修工法の種類</th> <th colspan="3">アンカーピンの本数</th> <th colspan="3">注入口の箇所数</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>一般部分本/m2</th> <th>指定部分本/m2</th> <th>狭幅部分本/m2</th> <th>一般部分指定部分箇所/m2</th> <th>狭幅部分箇所/m2</th> <th>狭幅部分箇所/m2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・アンカーピンニング</td> <td>※16</td> <td>※25</td> <td>※5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※5</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※5</td> <td>注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>注入量 ※50mL</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※5</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※5</td> <td>注入量 ※50mL</td> </tr> <tr> <td>全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>注入量 ※26mL</td> </tr> <tr> <td>部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5</td> <td>注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>注入量 ※50mL</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5</td> <td>注入量 ※50mL</td> </tr> </tbody> </table> <p>アンカーピン ※ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの。 [4.3.11~16] 注入口付アンカーピン [4.3.5] ※ステンレス鋼(SUS304)呼び径6mm [4.3.5] ・充填工法 [4.2.6][4.3.7] 材料 ※エポキシ樹脂モルタル ・ ポリマーセメントモルタル [4.3.10] ・モルタル塗替え工法 仕上げ厚又は全塗厚が25mmを超える場合の処置 ※ステンレス製アンカーピン縦横φ200打込、ステンレス製ラス等張り ・ 図示</p> <p>外壁改修工事 1 ひび割れ部改修工法 1 タイル材料 タイルの形状、寸法等 [4.4.5] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">施工箇所</th> <th rowspan="2">形状寸法(mm)</th> <th colspan="3">吸水率の区分</th> <th rowspan="2">色</th> <th rowspan="2">耐凍害性</th> <th rowspan="2">耐滑り性</th> <th rowspan="2">役物の適用</th> <th rowspan="2">品質(公表単価(円/m2))</th> </tr> <tr> <th>I類</th> <th>II類</th> <th>III類</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </tbody> </table> <p>標準的な曲がりの役物は一体成形とする。 タイルの試験張り ※行わない ・ 行う [4.4.8] タイルの見本焼き ※行わない ・ 行う [4.4.8]</p> <p>2 ひび割れ部改修工法 ※樹脂注入工法 [4.2.5][4.4.2][4.4.6] <table border="1"> <thead> <tr> <th>種類</th> <th>ひび割れ幅(mm)</th> <th>注入間隔(mm)</th> <th>注入量(mL/m)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上1.0未満</td> <td>※200~300</td> <td>※製造所の仕様・130</td> </tr> <tr> <td>・手動式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.2以上0.3未満</td> <td>・50~100</td> <td>※40</td> </tr> <tr> <td>・機械式エポキシ樹脂注入工法</td> <td>0.3以上0.5未満</td> <td>・100~200</td> <td>※70</td> </tr> <tr> <td></td> <td>0.5以上1.0以下</td> <td>・150~250</td> <td>※130</td> </tr> </tbody> </table> <p>コア抜き検査 ※行わない ・行う(長さ500mごと及びその端数につき1個。補修方法は図示による)</p> <p>3 欠損部改修工法 ・タイル部分張替え工法 [4.4.5][4.4.7] 張付け材料の種類 ・ポリマーセメントモルタル ・有機系接着剤 ※JIS A 5557による一液反応硬化形成シリコーン樹脂系 ・タイル張替え工法 [4.4.2][4.4.5][4.4.8] 張付けモルタル ・ 現場調合モルタル ・ 既調合モルタル 伸縮調整目地及び、ひび割れ誘発目地の位置 ※表4.4.2による ・ 図示 外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗料塗りの接着力試験 ・ 行う ・ 行わない ・セメントモルタルによるタイル張り タイル張りの工法 外装タイル ・ 密着張り ・ 改良圧着張り ・ 改良積上げ張り ユニットタイル ・ マスク張り ・ モザイクタイル張り ・有機系接着剤によるタイル張り タイルの種類 () 目地詰め ・ 行う () ・行わない () ・下地モルタル塗りを行うコンクリート素地の処理 ※目荒し工法 [4.4.8]</p> <p>4 浮き部改修工法 改修工法の種類 (タイルを撤去しない場合) [4.3.11~16][4.4.9~4.4.15] <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">改修工法の種類</th> <th colspan="3">アンカーピンの本数</th> <th colspan="3">注入口の箇所数</th> <th rowspan="2">備考</th> </tr> <tr> <th>一般部分本/m2</th> <th>指定部分本/m2</th> <th>狭幅部分本/m2</th> <th>一般部分指定部分箇所/m2</th> <th>狭幅部分箇所/m2</th> <th>狭幅部分箇所/m2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>・アンカーピンニング</td> <td>※16</td> <td>※25</td> <td>※5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※5</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※5</td> <td>注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>注入量 ※50mL</td> </tr> <tr> <td>・アンカーピンニング</td> <td>※13</td> <td>※20</td> <td>※5</td> <td>※12</td> <td>※20</td> <td>※5</td> <td>注入量 ※50mL</td> </tr> <tr> <td>全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> <td>注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>部分エポキシ樹脂注入工法</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5</td> <td>注入量 ※25mL</td> </tr> <tr> <td>全面エポキシ樹脂注入工法</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>注入量 ※50mL</td> </tr> <tr> <td>・注入口付アンカーピンニング</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5</td> <td>※9</td> <td>※16</td> <td>※5</td> <td>注入量 ※50mL</td> </tr> </tbody> </table> <p>アンカーピン ※ステンレス鋼(SUS304)呼び径4mmの丸棒で全ネジ切り加工したもの。 [4.3.5] 注入口付アンカーピン [4.3.5] ※ステンレス鋼(SUS304)呼び径6mm [4.3.5] ・タイル部分張替え工法 [4.4.7] 張付け材料の種類 ・ポリマーセメントモルタル ・有機系接着剤 ※JIS A 5557による一液反応硬化形成シリコーン樹脂系 [4.4.8] ・タイル張替え工法 [4.4.8] 張付けモルタル ・ 現場調合モルタル ・ 既調合モルタル 伸縮調整目地及び、ひび割れ誘発目地の位置 ※表4.4.2による ・ 図示 外装タイル張り下地等の下地モルタル及び下地調整塗料塗りの接着力試験 ・ 行う ・ 行わない</p> </p></p></p>	改修工法の種類	アンカーピンの本数			注入口の箇所数			備考	一般部分本/m2	指定部分本/m2	狭幅部分本/m2	一般部分指定部分箇所/m2	狭幅部分箇所/m2	狭幅部分箇所/m2	・アンカーピンニング	※16	※25	※5	-	-	-	注入量 ※25mL	部分エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・	・	注入量 ※25mL	・アンカーピンニング	※13	※20	※5	※12	※20	※5	注入量 ※25mL	全面エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・	・	注入量 ※50mL	・アンカーピンニング	※13	※20	※5	※12	※20	※5	注入量 ※50mL	全面エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・	・	注入量 ※25mL	・注入口付アンカーピンニング	※9	※16	※5	-	-	-	注入量 ※26mL	部分エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・	・	注入量 ※25mL	・注入口付アンカーピンニング	※9	※16	※5	※9	※16	※5	注入量 ※25mL	全面エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・	・	注入量 ※50mL	・注入口付アンカーピンニング	※9	※16	※5	※9	※16	※5	注入量 ※50mL	施工箇所	形状寸法(mm)	吸水率の区分			色	耐凍害性	耐滑り性	役物の適用	品質(公表単価(円/m2))	I類	II類	III類			・	・	・	・	・	・	・	・			・	・	・	・	・	・	・	・	種類	ひび割れ幅(mm)	注入間隔(mm)	注入量(mL/m)	※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200~300	※製造所の仕様・130	・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・50~100	※40	・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	・100~200	※70		0.5以上1.0以下	・150~250	※130	改修工法の種類	アンカーピンの本数			注入口の箇所数			備考	一般部分本/m2	指定部分本/m2	狭幅部分本/m2	一般部分指定部分箇所/m2	狭幅部分箇所/m2	狭幅部分箇所/m2	・アンカーピンニング	※16	※25	※5	-	-	-	注入量 ※25mL	部分エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・	・	注入量 ※25mL	・アンカーピンニング	※13	※20	※5	※12	※20	※5	注入量 ※25mL	全面エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・	・	注入量 ※50mL	・アンカーピンニング	※13	※20	※5	※12	※20	※5	注入量 ※50mL	全面エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・	・	注入量 ※25mL	・注入口付アンカーピンニング	※9	※16	※5	-	-	-	注入量 ※25mL	部分エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・	・	注入量 ※25mL	・注入口付アンカーピンニング	※9	※16	※5	※9	※16	※5	注入量 ※25mL	全面エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・	・	注入量 ※50mL	・注入口付アンカーピンニング	※9	※16	※5	※9	※16	※5	注入量 ※50mL
改修工法の種類	アンカーピンの本数			注入口の箇所数			備考																																																																																																																																																																																																																																																											
	一般部分本/m2	指定部分本/m2	狭幅部分本/m2	一般部分指定部分箇所/m2	狭幅部分箇所/m2	狭幅部分箇所/m2																																																																																																																																																																																																																																																												
・アンカーピンニング	※16	※25	※5	-	-	-	注入量 ※25mL																																																																																																																																																																																																																																																											
部分エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・	・	注入量 ※25mL																																																																																																																																																																																																																																																											
・アンカーピンニング	※13	※20	※5	※12	※20	※5	注入量 ※25mL																																																																																																																																																																																																																																																											
全面エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・	・	注入量 ※50mL																																																																																																																																																																																																																																																											
・アンカーピンニング	※13	※20	※5	※12	※20	※5	注入量 ※50mL																																																																																																																																																																																																																																																											
全面エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・	・	注入量 ※25mL																																																																																																																																																																																																																																																											
・注入口付アンカーピンニング	※9	※16	※5	-	-	-	注入量 ※26mL																																																																																																																																																																																																																																																											
部分エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・	・	注入量 ※25mL																																																																																																																																																																																																																																																											
・注入口付アンカーピンニング	※9	※16	※5	※9	※16	※5	注入量 ※25mL																																																																																																																																																																																																																																																											
全面エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・	・	注入量 ※50mL																																																																																																																																																																																																																																																											
・注入口付アンカーピンニング	※9	※16	※5	※9	※16	※5	注入量 ※50mL																																																																																																																																																																																																																																																											
施工箇所	形状寸法(mm)	吸水率の区分			色	耐凍害性	耐滑り性	役物の適用	品質(公表単価(円/m2))																																																																																																																																																																																																																																																									
		I類	II類	III類																																																																																																																																																																																																																																																														
		・	・	・	・	・	・	・	・																																																																																																																																																																																																																																																									
		・	・	・	・	・	・	・	・																																																																																																																																																																																																																																																									
種類	ひび割れ幅(mm)	注入間隔(mm)	注入量(mL/m)																																																																																																																																																																																																																																																															
※自動式低圧エポキシ樹脂注入工法	0.2以上1.0未満	※200~300	※製造所の仕様・130																																																																																																																																																																																																																																																															
・手動式エポキシ樹脂注入工法	0.2以上0.3未満	・50~100	※40																																																																																																																																																																																																																																																															
・機械式エポキシ樹脂注入工法	0.3以上0.5未満	・100~200	※70																																																																																																																																																																																																																																																															
	0.5以上1.0以下	・150~250	※130																																																																																																																																																																																																																																																															
改修工法の種類	アンカーピンの本数			注入口の箇所数			備考																																																																																																																																																																																																																																																											
	一般部分本/m2	指定部分本/m2	狭幅部分本/m2	一般部分指定部分箇所/m2	狭幅部分箇所/m2	狭幅部分箇所/m2																																																																																																																																																																																																																																																												
・アンカーピンニング	※16	※25	※5	-	-	-	注入量 ※25mL																																																																																																																																																																																																																																																											
部分エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・	・	注入量 ※25mL																																																																																																																																																																																																																																																											
・アンカーピンニング	※13	※20	※5	※12	※20	※5	注入量 ※25mL																																																																																																																																																																																																																																																											
全面エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・	・	注入量 ※50mL																																																																																																																																																																																																																																																											
・アンカーピンニング	※13	※20	※5	※12	※20	※5	注入量 ※50mL																																																																																																																																																																																																																																																											
全面エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・	・	注入量 ※25mL																																																																																																																																																																																																																																																											
・注入口付アンカーピンニング	※9	※16	※5	-	-	-	注入量 ※25mL																																																																																																																																																																																																																																																											
部分エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・	・	注入量 ※25mL																																																																																																																																																																																																																																																											
・注入口付アンカーピンニング	※9	※16	※5	※9	※16	※5	注入量 ※25mL																																																																																																																																																																																																																																																											
全面エポキシ樹脂注入工法	・	・	・	・	・	・	注入量 ※50mL																																																																																																																																																																																																																																																											
・注入口付アンカーピンニング	※9	※16	※5	※9	※16	※5	注入量 ※50mL																																																																																																																																																																																																																																																											

外壁改修工事(共通事項)		1 材料品質		2 欠損部改修工法		3 欠損部改修工法		4 欠損部改修工法		5 欠損部改修工法		6 欠損部改修工法		7 欠損部改修工法		8 欠損部改修工法		9 欠損部改修工法		10 欠損部改修工法			
可とう性エポキシ樹脂 [4.2.4] JIS A 6024による		比重 押出し性(秒) スランパ(Mm) 質量変化率(%) 引張り強さ(MPa) 破断時伸び(%) 引張り接着性		1)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2)対象とする被着体を侵さず、かつ周囲を汚損しないこと。 3)常温常湿(温度20±15℃、湿度65±20%)において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月間保存した後であっても、品質・性能が上記の各項目に適合していること。		パテ状エポキシ樹脂 [4.2.4] JIS A 6024による		1)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2)対象とする被着体を侵さず、かつ周囲を汚損しないこと。 3)常温常湿(温度20±15℃、湿度65±20%)において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月間保存した後であっても、品質・性能が上記の各項目に適合していること。 4)試験方法は、JIS A 6024(建築補修用注入エポキシ樹脂)に準じる。		初期硬化性(MPa) 接着強度(MPa) 圧縮強度(MPa) 曲げ強度(MPa) 硬化収縮率(%)		1)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2)対象とする被着体を侵さず、かつ周囲を汚損しないこと。 3)常温常湿(温度20±15℃、湿度65±20%)において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月間保存した後であっても、品質・性能が上記の各項目に適合していること。		標準2.0以上 標準6.0以上 50.0以上 30.0以上 3.0以下		1)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2)対象とする被着体を侵さず、かつ周囲を汚損しないこと。 3)常温常湿(温度20±15℃、湿度65±20%)において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月間保存した後であっても、品質・性能が上記の各項目に適合していること。		標準2.0以上 標準6.0以上 50.0以上 30.0以上 3.0以下		1)均質で有害と認められる異物の混入がないこと。 2)対象とする被着体を侵さず、かつ周囲を汚損しないこと。 3)常温常湿(温度20±15℃、湿度65±20%)において製造所の指定する期間又は製造後6ヶ月間保存した後であっても、品質・性能が上記の各項目に適合していること。		標準2.0以上 標準6.0以上 50.0以上 30.0以上 3.0以下	
株式会社日産技術コンサルタント		受注者		一級建築士事務所 大阪府知事登録 (チ) 第10818号 大阪府中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL06-6243-2311 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号		工事名		潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事(R6-1)		係長		係長		課長補佐		課長		図面番号		AT-03			
図面名		改修特記仕様書(3)		縮尺		1/		作図		年		月		日									

項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項																																															
5	目地改修工法 ・セメントモルタルによるタイル張り タイル張りの工法 外装タイル ・密着張り ・改良圧着張り ・改良積上げ張り ユニットタイル ・マスク張り ・モザイクタイル張り ・有機系接着剤によるタイル張り ・下地モルタル塗りを行うコンクリート素地面の処理 ※目荒し工法 ・目地ひび割れ部改修工法 [4.4.16] ・伸縮調整目地改修工法 [4.4.16] 伸縮調整目地の位置及び寸法 ※図示																																																			
外壁改修工事 仕上げ塗材仕上げ																																																				
1	既存塗膜等の除去及び下地処理 既存塗膜の劣化部の除去及び下地の処理の工法 [4.5.4] <table border="1"> <tr> <th>工法</th> <th>処理範囲</th> </tr> <tr> <td>・サンダー工法</td> <td>※既存仕上面全体 ・図示</td> </tr> <tr> <td>・高圧水洗工法</td> <td>※既存仕上面全体 ・図示</td> </tr> <tr> <td>・塗膜はく離剤工法</td> <td>※既存仕上面全体 ・図示</td> </tr> <tr> <td>※水洗い工法</td> <td>※既存仕上面全体 ・図示 ・他工法の処理範囲以外の既存仕上面全体</td> </tr> </table> <p>石綿含有仕上塗材の除去は、環境配慮改修工事による。</p> <p>材料 ※下地調整塗材 ※C-1(複層塗材E施工部)・C-2()・CM-2([4.5.2~4.5.4] ・ポリマーセメントモルタル ・合成樹脂エマルジョンシーラー 工法 ※製造所の仕様による [4.5.4]</p>	工法	処理範囲	・サンダー工法	※既存仕上面全体 ・図示	・高圧水洗工法	※既存仕上面全体 ・図示	・塗膜はく離剤工法	※既存仕上面全体 ・図示	※水洗い工法	※既存仕上面全体 ・図示 ・他工法の処理範囲以外の既存仕上面全体																																									
工法	処理範囲																																																			
・サンダー工法	※既存仕上面全体 ・図示																																																			
・高圧水洗工法	※既存仕上面全体 ・図示																																																			
・塗膜はく離剤工法	※既存仕上面全体 ・図示																																																			
※水洗い工法	※既存仕上面全体 ・図示 ・他工法の処理範囲以外の既存仕上面全体																																																			
2	下地調整材 薄付け仕上げ塗材 [4.1.5][4.5.2][4.5.6][表4.5.1] <table border="1"> <tr> <th>呼び名</th> <th>仕上げの形状</th> <th>工法</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">・外装薄塗材Si</td> <td>・砂壁状</td> <td>・ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td>・ゆず肌状</td> <td>・さざ波状</td> <td>ローラー</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・可とう形外装薄塗材Si</td> <td>・砂壁状</td> <td>・ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td>・ゆず肌状</td> <td>・さざ波状</td> <td>ローラー</td> </tr> <tr> <td rowspan="4">○外装薄塗材E</td> <td>○砂壁状</td> <td>○ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td>・平たん状</td> <td>・凹凸状</td> <td>こて塗り</td> </tr> <tr> <td>・ゆず肌状</td> <td>・さざ波状</td> <td>ローラー</td> </tr> <tr> <td>・着色骨材砂壁状</td> <td></td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・可とう形外装薄塗材E</td> <td>・砂壁状</td> <td>・ゆず肌状</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td>・平たん状</td> <td>・凹凸状</td> <td>こて塗り</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・防水形外装薄塗材E</td> <td>・ゆず肌状</td> <td>・さざ波状</td> <td>ローラー</td> </tr> <tr> <td>・凹凸状</td> <td></td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td>・外装薄塗材S</td> <td>・砂壁状</td> <td></td> <td>吹付け ・適用する</td> </tr> </table>	呼び名	仕上げの形状	工法	備考	・外装薄塗材Si	・砂壁状	・ゆず肌状	吹付け	・ゆず肌状	・さざ波状	ローラー	・可とう形外装薄塗材Si	・砂壁状	・ゆず肌状	吹付け	・ゆず肌状	・さざ波状	ローラー	○外装薄塗材E	○砂壁状	○ゆず肌状	吹付け	・平たん状	・凹凸状	こて塗り	・ゆず肌状	・さざ波状	ローラー	・着色骨材砂壁状		吹付け	・可とう形外装薄塗材E	・砂壁状	・ゆず肌状	吹付け	・平たん状	・凹凸状	こて塗り	・防水形外装薄塗材E	・ゆず肌状	・さざ波状	ローラー	・凹凸状		吹付け	・外装薄塗材S	・砂壁状		吹付け ・適用する		
呼び名	仕上げの形状	工法	備考																																																	
・外装薄塗材Si	・砂壁状	・ゆず肌状	吹付け																																																	
	・ゆず肌状	・さざ波状	ローラー																																																	
・可とう形外装薄塗材Si	・砂壁状	・ゆず肌状	吹付け																																																	
	・ゆず肌状	・さざ波状	ローラー																																																	
○外装薄塗材E	○砂壁状	○ゆず肌状	吹付け																																																	
	・平たん状	・凹凸状	こて塗り																																																	
	・ゆず肌状	・さざ波状	ローラー																																																	
	・着色骨材砂壁状		吹付け																																																	
・可とう形外装薄塗材E	・砂壁状	・ゆず肌状	吹付け																																																	
	・平たん状	・凹凸状	こて塗り																																																	
・防水形外装薄塗材E	・ゆず肌状	・さざ波状	ローラー																																																	
	・凹凸状		吹付け																																																	
・外装薄塗材S	・砂壁状		吹付け ・適用する																																																	
3	仕上塗材仕上げ 厚付け仕上塗材 <table border="1"> <tr> <th>呼び名</th> <th>仕上げの形状</th> <th>工法</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">・外装厚塗材C</td> <td>・吹放し</td> <td>・凸部処理</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td>・平たん状</td> <td>・凹凸状</td> <td>こて塗り</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・外装厚塗材Si</td> <td>・ひき起こし</td> <td>・掻き落とし</td> <td>こて塗り</td> </tr> <tr> <td>・吹放し</td> <td>・凸部処理</td> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">・外装厚塗材E</td> <td>・平たん状</td> <td>・凹凸状</td> <td>こて塗り</td> </tr> <tr> <td>・ひき起こし</td> <td></td> <td>ローラー</td> </tr> </table>	呼び名	仕上げの形状	工法	備考	・外装厚塗材C	・吹放し	・凸部処理	吹付け	・平たん状	・凹凸状	こて塗り	・外装厚塗材Si	・ひき起こし	・掻き落とし	こて塗り	・吹放し	・凸部処理	吹付け	・外装厚塗材E	・平たん状	・凹凸状	こて塗り	・ひき起こし		ローラー																										
呼び名	仕上げの形状	工法	備考																																																	
・外装厚塗材C	・吹放し	・凸部処理	吹付け																																																	
	・平たん状	・凹凸状	こて塗り																																																	
・外装厚塗材Si	・ひき起こし	・掻き落とし	こて塗り																																																	
	・吹放し	・凸部処理	吹付け																																																	
・外装厚塗材E	・平たん状	・凹凸状	こて塗り																																																	
	・ひき起こし		ローラー																																																	
4	マスチック塗材塗り 外壁用塗膜防水材塗り <table border="1"> <tr> <th>呼び名</th> <th>仕上げの形状</th> <th>工法</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">・複層塗材CE</td> <td rowspan="2">・ゆず肌状</td> <td>ローラー</td> <td rowspan="2">耐候性 ※ 耐候形3種 ※ 水素A714つやあり</td> </tr> <tr> <td>吹付け</td> </tr> <tr> <td>・可とう形複層塗材CE</td> <td>・ゆず肌状</td> <td>ローラー</td> <td rowspan="2">増塗材 ・適用する</td> </tr> <tr> <td>・防水形複層塗材CE</td> <td>・ゆず肌状</td> <td>ローラー</td> </tr> <tr> <td>・可とう形改修塗材E</td> <td>・平たん状</td> <td>・さざ波状</td> <td>ローラー</td> </tr> <tr> <td>・可とう形改修塗材CE</td> <td>・ゆず肌状</td> <td></td> <td>吹付け</td> </tr> </table>	呼び名	仕上げの形状	工法	備考	・複層塗材CE	・ゆず肌状	ローラー	耐候性 ※ 耐候形3種 ※ 水素A714つやあり	吹付け	・可とう形複層塗材CE	・ゆず肌状	ローラー	増塗材 ・適用する	・防水形複層塗材CE	・ゆず肌状	ローラー	・可とう形改修塗材E	・平たん状	・さざ波状	ローラー	・可とう形改修塗材CE	・ゆず肌状		吹付け																											
呼び名	仕上げの形状	工法	備考																																																	
・複層塗材CE	・ゆず肌状	ローラー	耐候性 ※ 耐候形3種 ※ 水素A714つやあり																																																	
		吹付け																																																		
・可とう形複層塗材CE	・ゆず肌状	ローラー	増塗材 ・適用する																																																	
・防水形複層塗材CE	・ゆず肌状	ローラー																																																		
・可とう形改修塗材E	・平たん状	・さざ波状	ローラー																																																	
・可とう形改修塗材CE	・ゆず肌状		吹付け																																																	
5	目地改修工法 ・かぶせ工法 ○撤去工法 [5.1.3] 壁部分の開口の明け方 ※図示 新規建具周囲の補修工法及び範囲 ※図示																																																			
2	防火戸 防火戸の指定等 ※図示 [5.1.4] 防火戸の自動閉鎖機構及び防火戸について、連動させる装置等 ※図示																																																			
3	建具見本の製作等 建具見本の製作 ・ 行う(建具番号) ※行わない ・ 工事に使用するものとして、あらかじめ製作するもの ・ 納まり等がわかる程度の特 殊な建具の仮組 ・ 行う(建具番号) ※行わない [5.1.5]																																																			
4	防犯建物部品 ・適用する 適用箇所: ※図示 [5.1.7]																																																			
5	アルミニウム製建具 外部に面する建具の性能等 [5.2.2][表5.2.1] <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>耐風圧性</th> <th>気密性</th> <th>水密性</th> <th>枠の見込み</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・A種</td> <td>S-4</td> <td rowspan="2">A-3</td> <td rowspan="2">W-4</td> <td rowspan="2">※図示</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>※B種</td> <td>S-5</td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td>S-6</td> <td>A-4</td> <td>W-5</td> <td>※図示</td> <td></td> </tr> </table>	種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み	備考	・A種	S-4	A-3	W-4	※図示		※B種	S-5	・C種	S-6	A-4	W-5	※図示																																
種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み	備考																																															
・A種	S-4	A-3	W-4	※図示																																																
※B種	S-5																																																			
・C種	S-6	A-4	W-5	※図示																																																
6	樹脂製建具 <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>材質</th> <th>線径</th> <th>網目</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・防虫網</td> <td>※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製(SUS316)</td> <td>※0.25mm以上</td> <td>※16~18メッシュ</td> <td>※図示</td> </tr> <tr> <td>・防鳥網</td> <td>※ステンレス(SUS304)線材</td> <td>※1.5mm</td> <td>※網目寸法15mm</td> <td>※図示</td> </tr> </table> <p>外部に面する建具 表面処理の種別 ※BB-1種 ・BB-2種 [5.2.4][表5.2.2] 色合い等 ※標準色() ・特注色() 屋内に使用する建具 表面処理の種別 ※BC-1種 ・BC-2種 [5.2.4][表5.2.2] 色合い等 ※標準色() ・特注色() ステンレス製くつずりの仕上げ ※HL [5.2.4][表5.4.4] 結露水の処理方法 ※製造所の仕様による ・図示 水切り板、ぜん板 ※製造所の仕様による ・図示 [5.2.5] 製造所 評価名簿による [5.3.2~5.3.5][表5.3.1]</p> <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>耐風圧性</th> <th>気密性</th> <th>水密性</th> <th>枠の見込み</th> <th>備考</th> </tr> <tr> <td>・A種</td> <td>S-4</td> <td rowspan="2">A-4</td> <td rowspan="2">W-4</td> <td rowspan="2">※図示</td> <td rowspan="2"></td> </tr> <tr> <td>※B種</td> <td>S-5</td> </tr> <tr> <td>・C種</td> <td>S-6</td> <td></td> <td>W-5</td> <td>※図示</td> <td></td> </tr> </table>	種別	材質	線径	網目	適用箇所	・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製(SUS316)	※0.25mm以上	※16~18メッシュ	※図示	・防鳥網	※ステンレス(SUS304)線材	※1.5mm	※網目寸法15mm	※図示	種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み	備考	・A種	S-4	A-4	W-4	※図示		※B種	S-5	・C種	S-6		W-5	※図示																	
種別	材質	線径	網目	適用箇所																																																
・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製(SUS316)	※0.25mm以上	※16~18メッシュ	※図示																																																
・防鳥網	※ステンレス(SUS304)線材	※1.5mm	※網目寸法15mm	※図示																																																
種別	耐風圧性	気密性	水密性	枠の見込み	備考																																															
・A種	S-4	A-4	W-4	※図示																																																
※B種	S-5																																																			
・C種	S-6		W-5	※図示																																																
7	鋼製建具 <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>材質</th> <th>線径</th> <th>網目</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・防虫網</td> <td>※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製(SUS316)</td> <td>※0.25mm以上</td> <td>※16~18メッシュ</td> <td>※図示</td> </tr> <tr> <td>・防鳥網</td> <td>※ステンレス(SUS304)線材</td> <td>※1.5mm</td> <td>※網目寸法15mm</td> <td>※図示</td> </tr> </table> <p>ガラス ・複層ガラス ・単板ガラス ※図示 [5.3.3] ステンレス製くつずりの仕上げ ※HL [5.3.4][表5.4.4] 表面色 ※標準色() ・特注色() [5.3.4] 水切り板、ぜん板 ※製造所の仕様による ・図示 [5.2.5][表5.3.2] 製造所 評価名簿による</p>	種別	材質	線径	網目	適用箇所	・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製(SUS316)	※0.25mm以上	※16~18メッシュ	※図示	・防鳥網	※ステンレス(SUS304)線材	※1.5mm	※網目寸法15mm	※図示																																				
種別	材質	線径	網目	適用箇所																																																
・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製(SUS316)	※0.25mm以上	※16~18メッシュ	※図示																																																
・防鳥網	※ステンレス(SUS304)線材	※1.5mm	※網目寸法15mm	※図示																																																
8	鋼製軽量建具 <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>材質</th> <th>線径</th> <th>網目</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・防虫網</td> <td>※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製(SUS316)</td> <td>※0.25mm以上</td> <td>※16~18メッシュ</td> <td>※図示</td> </tr> <tr> <td>・防鳥網</td> <td>※ステンレス(SUS304)線材</td> <td>※1.5mm</td> <td>※網目寸法15mm</td> <td>※図示</td> </tr> </table> <p>簡易気密型ドアセット ・適用する [5.4.2][表5.4.1] 外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4 ・S-5 ・S-6 [5.4.2][表5.2.1] 枠の見込み(※図示)</p>	種別	材質	線径	網目	適用箇所	・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製(SUS316)	※0.25mm以上	※16~18メッシュ	※図示	・防鳥網	※ステンレス(SUS304)線材	※1.5mm	※網目寸法15mm	※図示																																				
種別	材質	線径	網目	適用箇所																																																
・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製(SUS316)	※0.25mm以上	※16~18メッシュ	※図示																																																
・防鳥網	※ステンレス(SUS304)線材	※1.5mm	※網目寸法15mm	※図示																																																
9	ステンレス製建具 <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>材質</th> <th>線径</th> <th>網目</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・防虫網</td> <td>※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製(SUS316)</td> <td>※0.25mm以上</td> <td>※16~18メッシュ</td> <td>※図示</td> </tr> <tr> <td>・防鳥網</td> <td>※ステンレス(SUS304)線材</td> <td>※1.5mm</td> <td>※網目寸法15mm</td> <td>※図示</td> </tr> </table> <p>簡易気密型ドアセット ・適用する [5.6.3] 外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4 ・S-5 ・S-6 [5.6.3] 枠の見込み(※図示)</p>	種別	材質	線径	網目	適用箇所	・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製(SUS316)	※0.25mm以上	※16~18メッシュ	※図示	・防鳥網	※ステンレス(SUS304)線材	※1.5mm	※網目寸法15mm	※図示																																				
種別	材質	線径	網目	適用箇所																																																
・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製(SUS316)	※0.25mm以上	※16~18メッシュ	※図示																																																
・防鳥網	※ステンレス(SUS304)線材	※1.5mm	※網目寸法15mm	※図示																																																
10	木製建具 <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>材質</th> <th>線径</th> <th>網目</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・防虫網</td> <td>※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製(SUS316)</td> <td>※0.25mm以上</td> <td>※16~18メッシュ</td> <td>※図示</td> </tr> <tr> <td>・防鳥網</td> <td>※ステンレス(SUS304)線材</td> <td>※1.5mm</td> <td>※網目寸法15mm</td> <td>※図示</td> </tr> </table> <p>簡易気密型ドアセット ・適用する [5.6.3] 外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4 ・S-5 ・S-6 [5.6.3] 枠の見込み(※図示)</p>	種別	材質	線径	網目	適用箇所	・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製(SUS316)	※0.25mm以上	※16~18メッシュ	※図示	・防鳥網	※ステンレス(SUS304)線材	※1.5mm	※網目寸法15mm	※図示																																				
種別	材質	線径	網目	適用箇所																																																
・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製(SUS316)	※0.25mm以上	※16~18メッシュ	※図示																																																
・防鳥網	※ステンレス(SUS304)線材	※1.5mm	※網目寸法15mm	※図示																																																
11	建具用金物 <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>材質</th> <th>線径</th> <th>網目</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・防虫網</td> <td>※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製(SUS316)</td> <td>※0.25mm以上</td> <td>※16~18メッシュ</td> <td>※図示</td> </tr> <tr> <td>・防鳥網</td> <td>※ステンレス(SUS304)線材</td> <td>※1.5mm</td> <td>※網目寸法15mm</td> <td>※図示</td> </tr> </table> <p>簡易気密型ドアセット ・適用する [5.6.3] 外部に面する建具の耐風圧性 ・S-4 ・S-5 ・S-6 [5.6.3] 枠の見込み(※図示)</p>	種別	材質	線径	網目	適用箇所	・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製(SUS316)	※0.25mm以上	※16~18メッシュ	※図示	・防鳥網	※ステンレス(SUS304)線材	※1.5mm	※網目寸法15mm	※図示																																				
種別	材質	線径	網目	適用箇所																																																
・防虫網	※合成樹脂製 ・ガラス繊維入り合成樹脂製 ・ステンレス製(SUS316)	※0.25mm以上	※16~18メッシュ	※図示																																																
・防鳥網	※ステンレス(SUS304)線材	※1.5mm	※網目寸法15mm	※図示																																																
12	鍵 マスターキーの製作(対応) ・製作する() ・新規 (既存合わせ) [5.8.4] ○製作しない(※既存マスターキーに合わせる ○合わせない)																																																			
13	自動ドア開閉装置 戸の開閉方式 ・図示 ・片引き ・引分け ・片開き [5.9.2] 引き戸用駆動装置 [5.9.2] 性能値 ※表5.9.1による パリアフリートイレ出入口に設置される引き戸用駆動装置 性能値 ※表5.9.2による 引き戸用検出装置の種類 パリアフリートイレスイッチ ・大形(開・閉)押しボタンスイッチ ・非接触スイッチ 引き戸用検出装置 [5.9.2][表5.9.3] 性能値 ※表5.9.3による 種類 ・光線(反射)センサー ・熱線センサー ・音波センサー [5.9.2][表5.9.4] ・光センサー ・電波センサー ・押しボタンスイッチ ・タッチスイッチ (・無線式タッチスイッチ ・光電式タッチスイッチ) ・適用する(塩害のおそれのある場合) ※適用しない																																																			
14	自閉式上吊り引戸装置 性能 ※表5.10.1による [5.10.3] 製造所 評価名簿による																																																			
15	重量シャッター シャッターの種類 ・管理用シャッター 耐風圧強度(N/m2) [5.11.2] ・外壁用防火シャッター 耐風圧強度(N/m2) ・屋内用防火シャッター ・防煙シャッター 開閉方式の種類 ・電動式(手動併用) ・手動式 [5.11.2][表5.11.1] 急降下制動装置、急降下停止装置の設置箇所 ※図示 障害物感知装置の設置箇所 ※図示 危険防止機構の設置箇所 ※図示 管理用シャッターのシャッターケース ・設ける [5.11.2] スラット及びシャッターケース用鋼板 [5.11.3] 鋼板の種類 ・JIS G 3302(溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) ・JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 ※Z12又はF12を満足するもの ステンレス鋼板の種類 ※SUS304, SUS430J1L又はSUS443J1 [5.6.3][表5.11.3] 製造所 評価名簿による																																																			
16	軽量シャッター 開閉形式 ・電動式(手動併用) ※手動式 [5.12.2][表5.12.1] 耐風圧強度 (N/m2) [5.12.2] 障害物感知装置の設置箇所 ※図示 [5.12.2] スラットの材質の種類 [5.12.3] ・JIS G 3312(塗装溶融亜鉛めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 ※Z06又はF06を満足するもの ・JIS G 3322(塗装溶融55%アルミニウム-亜鉛合金めっき鋼板及び鋼帯) めっきの付着量 ※A290を満足するもの スラットの種類 ・インターロック形 ・オーバーラッピング形 [5.12.4] 製造所 評価名簿による																																																			
17	オーバーヘッドドア <table border="1"> <tr> <th>セクション材料による区分</th> <th>開閉方式による区分</th> <th>収納形式による区分</th> <th>ガイドレールの材料</th> <th>耐風圧性能区分</th> </tr> <tr> <td>※スチールタイプ</td> <td>※バランス式</td> <td>・スタンダード形</td> <td>※溶融亜鉛めっき鋼板</td> <td>・50</td> </tr> <tr> <td>・アルミニウムタイプ</td> <td>・チェーン式</td> <td>・ローヘッド形</td> <td>・ステンレス鋼板</td> <td>・75</td> </tr> <tr> <td>・ファイバーグラスタイプ</td> <td>・電動式</td> <td>・ハイリフト形</td> <td></td> <td>・100</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>・パーチカル形</td> <td></td> <td>・125</td> </tr> </table> <p>電動式に設ける障害物感知装置の設置箇所 ※図示 製造所 評価名簿による [5.13.2][表5.13.3]</p>	セクション材料による区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材料	耐風圧性能区分	※スチールタイプ	※バランス式	・スタンダード形	※溶融亜鉛めっき鋼板	・50	・アルミニウムタイプ	・チェーン式	・ローヘッド形	・ステンレス鋼板	・75	・ファイバーグラスタイプ	・電動式	・ハイリフト形		・100			・パーチカル形		・125																										
セクション材料による区分	開閉方式による区分	収納形式による区分	ガイドレールの材料	耐風圧性能区分																																																
※スチールタイプ	※バランス式	・スタンダード形	※溶融亜鉛めっき鋼板	・50																																																
・アルミニウムタイプ	・チェーン式	・ローヘッド形	・ステンレス鋼板	・75																																																
・ファイバーグラスタイプ	・電動式	・ハイリフト形		・100																																																
		・パーチカル形		・125																																																
18	ガラス <table border="1"> <tr> <th>ガラスの種類、厚さ等</th> <th>概要</th> </tr> <tr> <td>・熱線吸収板ガラス(グリーン)</td> <td>※図示(製造所は評価名簿による)</td> </tr> <tr> <td>※その他のガラス</td> <td>※図示</td> </tr> </table> <p>ガラス溝の大きさ ※製造所の仕様による [5.14.3][表5.14.1]</p>	ガラスの種類、厚さ等	概要	・熱線吸収板ガラス(グリーン)	※図示(製造所は評価名簿による)	※その他のガラス	※図示																																													
ガラスの種類、厚さ等	概要																																																			
・熱線吸収板ガラス(グリーン)	※図示(製造所は評価名簿による)																																																			
※その他のガラス	※図示																																																			
19	ガラス留め材 <table border="1"> <tr> <th>種別</th> <th>材</th> <th>板ガラスをはめ込む溝の大きさ(mm)</th> </tr> <tr> <td>アルミニウム製</td> <td>※シーリング材 ・ガasket ・グレイジングチャンネル</td> <td>※建具の製造所の仕様による</td> </tr> <tr> <td>樹脂製</td> <td>※シーリング材 ・ガasket ・グレイジングビート</td> <td>※建具の製造所の仕様による</td> </tr> <tr> <td>鋼製及び鋼製軽量</td> <td>※シーリング材 ・ガasket</td> <td>※建具の製造所の仕様による</td> </tr> <tr> <td>ステンレス製</td> <td>※シーリング材 ・ガasket</td> <td>※建具の製造所の仕様による</td> </tr> <tr> <td>木製</td> <td>※シーリング材 ・押縁留め</td> <td></td> </tr> <tr> <td>シーリング材</td> <td>※SR-1</td> <td></td> </tr> </table> <p>[表3.7.1]</p>	種別	材	板ガラスをはめ込む溝の大きさ(mm)	アルミニウム製	※シーリング材 ・ガasket ・グレイジングチャンネル	※建具の製造所の仕様による	樹脂製	※シーリング材 ・ガasket ・グレイジングビート	※建具の製造所の仕様による	鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材 ・ガasket	※建具の製造所の仕様による	ステンレス製	※シーリング材 ・ガasket	※建具の製造所の仕様による	木製	※シーリング材 ・押縁留め		シーリング材	※SR-1																															
種別	材	板ガラスをはめ込む溝の大きさ(mm)																																																		
アルミニウム製	※シーリング材 ・ガasket ・グレイジングチャンネル	※建具の製造所の仕様による																																																		
樹脂製	※シーリング材 ・ガasket ・グレイジングビート	※建具の製造所の仕様による																																																		
鋼製及び鋼製軽量	※シーリング材 ・ガasket	※建具の製造所の仕様による																																																		
ステンレス製	※シーリング材 ・ガasket	※建具の製造所の仕様による																																																		
木製	※シーリング材 ・押縁留め																																																			
シーリング材	※SR-1																																																			
受注者	株式会社日産技術コンサルタント 一級建築士事務所 大阪府知事登録 (チ) 第10818号 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号	工事名	潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)	係	係長 課長補佐 課長 図面番号																																															
		図面名	改修特記仕様書 (4) 2024.04 縮尺 1/	作図	年 月 日																																															
					AT-04																																															

項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項
20	ガラスブロック積み ガラスブロック材料 [5.14.5] 表面形状 呼び寸法 厚さ 色調 防火性能 ※なし・あり 壁用金属枠及び補強材 ・図示 ・ステンレス(SUS304) ・アルミニウム 力骨 [5.14.5] 材質 寸法 形状 ※ステンレス鋼(SUS304) ※径5.5mm ※はしご形状複筋及び単筋 化粧目地モルタルの色 [5.14.5] シーリング材の種類 ※SR-1 [5.14.5] 金属製化粧カバー 材質 ※ステンレス製 ・アルミニウム製 [5.14.5] 寸法 ※図示 形状 ※図示 工法 [5.14.5] ・建築基準法に基づき定まる風圧力に対応した工法 ※図示 目地幅の寸法 ※図示 伸縮調整目地の位置 ※図示	8	造作用単板積層材 ・「集成材の日本農林規格」以外の化粧ばり造作用集成材 [6.5.2] 施工箇所 樹種 化粧薄板の厚さ(mm) 寸法(mm) 見付け材面の品質 含水率 化粧薄板: ※図示 ※15%以下 芯材: 化粧薄板: 芯材:	19	軽量鉄骨天井下地 野縁等の種類 [6.6.2][表6.6.1] 屋内 (※19形・25形) 屋外 (・19形 ※25形) 屋内の軒天井、ピロティ天井等 野縁等の間隔 [6.6.3][表6.6.2] 野縁 野縁受 つりボルト及びインサート 周辺部の端からの距離 300 900程度 900程度 150以内 新規天井下地のつりボルト受け等のインサート及びあと施工アンカー [6.6.4] ※既存の埋込みインサートを使用する ・新たにつりボルト用あと施工アンカーを設ける つりボルトの引張試験 試験箇所数及び確認強度は6.6.4(7)による 屋内 ※行う ・行わない 屋外 ※行う ・行わない ・耐風圧性を考慮した補強 補強方法: ※図示 [6.6.4] 適用箇所: ※図示 ・つりボルトの間隔が900mmを超える場合の補強 補強方法: ※図示 [6.6.4] 適用箇所: ※図示 ・天井下地材における耐震性を考慮した補強 補強方法: ※図示 [6.6.4] 適用箇所: ※すべて ・図示 補強方法: ・国土交通省平成25年告示第771号の基準に適合するもの ※6.6.4(8)による。ただし、ふところ1.5m以下の場合も適用し、 固定方法は専用金具又はボルトとし、溶接は不可とする。 ・天井のふところが3mを超える場合の補強 補強方法: ※図示 適用箇所: ※図示
21	建築窓ガラス用フィルム 名称 種類、記号 ※ガラス飛散防止フィルム ※GI-1, GD-1 ・GI-2, GD-2 品質 JIS A 5759による	9	直交集成板 ・C L T (直交集成板) 施工箇所 品名 曲げ強度(強度等級) 種別 接着性能(使用環境) 樹種 寸法(mm) ※図示	20	軽量鉄骨壁下地 スタッド、ランナー等の種類 ※表6.7.1による ・図示 [6.7.3][表6.7.1] スタッドの高さが5mを超える場合 ※図示 [6.7.3] 出入口及びこれに準ずる開口部の補強 ※14.5.4(5)による ・図示 [6.7.4]
内装改修工事		10	合板等 下地用合板 [6.5.2] ・普通合板 施工箇所 品名 厚さ(mm) 単板の樹種名 接着の程度 板面の品質 防虫処理 難燃処理 防火処理 ※5.5 ・ラワン ※1類 広葉樹(※2等以上) ・行う ・シナ ・2類 針葉樹(※C-D以上) ・行わない	21	ビニル床シート張り [6.8.2~6.8.3] 種類の記号 色柄 厚さ(mm) 特殊機能 施工箇所 備考 ※FS ※無地 ※2.0 ・帯電防止 ・耐動荷重性 ・マフ柄 ・防汚性 ・耐薬品性 ※FS ※無地 ※2.0 ・帯電防止 ・耐動荷重性 ・防汚性 ・耐薬品性 接合部の処理 ※熱溶接工法 ・突付け(施工箇所:) 帯電防止性能 ※帯電防止性能評価値(JIS A 1455)1.2以上~3.2未満又は 体積電気抵抗値(JIS A 1454)1×10 ⁷ ~10 ¹⁰ Ω程度 下地 ※図示
①	他の部位との取合い等 撤去壁と取り合う天井、壁及び床の改修範囲 ※図示 ・壁厚程度 [6.1.3] 天井内の撤去壁と取合う天井の改修範囲 ※図示 ・壁面から両側600程度 撤去天井と取合う壁の改修範囲 ※図示 ・既存のまま 各部仕上げは、既存仕上げに準じたものとする			21	ビニル床シート張り [6.8.2~6.8.3] 種類の記号 色柄 厚さ(mm) 特殊機能 施工箇所 備考 ※FS ※無地 ※2.0 ・帯電防止 ・耐動荷重性 ・マフ柄 ・防汚性 ・耐薬品性 ※FS ※無地 ※2.0 ・帯電防止 ・耐動荷重性 ・防汚性 ・耐薬品性 接合部の処理 ※熱溶接工法 ・突付け(施工箇所:) 帯電防止性能 ※帯電防止性能評価値(JIS A 1455)1.2以上~3.2未満又は 体積電気抵抗値(JIS A 1454)1×10 ⁷ ~10 ¹⁰ Ω程度 下地 ※図示
2	既存床の撤去及び下地補修 ・ビニル床シート等の除去等 ※仕上げ材のみ(接着剤等共) [6.2.2] ・下地モルタル共(撤去範囲: ※図示 ・撤去範囲すべて) ・合成樹脂塗床材の除去等 ・機械的除去工法 ・目荒し工法 改修後の床の清掃範囲 ※改修部分の端部から1.0m程度の範囲(工事で汚した範囲共)			22	ビニル床タイル張り [6.8.2~6.8.3] 種類の記号 色柄 寸法 厚さ(mm) 特殊機能 施工箇所 ※KT ○無地 ※300×300 ※2.0 ・帯電防止 ・防汚性 作業室 ・帯電防止 ・防汚性 作業室以外 ・TT ・FT ・柄物 ・2.0 ・帯電防止 ・防汚性 ・FOA ・FOB ・帯電防止 ・防汚性 帯電防止性能 ※帯電防止性能評価値(JIS A 1455)1.2以上~3.2未満又は 体積電気抵抗値(JIS A 1454)1×10 ⁷ ~10 ¹⁰ Ω程度
3	既存壁の撤去及び下地補修 間仕切壁撤去に伴う他の構造体の補修 ※図示 ・モルタル塗り([4.3.10]による) [6.3.2]			23	誘導用床材及び警告用床材 [6.8.2] 種 類 寸法(mm) 厚さ(mm) 備考 ・レジンコンクリート系 ※300×300 ※30 ※JIS T 9251適合品 ・タイル系 ※ ・60 ・塩化ビニル系 ※300×300 ※図示
4	ホルムアルデヒド放散量 ※6.5.2(7)のいずれかによる。 [6.5.2]			24	ビニル幅木 [6.8.2] 材 種 厚さ(mm) 高さ(mm) 施工箇所 ※軟質 ・硬質 ※1.5 ・ ※60 ・75 ○100 図示
5	目視検査 日本農林規格以外の製材及び集成材について、目視による材の欠点がないことの確認は、樹種ごとに無作為に抽出し、その抽出割合は10%以上とする。 [6.5.2]			25	ゴム床タイル張り [6.8.2] 色柄 種類 厚さ(mm) 寸法(mm) 備考 ・単層 ・複層 ・3.0 ・4.0 ・5.0 ・6.0 ・9.0
6	製材 ・下地用針葉樹製材 [6.5.2] 施工箇所 ※図示 樹種 ・杉 ・桧 寸法(mm) ※図示 等級 日本農林規格を使用する場合 : ・1級 ※2級 日本農林規格以外を使用する場合 : ※特一等 ・一等 含水率 ※15%以下 保存処理 ・行う ・行わない 防虫処理 ・行う ・行わない 難燃処理 ・行う ・行わない ・造作用針葉樹製材 施工箇所 ※図示 樹種 ・杉 ・桧 寸法(mm) ※図示 等級 日本農林規格を使用する場合 見え掛り面: ※上小節 ・無節 見え掛り面以外※小節以上 日本農林規格以外を使用する場合 見え掛り面: ※上小節 ・無節 ・特一等 見え掛り面以外※小節以上 ・特一等 含水率 ※15%以下 保存処理 ・行う ・行わない 防虫処理 ・行う ・行わない 難燃処理 ・行う ・行わない ・広葉樹製材 施工箇所 ※図示 樹種 ・ 寸法(mm) ※図示 等級 日本農林規格を使用する場合 : ・特等 ※1等 ・2等 日本農林規格以外を使用する場合 : ※特一等 ・一等 含水率 ※10%以下 保存処理 ・ 防虫処理 ・行う ・行わない 難燃処理 ・行う ・行わない			26	カーペット敷き [6.9.2] ・織じゅうたん [6.9.2][表6.9.1] 織り方 パイル形状 帯電性 品質(公表単価(円/m ²)) ・ワイドカーペット ・カットパイル ・帯電性 ・ダブルフェースカーペット ・ループパイル ・摘要する ・オアシスカーパーペット ・カット、ループ併用 色柄、パイル系の種類 ※模様のない無地のもの 種別 (・A種 ・B種 ・C種) ・タフテッドカーペット パイル形状 パイル長 工法 帯電性 品質(公表単価(円/m ²)) ・カットパイル ※全面接着工法 ・摘要する ・ループパイル ・グリッパー工法 ・レベルループパイル ・カット、ループ併用 ・タイルカーペット 種類 パイル形状 寸法(mm) 総厚さ(mm) 品質(公表単価(円/m ²)) ※第一種 ・カットパイル ※ループパイル ※500×500 ※6.5 ・第二種 ・カットパイル、ループ併用 ・7.0 タイルカーペットの敷き方 平場 ※市松敷き ・模様流し [6.9.3] 階段部分 ※模様流し ・市松敷き 取付け用付属品 下敷き材 ※JIS L 3204(反毛フェルト)に基づく第2種2号、呼び厚さ8.0mm [6.9.2] 取付け用付属品 見切り ※(材質 種類 形状) ・図示 [6.9.2] 押え金物 ※(材質 種類 形状) ・図示
7	造作用集成材 ホルムアルデヒド放散量等 ※6.5.2(7)による ・「集成材の日本農林規格」による造作用集成材 [6.5.2] 施工箇所 品名 樹種 寸法(mm) 見付け材面数 見付け材面の品質 ※図示 ※1等・2等 ・「集成材の日本農林規格」による化粧ばり造作用集成材 施工箇所 品名 樹種 化粧薄板の厚さ(mm) 寸法(mm) 見付け材面数 見付け材面の品質 化粧薄板: ※図示 ※1等 芯材: ・2等 化粧薄板: 芯材: ・「集成材の日本農林規格」以外の造作用集成材 施工箇所 樹種 寸法(mm) 見付け材面の品質 含水率 ※図示 ※15%以下	11	接合具等 造作材の化粧面の釘打ち [6.5.3] ・適用する (※隠し釘打ち) ・適用しない 諸金物の形状、寸法及び材質 [6.5.3][表6.5.3~6.5.5] ・6.5.3(2)(7)による 接着剤 ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ [6.5.3]	27	合成樹脂塗床 [6.10.3][表6.10.4~表6.10.8] 種類 施工箇所 工法 仕上げの種類 ・厚膜型塗床材 ※図示 ※平滑仕上げ ・防汚仕上げ ・弾性ウレタン樹脂系塗床材 ・つや消し仕上げ ・厚膜型塗床材 ※図示 ・薄膜流しのべ工法 ・平滑仕上げ エポキシ樹脂系塗床材 ・厚膜流しのべ工法 ・防汚仕上げ ・薄膜型塗床 ※図示 樹脂モルタル工法 ※平滑仕上げ 塗床材の塗料のホルムアルデヒド放散量 [6.10.2] ※F☆☆☆☆
		12	木れんが 取付工法 ※接着工法 ・あと施工アンカー (径:) 長さ: [6.5.4] 接着剤 ホルムアルデヒド放散量 ※F☆☆☆☆ [6.5.4]		
		13	防菌・防蟻処理 ・薬剤の加圧注入による防菌及び防蟻処理 [6.5.5] 適用部材 保存処理性能区分 ・K2 ・K3 ・K4 ・K2 ・K3 ・K4 ・薬剤の塗布等による防菌及び防蟻処理 適用部材 処理の方法 薬剤の種類 ※薬剤製造所の仕様による		
		14	間仕切軸組に用いる木材 [6.5.6] ※図示		
		15	床組に用いる木材 [6.5.6] ※図示		
		16	窓、出入口、その他に用いる木材 [6.5.7] ※図示		
		17	縁甲板及び上がりがまちに用いる木材 [6.5.8] ※図示		
		18	壁及び天井に用いる木材 [6.5.9] ※図示		

Table with 2 columns: Item (項目) and Special Notes (特記事項). Rows include flooring (フロアリング張り), floor leveling (敷敷き), and wall papering (壁紙張り).

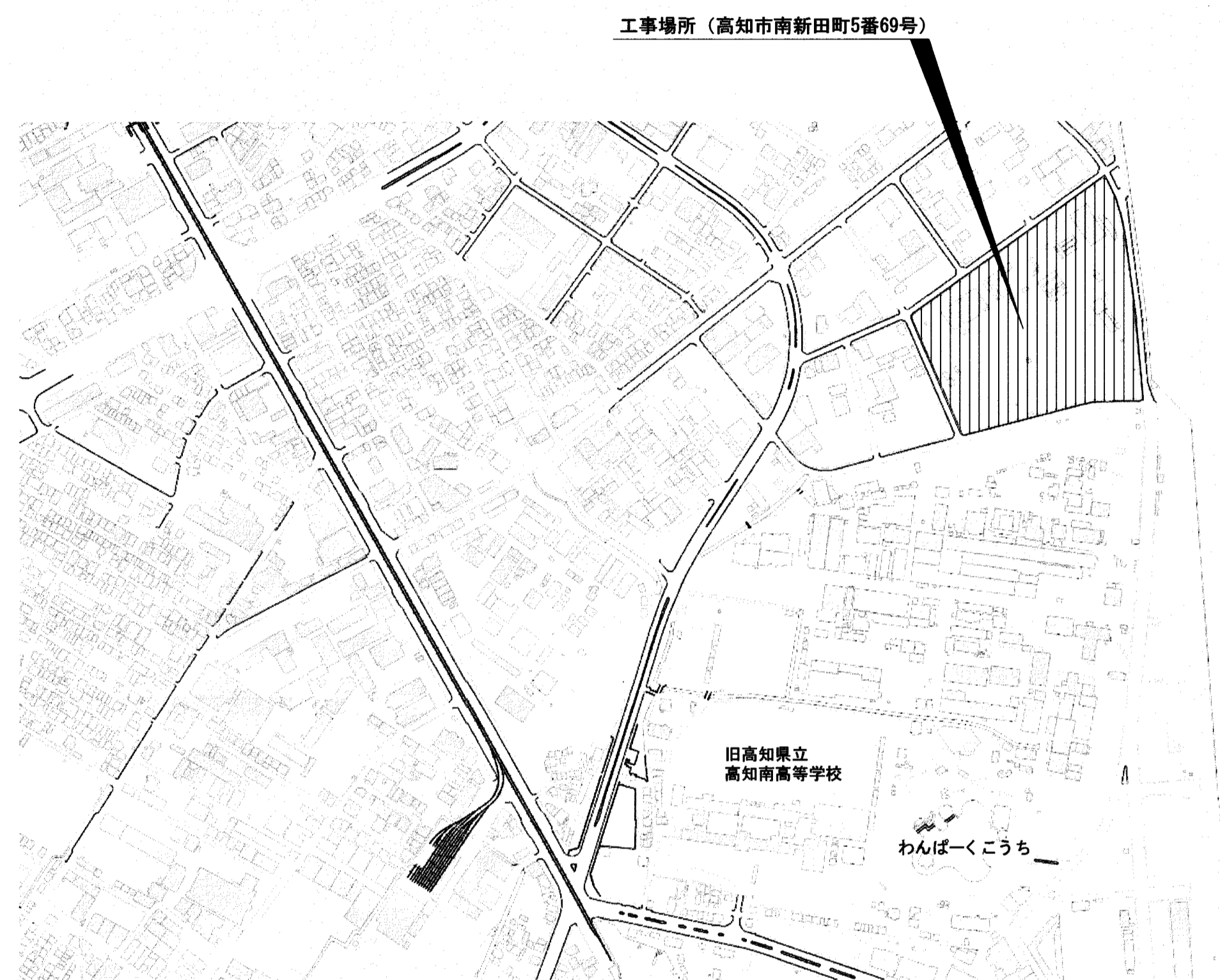
Table with 2 columns: Item (項目) and Special Notes (特記事項). Rows include adhesive (接着剤), tile laying (タイル張り), acoustic material (吸音材), painting (塗装), and wall treatment (素地). Includes detailed tables for tile specifications and painting materials.

Table with 2 columns: Item (項目) and Special Notes (特記事項). Rows include painting types (塗装の種類), seismic renovation (耐震改修工事), and reinforcement (鉄筋). Includes tables for reinforcement specifications and seismic standards.

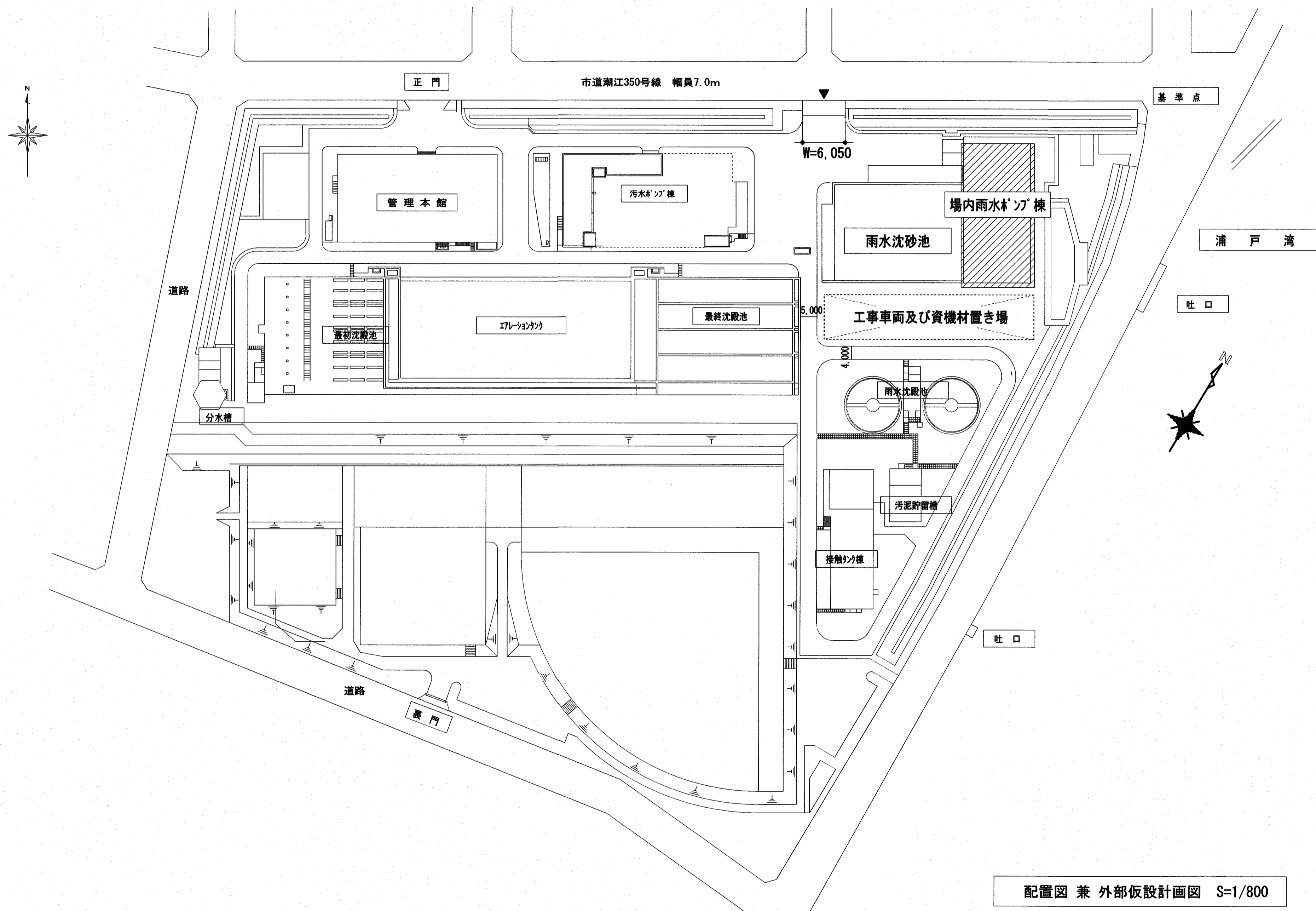
Project information table including client (受注者), contractor (株式会社日産技術コンサルタント), project name (工事名), and drawing details (図面番号).

項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項
7) 帯筋組立の形、継手及び定着	※ 図示 [8.3.4]	18 鉄骨製作工場	※ 「指定性能評価機関」による大臣認定工場で当該設計図書の内容を満たす評価基準を有する工場 ・ Sグレード ・ Hグレード ・ Mグレード ・ Rグレード ・ Jグレード [8.1.5]	40 現場打ち鉄筋コンクリート壁の増設工事	既存仕上げ等の撤去 ※ 図示 [8.21.2] 既存構造体の撤去 ※ 図示 [8.21.2] 割製補筋筋の仕様 ※ 図示 [8.21.6] コンクリートの打込み工法 ※ 図示 [8.21.8] 既存構造体との取合い ※ 図示 [8.21.9] 増設壁工事後の仕上げ ※ 図示 [8.21.10]
8) 壁の配筋	壁筋の定着長さ ※ 図示 [8.3.7] シアコネクタの種類、径、長さ、膨込み深さ及び間隔 ※ 図示 [8.3.7][8.7.8]	19 鉄骨製作工場における施工管理技術者の配置	適用する [8.1.6]	41 鉄骨ブレースの設置工事	割製補筋筋の仕様 ※ 図示 [8.22.7] ブレース設置工事後の仕上げ ※ 図示 [8.22.9] 外側補強一併鉄骨ブレースの仕上げ 防錆処理 : 亜鉛・アルミニウム溶射(AL-15%, Zn-85%) 厚さ 100μm 素地ごしらえ : 亜鉛メッキ面B種(18.2.4) 封孔処理 : 亜鉛メッキ面用エポキシ樹脂塗料2回以上 塗装 : DP3級
9) 壁開口部の補強	※ 図示 [8.3.7]	20 ぶたのゲージ、ぶた間隔線距離	※ (一社)日本建築学会「建築工事標準仕様書6 鉄骨工事」による。 図示 [8.13.2]	42 柱補強工事	溶接金網巻き工法及び溶接閉鎖フープ巻き工法 [8.23.5] 構造用モルタルの厚さ ※ 図示 60mm以上 コンクリート及び構造用モルタルの打込み工法 ※ 流込み工法 ・ 圧入工法 フープ筋 径 ※ 図示 配置 ※ 図示 鋼板巻き工法及び帯板巻き付け工法 [8.23.6] 柱頭及び柱脚の隙間 ※ 図示 連続繊維補強工法 [8.24.1][4.1.4] ひび割れ部の改修工法 ※ 樹脂注入工法 隅角部の面取り ※ 図示 連続繊維補強材の強度試験 ・ 引張強度試験(JIS A 1191に準拠) ※ 行う ・ 付着強度試験(JIS A 6909に準拠) ※ 行う
10) スリーブの材質、規格等	※ 下記の通り 図示 [8.2.7][8.2.6] (i) 外壁の地中部分等水密を要する部分に用いるスリーブは、つば付き鋼管とする。 (ii) 地中部分で水密を要しない部分に用いるスリーブは、硬質ポリ塩化ビニル管とする。 (iii) (i)及び(ii)以外の円形スリーブは、溶融亜鉛めっき鋼板とし、原則として、筒形の両端を外側に折り曲げてつばを設ける。また、必要に応じて、円筒部を両方から差し込む伸縮形とする。 (iv) 硬質ポリ塩化ビニル管は、防火区画を貫通する場合には使用しない。 なお、柱及び梁以外の箇所、開口部補強が不要であり、かつ、スリーブ径が 200mm 以下の部分は、紙チューブとすることができる。	21 鋼材	[8.2.8][表 8.2.7]	43 連続繊維補強工事	材料 工法 引張強度 N/mm ² ヤング係数 ※炭素繊維 ・アラミド繊維 強度試験 ・ 引張強度試験 ・ 付着強度試験 [8.23.7] 補強工事後の仕上げ ※ 図示 [8.23.7][8.24.5]
11) 圧接完了後の試験	試験方法 ※ 超音波探傷試験(全数) [8.3.8]	22 高力ボルトの種類等	※ トルシア形高力ボルト(S10T) (ねじの呼び ※ 図示) [8.2.9] ・ JIS 形高力ボルト(F10T) (ねじの呼び ※ 図示) [8.2.9] ・ ナット回転法の場合ぶたの長さが呼びの5倍を超える場合の回転量(※ 図示) [8.14.7] ・ 溶融亜鉛めっき高力ボルト(F8T 相当) (ねじの呼び ※ 図示) [8.2.9]	44 耐震スリット新設工事	耐震スリットの幅及び深さ ※ 図示 既存仕上げの撤去範囲 ※ 図示 ※ 8.21.2(1), (3)及び8.21.3(4) 耐火材 ※ 図示 遮音材 ※ 図示 撤去部の補修 ※ 図示
12) 既存部分の取り扱い	既存仕上げの撤去範囲 ※ 図示 8.21.2による [8.21.2][8.22.2][8.23.2] 設備機器、配管等の撤去及び移設 ※ 図示 既存構造体の撤去範囲 ※ 図示 はつりだした鉄筋及び鉄骨の処理 ※ 図示 ※ 鉄筋の場合、必要に応じて先端にキャップ等を取付けて養生。鉄骨の場合は発泡スチロール等で養生。 目荒らしの程度 [8.21.3][8.22.3][8.23.3][8.26.6] 既存柱・梁 ※ 平均深さで2~5mm(最大で5~7mm)程度の凹面を、合計が打継ぎ面の15~30%程度の面積となるように全体にわたってつける。 ・ 図示 増打り壁増設 ※ 既存壁には打継ぎ面の10~15%程度を目安として目荒しを行う。 ・ 図示 割製補筋筋の仕様 ※ 図示 [8.21.6][8.22.7]	23 スタッド	種類等 ※ 図示 [8.2.11]	45 免震改修工事	支保材、減衰材 材質及び諸元 ※ 図示 性能確認試験 ※ 行う(項目: , 数量:) ・ 行わない [8.26.7] 製品検査 [8.26.7]
13) (コンクリート等)コンクリートの種別	※ I類 ・ II類 [8.1.3][表 8.1.1]	24 材料試験等	板厚方向に引張力を受ける鋼板のJIS G 0901による試験 ・ 実施する ・ 実施しない [8.2.14]	46 制振改修工事	支保材又は減衰材の設置 防錆処理 ※ 製造所の仕様による 設置位置の寸法許容差 ※ 図示 別置の免震材料又は減衰材の種類、形状、寸法、数量及び設置条件 ※ 図示 割製補筋筋 ※ 適用する 設置後の仕上げ ※ 図示 支保材への耐火被覆 ・ 適用する(仕様) ・ 適用しない [8.26.13] 免震エキスパンションジョイント等の仕様及び工法 ※ 図示 [8.26.15] 検査 ※ 行う(項目: , 数量:) ・ 行わない [8.26.16] 維持管理要領における計測機器等の設置 ・ 有(仕様:) ・ 無 [8.26.17]
14) コンクリートの材料及び調合	※ 普通コンクリート [8.1.3][8.1.4] 設計基準強度 Fc(N/mm ²) スランパ (cm) 適用箇所 ※ 21 ・ 15 ・ 18 ・ 18 ・ 15 ・ 18 ◎ 24 ◎ 18 高強度コンクリート適用箇所以外 セメントの種類 ※ 普通ポルトランドセメント又は混合セメントのA種 [8.2.5] ・ 高炉セメントB種 適用箇所() ・ フライアッシュセメントB種 適用箇所() ・ 軽量コンクリート [8.1.3][8.9.1~8.9.2] 設計基準強度 Fc(N/mm ²) スランパ (cm) 使用箇所 ※ 21 ※ 18 種類 ・ 1種(t/m ³) ・ 2種(t/m ³) [8.9.1][表 8.9.1] ◎高強度コンクリート [8.1.3] 設計基準強度 Fc(N/mm ²) スランパ フロー(cm) 使用箇所 ◎ 39 ◎ 60 図示 骨材 [8.2.5] アルカリシリカ反応性による区分 ※ A ・ B 混和材料 [8.2.5] ◎ 混和剤 ※ A E 剤又は A E 減水剤標準形 (JIS A 6204) ・ 高性能 A E 減水剤標準形 (JIS A 6204) ・ 混和材 ・ フライアッシュ (・ I 種 ・ II 種 ・ IV 種) (JIS A 6201) ・ コンクリート用高炉スラグ微粉末 (JIS A 6206) ・ コンクリート用シリカフェウム (JIS A 6207) ・ コンクリート用膨張材 (JIS A 6202) 構造体強度補正值 (S) [8.2.5] ※ 表 8.2.4 による コンクリートの打増し厚さ (mm) [8.7.8] 外壁 ※ 図示 ・ 20 ◎ 25 壁増設部及び開口閉塞部 ※ 図示 ◎ 20	25 溶接接合(技能資格者)	溶接技能者への技量付加試験 [8.15.3] ・ 行う ※ 行わない 代替エンドタブを使用する場合は、技量付加試験を行うか、AW 検定協議会が実施する代替エンドタブ検定により認定された溶接技能者でなければならない	47 環境配慮改修工事	石綿含有建材の有無及び除去等 [9.1.3~9.1.5] 石綿含有建材の種類 使用部位 使用材料 除去工法 飛散性 ・ 石綿含有吹付材 ※ 9.1.3による ・ 石綿含有保温材 ※ 9.1.3による 非飛散性 ◎ 石綿含有成形板等 ◎ 天井 ◎ 床 ◎ 幅木 ◎ 岩綿吸音板 ◎ けい酸加付板 ◎ 石綿平板 ◎ ビニル床材 ◎ ビニル幅木 ※ 9.1.5による 石綿含有吹付け材の飛散防止処置 ※ 湿潤化 ・ 固形化
15) 打放し仕上げの種別	※ 合板せき板を用いる場合 [8.1.4][8.2.7][表 8.1.4] 種別 厚さ(mm) 施工箇所 ・ A種 ※ 12 ・ B種 ※ 12 全て ・ C種 ※ 12 ・ せき板の材料として合板を用いない場合 材料(厚さ) 適用部位 ※ 下表 図示 [8.1.4][表 8.1.5] 種別 コンクリートの内外装仕上げ 平たんさ 適用部位による仕上げの目安 柱・梁・壁 床 a種 コンクリートが見え掛りとなる場合又は仕上げ厚さが極めて薄い場合その他非常に良好な平たんさ及び良好な表面状態が必要な場合 3mにつき7mm以下 化粧打放しコンクリート 塗装仕上げ 壁紙張り 接着剤による陶磁器質タイル張り フライアッシュ(置敷式) 合成樹脂塗床 ビニル系床材張り 床コンクリート直均し仕上げ フライアッシュ(置敷式)	26 仮組	※ 実施しない [8.13.10]	48) 埋め込み配管等の探査	探査方法 ※ 鉄筋探査器により確認する [8.12.4] (鉄筋探査器で確認できない場合は、はつりを行い、埋設の鉄筋、金物類の位置を確認する)
16) コンクリートの仕上りの平たんさ	※ 合板せき板を用いる場合 [8.1.4][8.2.7][表 8.1.4] 種別 厚さ(mm) 施工箇所 ・ A種 ※ 12 ・ B種 ※ 12 全て ・ C種 ※ 12 ・ せき板の材料として合板を用いない場合 材料(厚さ) 適用部位 ※ 下表 図示 [8.1.4][表 8.1.5] 種別 コンクリートの内外装仕上げ 平たんさ 適用部位による仕上げの目安 柱・梁・壁 床 a種 コンクリートが見え掛りとなる場合又は仕上げ厚さが極めて薄い場合その他非常に良好な平たんさ及び良好な表面状態が必要な場合 3mにつき7mm以下 化粧打放しコンクリート 塗装仕上げ 壁紙張り 接着剤による陶磁器質タイル張り フライアッシュ(置敷式) 合成樹脂塗床 ビニル系床材張り 床コンクリート直均し仕上げ フライアッシュ(置敷式)	27 摩擦面のすべり試験	※ 実施しない ・ 実施する 試験の方法等 ※ 図示 [8.14.2]	49) あと施工アンカーの施工後の確認試験	※ 採取試験 [8.12.7] 引張試験 試験数 ※ 8.12.7による 引張試験の確認強度 ◎ 引張耐力の2/3の値
17) 構造体用モルタルの材料及び調合(グラウト材)	材料 ※ 早強型特殊セメント系無収縮モルタル(プレミックスタイプ) [8.2.6][表 8.2.5] 設計基準強度 ※ fc=30(N/mm ²) (材齢: 28日) コンシステンシー ※ J14ロート試験法による フロー値 製造所 ※ 評価名簿による 試験 種類 圧縮強度試験 供試体: φ50, H=100(J14ロート)落下速度試験を行い作成する 回数 1組の作業班が1日に行った施工箇所毎かつ2.0m ³ 及びその端数毎につき1回	28 溶接部の試験	・ 超音波探傷試験 ・ 放射線透過試験 試験箇所 () ・ マクロ試験(エンドタブ使用) 試験箇所 ()	37) あと施工アンカー性能確認試験	試験の種類 対象 [8.2.4] ◎ カプセル方式の回転・打撃式 ◎ 注入式
		29 開先、スラップの形状	※ 図示 [8.15.4][8.15.7]	38) 埋め込み配管等の探査	探査方法 ※ 鉄筋探査器により確認する [8.12.4] (鉄筋探査器で確認できない場合は、はつりを行い、埋設の鉄筋、金物類の位置を確認する)
		30 エンドタブ	※ 切断する ・ 切断しない 切断する箇所 ※ 見えがかり部 ・ 図示 切断範囲 ※ 図示	39) あと施工アンカーの施工後の確認試験	※ 採取試験 [8.12.7] 引張試験 試験数 ※ 8.12.7による 引張試験の確認強度 ◎ 引張耐力の2/3の値
		31 錆止め塗料の種別	項目「塗装改修工事-4」の「錆止め塗料の種別」による [8.17.1]		
		32 錆止め塗装の範囲	※ 8.17.2による [8.17.2]		
		33 耐火被覆	種別 ・ 耐火材吹付け工法 ・ ロックウール吹付け工法 (・ 乾式工法 ・ 半乾式工法 ・ 湿式工法) ・ 耐火板張り工法 (・ 繊維入れい酸カルシウム板 ・) [8.18.5] ・ 耐火材巻付け工法 (・ 高断熱ロックウール ・) [8.18.6] ・ ラス張りモルタル塗り 左官工法 [8.18.7] ・ 耐火塗料 塗装工法 [8.18.8] ・ 図示 耐火性能 [8.18.3] 適用箇所 ・ 30分 ・ 1時間 ・ 2時間		
		34 溶融亜鉛めっき高力ボルト接合	摩擦面の処理 ※ プラスト処理又はりん酸塩処理 [8.20.5] ただし、りん酸塩処理とする場合は、すべり耐力等の確認をすべり試験により行うこと。		
		35 柱底均しモルタル及びグラウト材	※ 無収縮モルタル [8.2.12] 製造所(製品名) 評価名簿による		
		36) あと施工アンカー	・ 金属系アンカー [8.2.4] アンカー本体 構造計算で用いた 構造計算で用いた アンカーの セット方式 接合筋 使用箇所 径 埋込み長さ 引張耐力 セン断耐力 種類 径 長さ ※ 図示 ・ SD295 ・ D13 ※ 図示 ・ 径×5以上 ・ SD345 ・ D16 ※ 図示 ・ D19 ・ 径×12以上 ・ D19 ・ D22 ◎ SD345		
			◎ 接着系アンカー [8.2.4] アンカー本体 構造計算で用いた 構造計算で用いた アンカー筋 使用箇所 径 埋込み長さ 引張耐力 セン断耐力 種類 定着長さ ◎ D10 ◎ 9.6KN ◎ D13 ◎ 16.2KN ◎ D16 ※ 図示 ◎ 24.6KN ※ 図示 ※ 図示 ◎ D19 ・ 径×12以上 ◎ 34.6KN ◎ D22 ◎ 83.6KN		
			アンカーの種類 ◎ カプセル方式の回転・打撃式 ◎ 注入式		
			試験の種類 対象 [8.2.4] ◎ カプセル方式の回転・打撃式 ◎ 注入式		
			探査方法 ※ 鉄筋探査器により確認する [8.12.4] (鉄筋探査器で確認できない場合は、はつりを行い、埋設の鉄筋、金物類の位置を確認する)		
			※ 採取試験 [8.12.7] 引張試験 試験数 ※ 8.12.7による 引張試験の確認強度 ◎ 引張耐力の2/3の値		

項目	特記事項	項目	特記事項	項目	特記事項																																																								
2	<p>○石綿含有仕上塗材の除去 [9.1.6]</p> <p>使用部位 (階段内壁)</p> <p>使用材料 (色セメント吹付)</p> <p>除去工法</p> <p>※厚生労働省「石綿飛散漏洩防止対策徹底マニュアル」による工法の内、飛散防止に関し隔離措置と同等と判断できる工法</p> <p>除去範囲 ※ 図示</p> <p>試験施工 ※ 行わない ・ 行う</p> <p>処分 [9.1.3]</p> <p>管理型・安定型を確認の上、廃棄物処理法による許可を受けた施設で適切に処理すること。</p> <p>石綿粉じん濃度測定 [9.1.1]</p> <p>※建築物石綿含有建材調査報告書により、監督職員と協議する。</p> <p>・ 行う ・ 行わない</p> <table border="1"> <tr> <th>測定時期</th> <th>測定場所</th> <th>測定名称</th> <th>測定点</th> </tr> <tr> <td rowspan="2">処理作業前</td> <td rowspan="2">・ 処理作業室内 ・ 施工区画周辺又は敷地境界</td> <td>測定1</td> <td>※ 2点 ・ 3点</td> </tr> <tr> <td>測定2</td> <td>※ 2点 ・</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">処理作業中</td> <td rowspan="3">・ 処理作業室内 ※セキュリティゾーン入口 ※集じん、排気装置の排出口 (処理作業室外の場合)</td> <td>測定3</td> <td>※ 2点 ・</td> </tr> <tr> <td>測定4</td> <td>※ 1点 ・</td> </tr> <tr> <td>測定5</td> <td>※ 1点 ・</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">処理作業後 (隔離シート撤去前)</td> <td rowspan="2">※ 施工区画周辺又は敷地境界 ・ 施工区画周辺又は敷地境界</td> <td>測定6</td> <td>※ 4方向 各1点</td> </tr> <tr> <td>測定7</td> <td>※ 2点以上 ・</td> </tr> <tr> <td>測定8</td> <td>※ 4方向 各1点</td> <td></td> <td></td> </tr> </table> <p>測定方法 [9.1.1]</p> <p>・ JIS K3850-1に基づいた測定 (測定4 ・ 測定5 ・ 測定6 ・ 測定7 ・)</p> <p>・ 自動測定器による測定 (測定4 ・ 測定5 ・)</p> <p>2 外断熱改修工事 [9.2.2]</p> <p>断熱材の種類 ※ 図示</p> <p>断熱材の厚さ ※ 図示</p> <p>外装材の種類及び防火性能 種類 ・ 防火性能</p> <p>既存外壁の仕上材の撤去 ※ 図示</p> <p>下地面の清掃 ※ 図示</p> <p>欠損部の改修工法 ・ 適用 (※ 図示 ※ 4.1.4)</p> <p>建築基準法に基づく風圧力の (※1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 [9.2.4]</p> <p>不陸等の下地調整 ※ 図示</p> <p>断熱材の施工 ※ 製造所の仕様による</p> <p>外装材の施工 ※ 図示</p> <p>通気層 ・ 有(厚さ) ※ 図示 ・ 無</p> <p>外装材の外壁への取付 ※ 図示</p> <p>笠木の施工 ※ 3章9節による</p> <p>3 断熱・防露改修工事 [9.3.2][9.3.4]</p> <p>断熱材打込み工法又は断熱材後張り工法の材料</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>等級</th> <th>厚さ(mm)</th> <th>施工箇所</th> </tr> <tr> <td>・ JIS A 9521(建築用断熱材)によるビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>※ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキン層なし)</td> <td>※ 2種 b A</td> <td>※ 25</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ 硬質ウレタンフォーム断熱材</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ フェノールフォーム断熱材</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ JIS A 9521(建築用断熱材)によるビーズ法ポリスチレンフォーム保温材</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・ 押出法ポリスチレンフォーム保温材(スキンなし)</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>フェノールフォーム断熱材のホルムアルデヒド放散量 [9.3.2][9.3.4]</p> <p>※ F☆☆☆☆, またはそれと同等と認められるもの</p> <p>断熱材現場発泡工法の材料 (JIS A 9526による) [9.3.3]</p> <p>※ A種1 ・ B種</p> <p>厚さ(mm) ・ 25 ・ 30</p> <p>製造所 評価名簿による</p> <p>4 屋上緑化改修工事 [9.4.2]</p> <p>材料 芝及び地被類の種類等</p> <p>見切り材</p> <p>舗装材</p> <p>排水孔</p> <p>マルチング材</p> <p>建築基準法に基づく風圧力の (※1 ・ 1.15 ・ 1.3) 倍の風圧力に対応した工法 [9.4.3]</p> <p>かん水装置及び種類 ※ 図示</p> <p>既存保護層等の撤去 ※ 図示</p> <p>新植樹木等の枯補償期間 ※ 引渡しの日から1年</p> <p>5 透水性アスファルト舗装改修工事 [9.5.2]</p> <p>既存舗装の撤去 ・ 撤去する ・ 一部再利用する</p> <p>路床 凍上抑制層 ・ 適用する</p> <p>厚さ ※ 図示</p> <p>材料 ※ 有機物、ごみ等を含まないもの</p> <p>※ 適用しない</p> <p>透水性舗装のフィルターの厚さ管理用車両通行部 (※ 150mm)</p> <p>歩行者用通路 (※ 50mm)</p> <p>路床安定処理 ・ 適用する</p> <p>方法 ※ 添加材料による安定処理</p> <p>厚さ ※ 300mm</p> <p>目標CBR ※ 5以上</p> <p>・ 適用しない</p>	測定時期	測定場所	測定名称	測定点	処理作業前	・ 処理作業室内 ・ 施工区画周辺又は敷地境界	測定1	※ 2点 ・ 3点	測定2	※ 2点 ・	処理作業中	・ 処理作業室内 ※セキュリティゾーン入口 ※集じん、排気装置の排出口 (処理作業室外の場合)	測定3	※ 2点 ・	測定4	※ 1点 ・	測定5	※ 1点 ・	処理作業後 (隔離シート撤去前)	※ 施工区画周辺又は敷地境界 ・ 施工区画周辺又は敷地境界	測定6	※ 4方向 各1点	測定7	※ 2点以上 ・	測定8	※ 4方向 各1点			種類	等級	厚さ(mm)	施工箇所	・ JIS A 9521(建築用断熱材)によるビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・	・	・	※ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキン層なし)	※ 2種 b A	※ 25	・	・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	・	・	・	・ フェノールフォーム断熱材	・	・	・	・ JIS A 9521(建築用断熱材)によるビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・	・	・	・ 押出法ポリスチレンフォーム保温材(スキンなし)	・	・	・	<p>盛土の種類 ・ A種 ・ B種 ・ C種 ・ D種 [9.5.3][表9.5.1]</p> <p>路床安定処理用添加材料の種類 [9.5.3][表9.5.2]</p> <p>ジオテキスタイル ・ 適用する(品質 ・) ・ 適用しない [9.5.3]</p> <p>発生土の処理 ※ 構外搬出適切処理 [9.5.3]</p> <p>(搬出前に建設発生土の受入証明又は法令による許可書等を提出する)</p> <p>・ 構内指示の場所に敷き均し</p> <p>・ 構内指示の場所にたい積</p> <p>・ 構外指示の場所に処分(搬出調査等を提出する)</p> <p>・ 受入れ施設名:</p> <p>・ 受入れ場所:</p> <p>・ 仮置き場所:</p> <p>試験 路床土の支持力比(CBR)試験 ・ 行う ・ 行わない [9.5.3]</p> <p>現場CBR試験 ・ 行う ・ 行わない [9.5.3]</p> <p>路床締固め度の試験 ・ 行う ・ 行わない [9.5.3]</p> <p>砂の粒度試験 ・ 行う ・ 行わない [9.5.3]</p> <p>路盤 厚さ 管理用車両通行部 (※ 150mm)</p> <p>歩行者用通路 (※ 100mm)</p> <p>材料 ・ クラッシュラン ・ 粒度調整砕石 [9.5.4][表9.5.3]</p> <p>※ 再生クラッシュラン ・ 再生粒度調整砕石</p> <p>・ クラッシュラン鉄鋼スラグ ・ 粒度調整鉄鋼スラグ</p> <p>・ 水硬性粒度調整鉄鋼スラグ</p> <p>締固め度の試験 ※ 行う ・ 行わない [9.5.4]</p> <p>舗装の構成及び仕上り [9.5.5]</p> <p>厚さ 管理用車両通行部 (※ 50mm)</p> <p>歩行者用通路 (※ 30mm)</p> <p>平坦性 ※ 著しい不陸がないもの [9.5.5]</p> <p>開粒度アスファルト混合物の抽出試験 ・ 行う ※ 行わない [9.5.9]</p>			
測定時期	測定場所	測定名称	測定点																																																										
処理作業前	・ 処理作業室内 ・ 施工区画周辺又は敷地境界	測定1	※ 2点 ・ 3点																																																										
		測定2	※ 2点 ・																																																										
処理作業中	・ 処理作業室内 ※セキュリティゾーン入口 ※集じん、排気装置の排出口 (処理作業室外の場合)	測定3	※ 2点 ・																																																										
		測定4	※ 1点 ・																																																										
		測定5	※ 1点 ・																																																										
処理作業後 (隔離シート撤去前)	※ 施工区画周辺又は敷地境界 ・ 施工区画周辺又は敷地境界	測定6	※ 4方向 各1点																																																										
		測定7	※ 2点以上 ・																																																										
測定8	※ 4方向 各1点																																																												
種類	等級	厚さ(mm)	施工箇所																																																										
・ JIS A 9521(建築用断熱材)によるビーズ法ポリスチレンフォーム断熱材	・	・	・																																																										
※ 押出法ポリスチレンフォーム断熱材(スキン層なし)	※ 2種 b A	※ 25	・																																																										
・ 硬質ウレタンフォーム断熱材	・	・	・																																																										
・ フェノールフォーム断熱材	・	・	・																																																										
・ JIS A 9521(建築用断熱材)によるビーズ法ポリスチレンフォーム保温材	・	・	・																																																										
・ 押出法ポリスチレンフォーム保温材(スキンなし)	・	・	・																																																										
			<p>石綿含有建材分析結果報告書一覧</p> <table border="1"> <tr> <th>建材名</th> <th>採取場所</th> <th>石綿含有の有無</th> </tr> <tr> <td>吹付タイル</td> <td>外壁</td> <td>有・無</td> </tr> <tr> <td>下地調整材(吹付タイル下地)</td> <td>外壁</td> <td>有・無</td> </tr> <tr> <td>せっこうボード</td> <td>廊下 天井</td> <td>有・無</td> </tr> <tr> <td>岩綿吸音板</td> <td>廊下 天井</td> <td>有・無</td> </tr> <tr> <td>ロックウール吹付</td> <td>搬入室 壁・天井</td> <td>有・無</td> </tr> <tr> <td>砂壁状吹付</td> <td>宿直室 壁</td> <td>有・無</td> </tr> <tr> <td>ゾラコート吹付</td> <td>作業員控室 壁</td> <td>有・無</td> </tr> <tr> <td>ビニル床タイル</td> <td>廊下 床</td> <td>有・無</td> </tr> <tr> <td>ビニル幅木</td> <td>作業員控室 幅木</td> <td>有・無</td> </tr> <tr> <td>化粧せっこうボード</td> <td>宿直室 天井</td> <td>有・無</td> </tr> <tr> <td>色セメント吹付</td> <td>B1階倉庫 天井</td> <td>有・無</td> </tr> <tr> <td>モルタル金ゴテ押え</td> <td>B1階倉庫 床</td> <td>有・無</td> </tr> <tr> <td>モルタル金ゴテ押え</td> <td>B1階倉庫 壁</td> <td>有・無</td> </tr> </table>	建材名	採取場所	石綿含有の有無	吹付タイル	外壁	有・無	下地調整材(吹付タイル下地)	外壁	有・無	せっこうボード	廊下 天井	有・無	岩綿吸音板	廊下 天井	有・無	ロックウール吹付	搬入室 壁・天井	有・無	砂壁状吹付	宿直室 壁	有・無	ゾラコート吹付	作業員控室 壁	有・無	ビニル床タイル	廊下 床	有・無	ビニル幅木	作業員控室 幅木	有・無	化粧せっこうボード	宿直室 天井	有・無	色セメント吹付	B1階倉庫 天井	有・無	モルタル金ゴテ押え	B1階倉庫 床	有・無	モルタル金ゴテ押え	B1階倉庫 壁	有・無																
建材名	採取場所	石綿含有の有無																																																											
吹付タイル	外壁	有・無																																																											
下地調整材(吹付タイル下地)	外壁	有・無																																																											
せっこうボード	廊下 天井	有・無																																																											
岩綿吸音板	廊下 天井	有・無																																																											
ロックウール吹付	搬入室 壁・天井	有・無																																																											
砂壁状吹付	宿直室 壁	有・無																																																											
ゾラコート吹付	作業員控室 壁	有・無																																																											
ビニル床タイル	廊下 床	有・無																																																											
ビニル幅木	作業員控室 幅木	有・無																																																											
化粧せっこうボード	宿直室 天井	有・無																																																											
色セメント吹付	B1階倉庫 天井	有・無																																																											
モルタル金ゴテ押え	B1階倉庫 床	有・無																																																											
モルタル金ゴテ押え	B1階倉庫 壁	有・無																																																											
		<p>受注者 株式会社日産技術コンサルタント</p> <p>一級建築士事務所 大阪府知事登録 (チ) 第10818号</p> <p>大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311</p> <p>管理技術者 国松 幹夫 一級建築士登録 第229478号</p>	<p>工事名 潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)</p> <p>係 係長 課長補佐 課長</p> <p>図面番号 AT-08</p> <p>図面名 改修特記仕様書 (8) 2024.04 縮尺 1/</p> <p>作図 年 月 日</p>																																																										



付近見取図



配置図兼外部仮設計画図 S=1/800

▨ : 改修建物を示す。
 ▼ : 工事車両進入口を示す。
 ※資機材置き場はガードフェンスH=1800等で区画すること

	受注者	株式会社日産技術コンサルタント	工事名	係	係長	課長補佐	課長	図面番号
		一級建築士事務所 大阪府知事登録(チ)第10818号 大阪市中央区南久宝寺町3-1-8 TEL 06-6243-2311 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号	潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事(R6-1)					A-01
			図面名 付近見取図、配置図兼外部仮設計画図	縮尺 1/800	作図	年	月	日

■ 施工条件

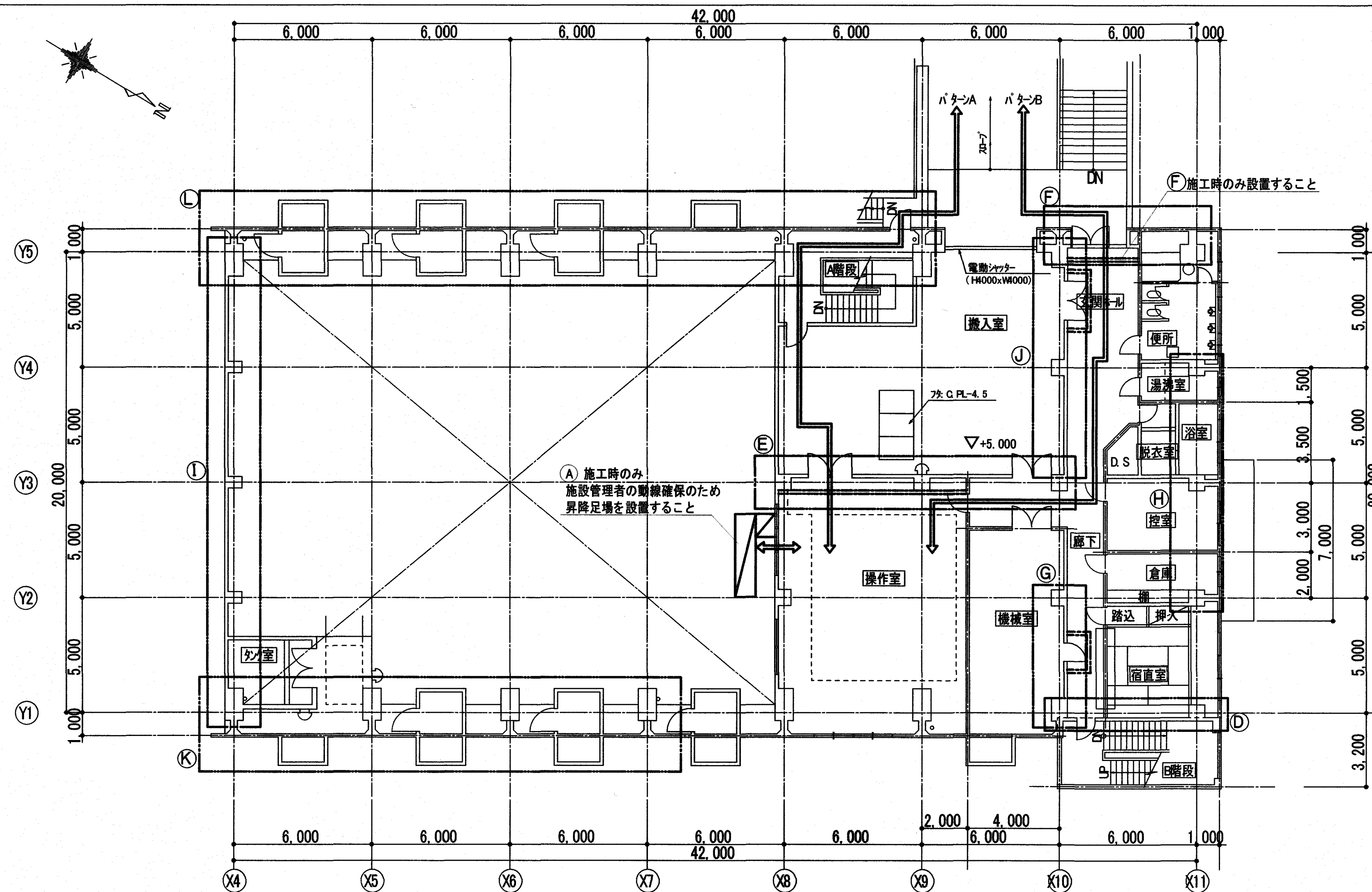
- 大雨注意報以上の気象情報発表中又は発表同等の大雨等があり、建物内ポンプエンジンの稼働時は、下記の改修補強リスト該当箇所は作業禁止とする。
なお、作業中に発表等があった場合は、直ちに作業を中止すること。
 - 施設管理者の動線確保のため、改修補強リスト符号Eの施工は、E及びLと同時期に施工しない。
(パターンA又は、Bのいずれかの動線を確保すること。)
- ※内部建具のガラス改修については、上記①②ともに該当しない。
- 別契約関連工事(機械設備)は令和7年4月20日頃契約予定。
取合部の配筋、コンクリート打設は機械設備施工後に実施すること。
仮設、解体工事は施工可能。
 - 湯沸室、脱衣室、浴室、控室、倉庫、宿直室以外は工事期間中に施設管理者が点検等で利用する。
 - 解体撤去時等に粉塵が発生する工事は、粉塵を作業箇所以外に発生させないようにビニール等で作業箇所を囲うなどの養生を行うこと。

■ 施設管理者の動線

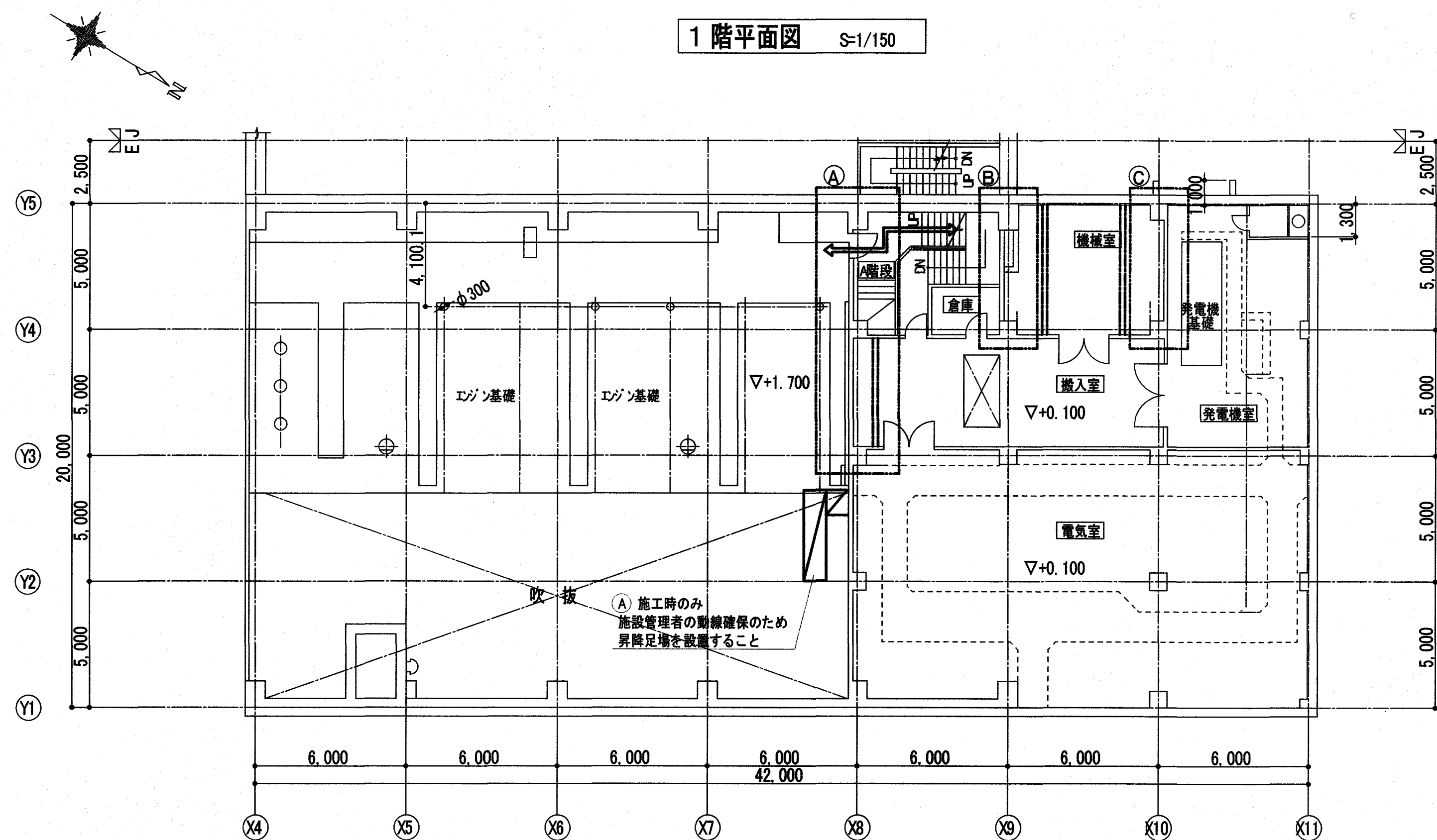
- 大雨注意報以上の気象情報発表中又は発表同等の大雨等があり、建物内ポンプエンジンの稼働時は、同敷地内管理棟から本建物A階級の外部建具から進入し、1階操作室へ行き(パターンA)ポンプエンジンを稼働させ、A階級より地下1階エンジン基礎へ移動する。
- L 施工時は、玄関ホールから進入し、操作室へ移動する。(パターンB)
- A 施工時は、操作室横に設置する昇降足場にて、地下1階エンジン基礎へ移動する。

改修補強リスト

符号	改修内容	前	後	詳細図面名称	施工条件①該当箇所	施工条件③該当箇所
A	RC壁増打ち	壁厚 t=180	壁厚 t=180+170	部分詳細図(1)	○	○
B	RC壁増打ち	壁厚 t=180	壁厚 t=180+220	部分詳細図(2)	○	○
C	RC壁増打ち	壁厚 t=150	壁厚 t=150+250	部分詳細図(3)	○	○
D	RC壁増打ち	壁厚 t=180	壁厚 t=180+220	部分詳細図(4)	○	○
E	RC壁新設	壁厚 t=150	壁厚 t=300	部分詳細図(5)	○	○
F	RC壁新設	-	壁厚 t=300	部分詳細図(7)	○	○
G	開口閉塞	-	壁厚 t=150	部分詳細図(8)	○	○
H	RC壁新設	-	壁厚 t=300	部分詳細図(9)	○	○
I	RC壁増打ち	壁厚 t=150	壁厚 t=150+250	部分詳細図(10)	○	○
J	開口閉塞、RC壁増打ち	壁厚 t=150	壁厚 t=150+250	部分詳細図(12)	○	○
K	開口閉塞、柱増打ち	-	壁厚 t=150	部分詳細図(13)	○	○
L	開口閉塞、柱増打ち	-	壁厚 t=150	部分詳細図(15)	○	○



1階平面図 S=1/150



地下1階平面図 S=1/150

- 【凡例】
- : 耐震補強箇所を示す
 - : 仮設間仕切りを示す
 - ⇄ : 施設管理者動線を示す
 - ▲ : 昇降足場を示す(A 施工時のみ)

受注者

株式会社日産技術コンサルタント
 一級建築士事務所 大阪府知事登録(チ)第 10818号
 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
 管理技術者 国松 幹夫 一級建築士登録 第 229478号

工事名

潮江水再生センター内分流通雨水ポンプ機耐震改修工事(R6-1)

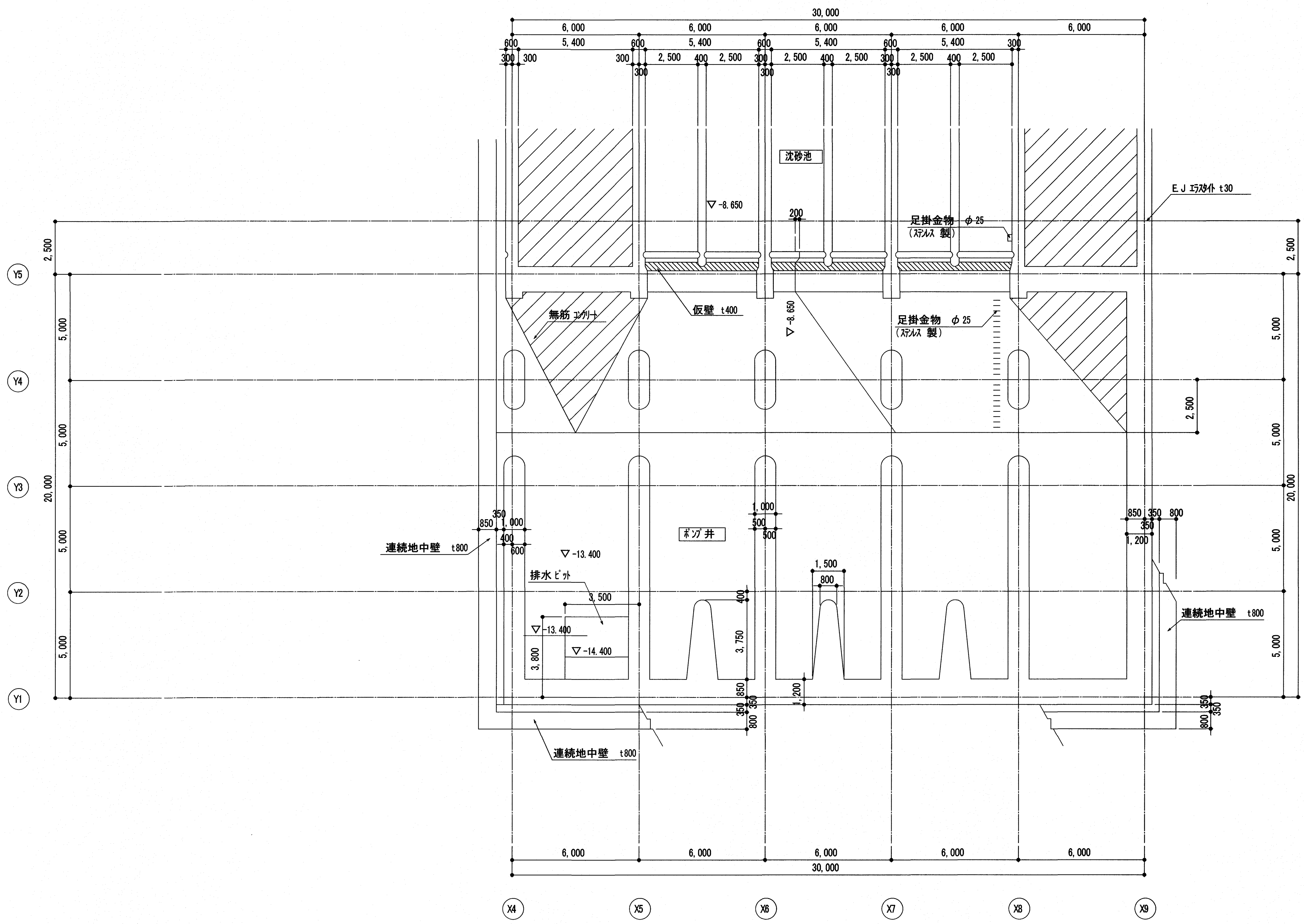
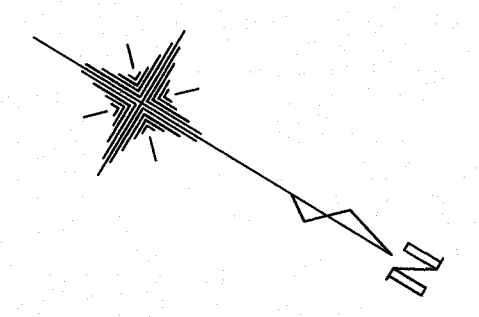
図面名 内部仮設計画図

縮尺 1/150

係長 課長補佐 課長 図面番号

作図 年 月 日

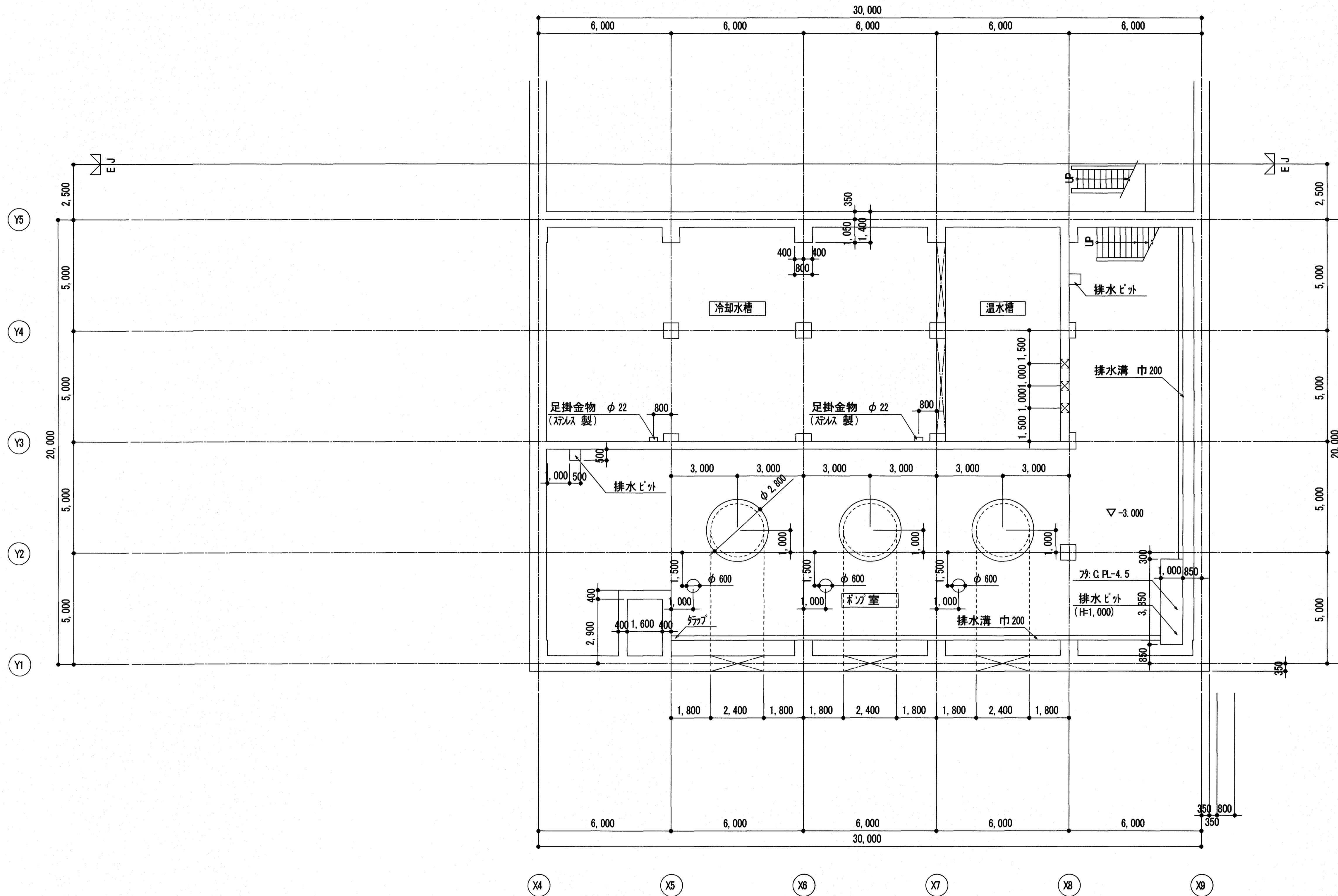
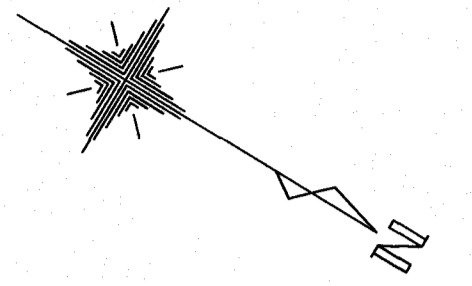
A-02



地下3階平面図 S=1/100 ※改修対象箇所なし

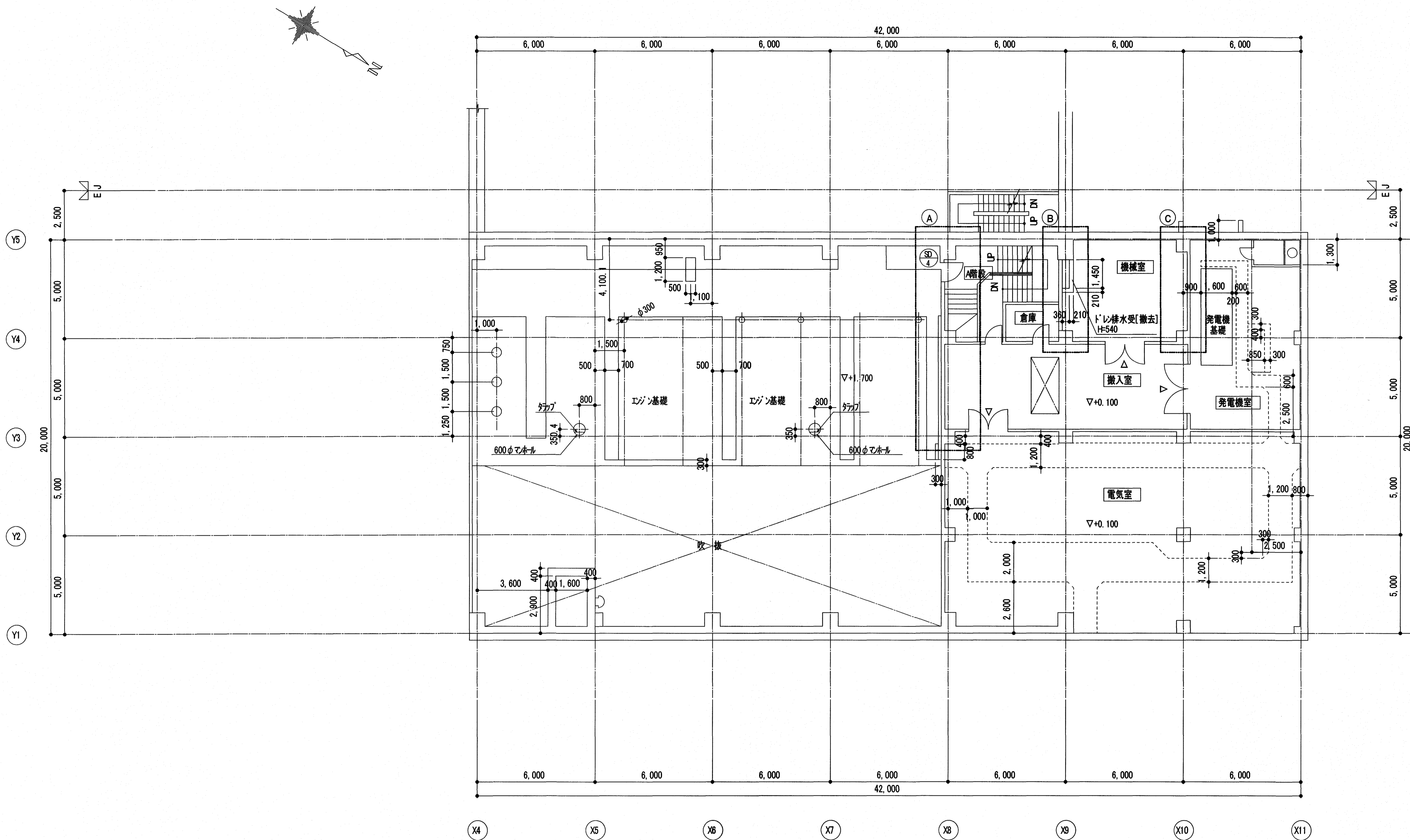
参考図

受注者	株式会社日産技術コンサルタント	工事名	係	係長	課長補佐	課長	図面番号
	一級建築士事務所 大阪府知事登録(チ)第 10818号 大阪府中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311	潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事(R6-1)					A-03
	管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第 229478号	図面名 地下3階平面図(参考図) 縮尺 1/100	作図	年	月	日	



参考図

受注者	株式会社日産技術コンサルタント 一級建築士事務所 大阪府知事登録(子) 第 10818 号 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第 229478 号	工事名	係	係長	課長補佐	課長	図面番号
		潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事(R6-1)					A-04
		図面名 地下2階平面図(参考図)	縮尺 1/100	作図	年	月	日



地下1階平面図 S=1/100

改修補強箇所

符号	改修内容	前	後	詳細図面名称
(A)	RC壁増打ち	壁厚 t=180	壁厚 t=180+170	部分詳細図(1)
(B)	RC壁増打ち	壁厚 t=180	壁厚 t=180+220	部分詳細図(2)
(C)	RC壁増打ち	壁厚 t=150	壁厚 t=150+250	部分詳細図(3)

【凡例】

- [] : 改修内容を示す
- ⊗ : 建具記号(記載箇所のみ改修。)
- : 耐震補強箇所を示す。

受注者

株式会社日産技術コンサルタント
 一級建築士事務所 大阪府知事登録(チ)第10818号
 大阪市中央区南久宝寺町3-1-8 TEL 06-6243-2311
 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号

工事名

潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事(R6-1)

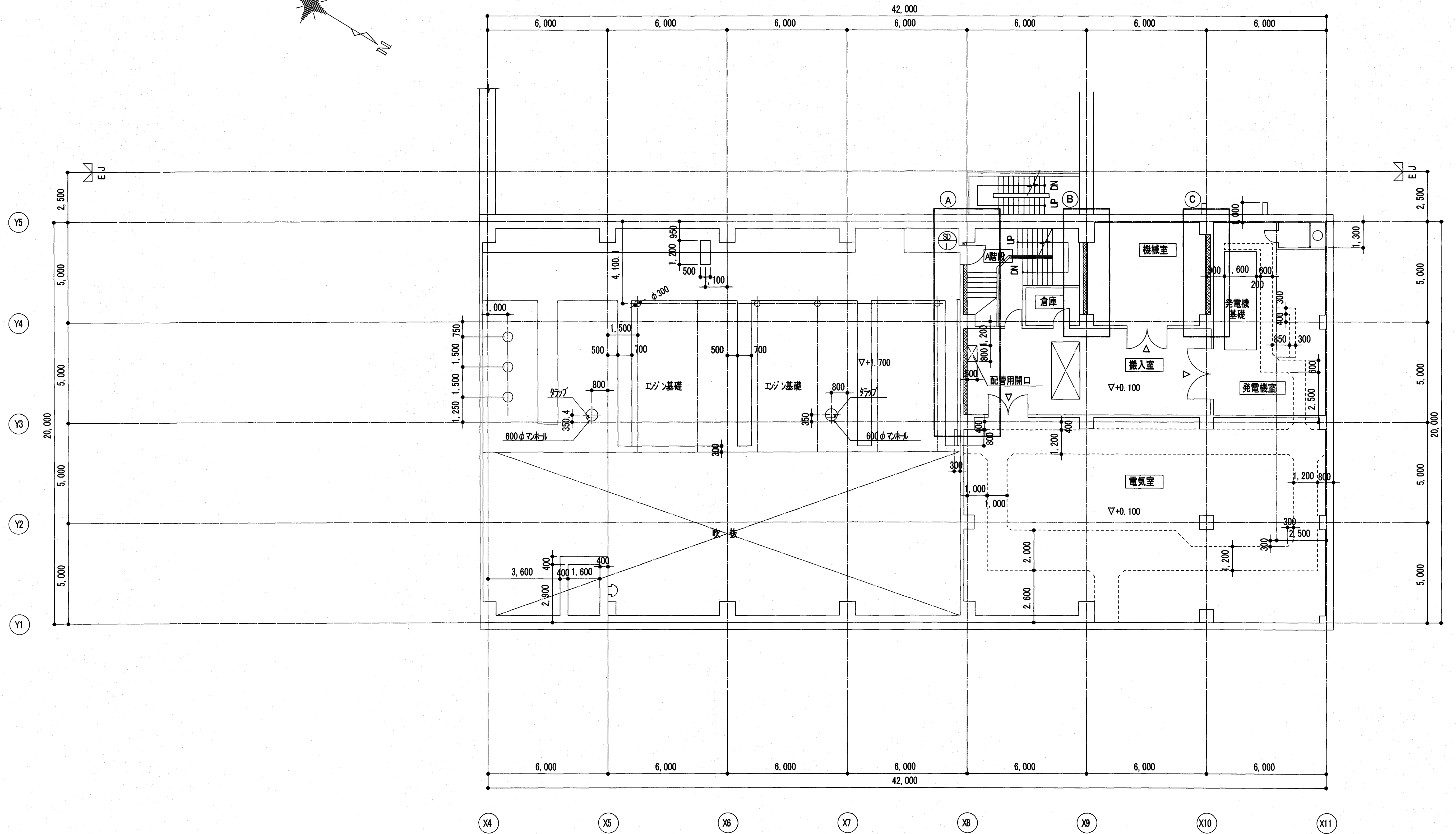
図面名(改修前)地下1階平面図

縮尺 1/100

係長 課長補佐 課長 図面番号

作図 年 月 日

A-05



地下1階平面図 S=1/100

改修補強箇所

符号	改修内容	前	後	詳細図面名称
(A)	RC壁増打ち	壁厚 t=180	壁厚 t=180+170	部分詳細図(1)
(B)	RC壁増打ち	壁厚 t=180	壁厚 t=180+220	部分詳細図(2)
(C)	RC壁増打ち	壁厚 t=150	壁厚 t=150+250	部分詳細図(3)

【凡例】

- [] : 改修内容を示す
- ⊗ : 建具記号(記載箇所のみ改修。)
- ▨ : 壁増打ちを示す。
- : 耐震補強箇所を示す。

受注者

株式会社日産技術コンサルタント
 一級建築士事務所 大阪府知事登録(チ)第10818号
 大阪市中央区南久宝寺町3-1-8 TEL 06-6243-2311
 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第229478号

工事名

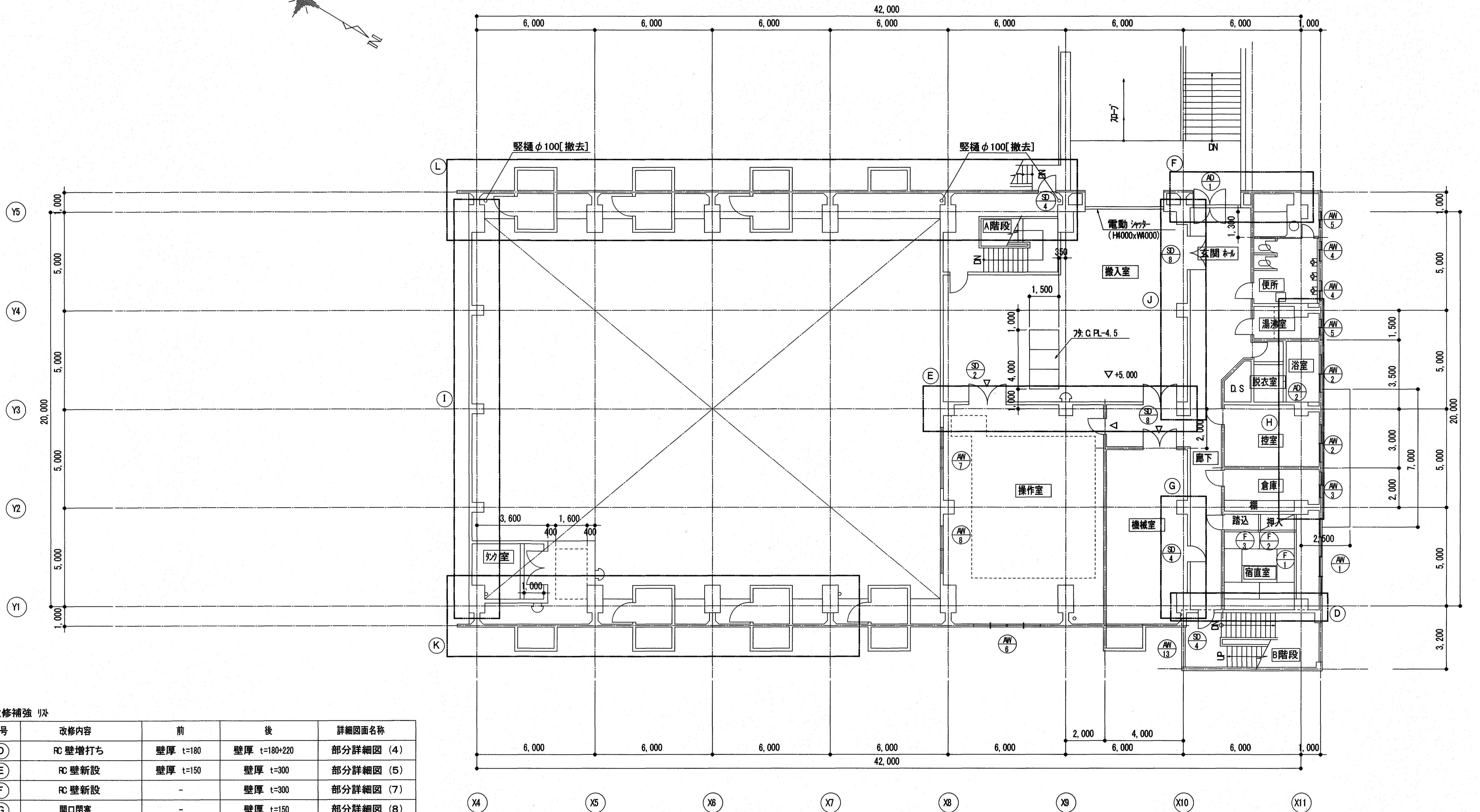
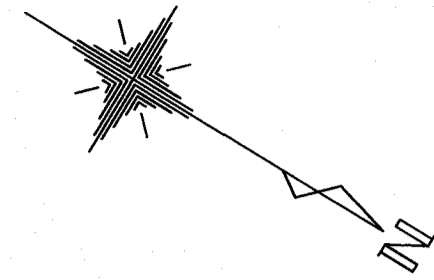
潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事(R6-1)

図面名(改修後)地下1階平面図

縮尺 1/100

係 係長 課長補佐 課長 図面番号

作図 年 月 日 A-06



1階平面図 S=1/100

改修補強 以

符号	改修内容	前	後	詳細図面名称
(D)	RC壁増打ち	壁厚 t=180	壁厚 t=180+220	部分詳細図 (4)
(E)	RC壁新設	壁厚 t=150	壁厚 t=300	部分詳細図 (5)
(F)	RC壁新設	-	壁厚 t=300	部分詳細図 (7)
(G)	開口閉塞	-	壁厚 t=150	部分詳細図 (8)
(H)	RC壁新設	-	壁厚 t=300	部分詳細図 (9)
(I)	RC壁増打ち	壁厚 t=150	壁厚 t=150+250	部分詳細図 (10)
(J)	開口閉塞、RC壁増打ち	壁厚 t=150	壁厚 t=150+250	部分詳細図 (12)
(K)	開口閉塞、柱増打ち	-	壁厚 t=150	部分詳細図 (13)
(L)	開口閉塞、柱増打ち	-	壁厚 t=150	部分詳細図 (15)

【凡例】

- [] : 改修内容を示す
- : 建具記号(記載箇所のみ改修。)
- : 耐震補強箇所を示す。

受注者

株式会社日産技術コンサルタント
 一級建築士事務所 大阪府知事登録(子)第 10818号
 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第 229478号

工事名

潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事(R6-1)

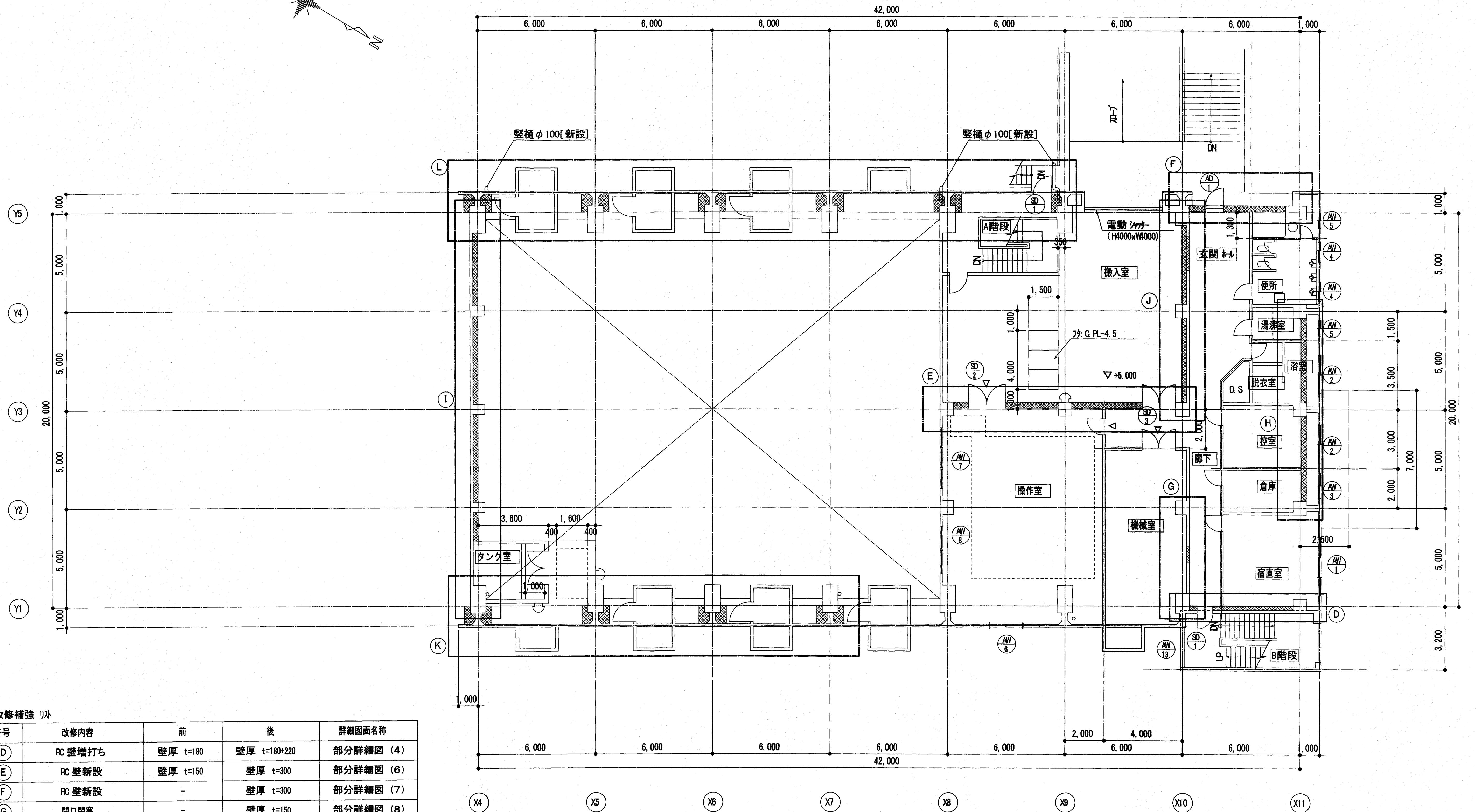
図面名(改修前)1階平面図

縮尺 1/100

係 係長 課長補佐 課長 図面番号

作図 年 月 日

A-07



改修補強 以

符号	改修内容	前	後	詳細図面名称
(D)	RC壁増打ち	壁厚 t=180	壁厚 t=180+220	部分詳細図 (4)
(E)	RC壁新設	壁厚 t=150	壁厚 t=300	部分詳細図 (6)
(F)	RC壁新設	-	壁厚 t=300	部分詳細図 (7)
(G)	開口閉塞	-	壁厚 t=150	部分詳細図 (8)
(H)	RC壁新設	-	壁厚 t=300	部分詳細図 (9)
(I)	RC壁増打ち	壁厚 t=150	壁厚 t=150+250	部分詳細図 (11)
(J)	開口閉塞、RC壁増打ち	壁厚 t=150	壁厚 t=150+250	部分詳細図 (12)
(K)	開口閉塞、柱増打ち	-	壁厚 t=150	部分詳細図 (14)
(L)	開口閉塞、柱増打ち	-	壁厚 t=150	部分詳細図 (16)

1階平面図 S=1/100

【凡例】

- [] : 改修内容を示す
- : 建具記号(記載箇所のみ改修。)
- : 壁増打ちを示す。
- : 耐震補強箇所を示す。

受注者

株式会社日産技術コンサルタント

一級建築士事務所 大阪府知事登録(チ)第 10818号
 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第 229478号

工事名

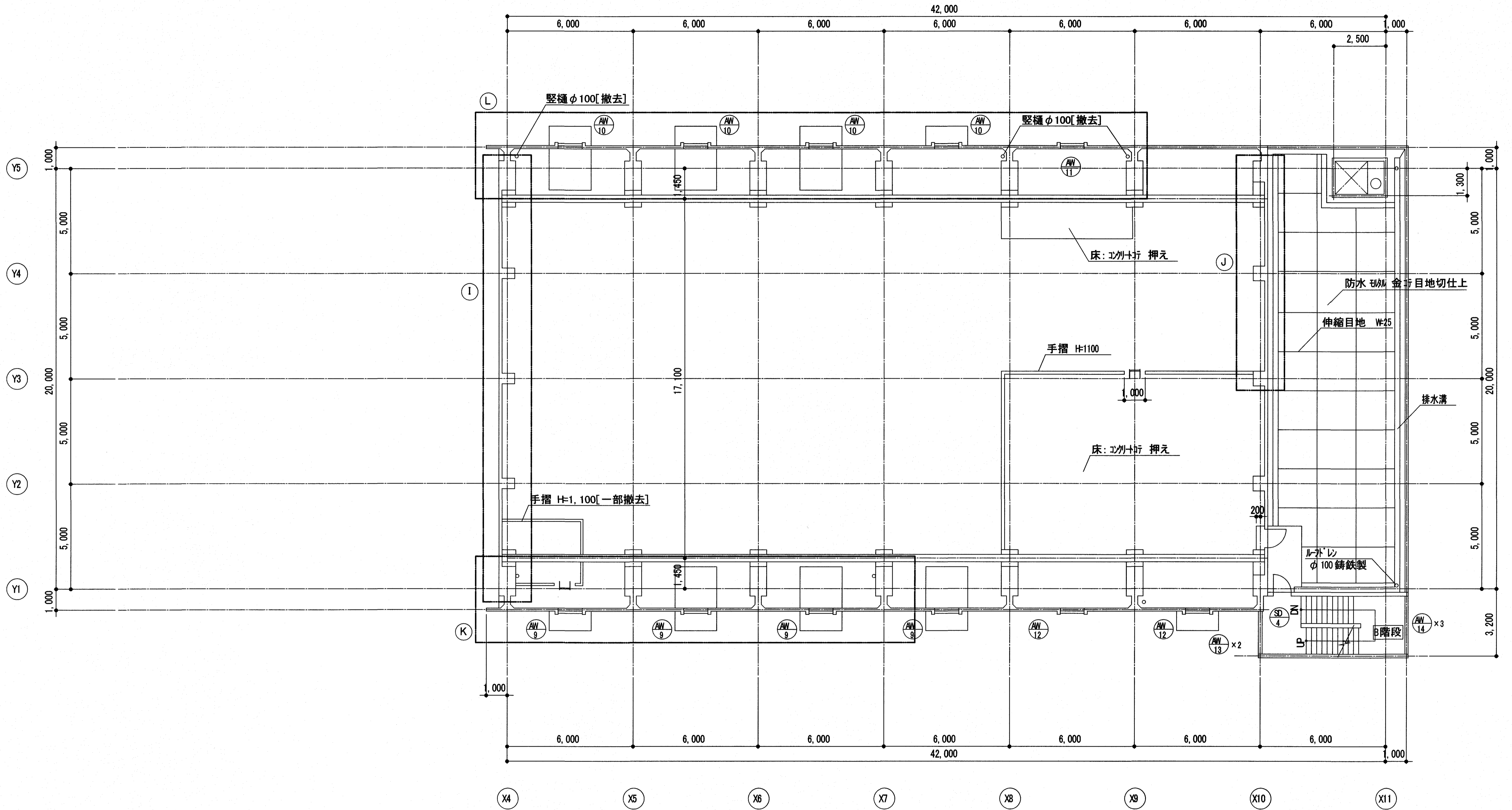
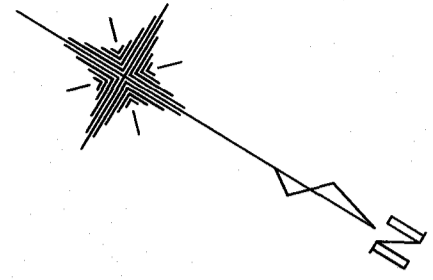
瀬江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事(R6-1)

図面名(改修後)1階平面図

縮尺 1/100

係 係長 課長補佐 課長 図面番号

作図 年 月 日 A-08



2階平面図 S=1/100

改修補強 以外

符号	改修内容	前	後	詳細図面名称
①	RC壁増打ち	壁厚 t=150	壁厚 t=150+250	部分詳細図 (10)
②	開口閉塞、RC壁増打ち	壁厚 t=150	壁厚 t=150+250	部分詳細図 (12)
③	開口閉塞、柱増打ち	-	壁厚 t=150	部分詳細図 (13)
④	開口閉塞、柱増打ち	-	壁厚 t=150	部分詳細図 (15)

【凡例】

- [] : 改修内容を示す
- ⊙ : 建具記号(記載箇所のみ改修。)
- : 耐震補強箇所を示す。

受注者

株式会社日産技術コンサルタント
 一級建築士事務所 大阪府知事登録(チ)第 10818号
 大阪府中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
 管理技術者 国松 幹夫 一級建築士登録 第 229478号

工事名

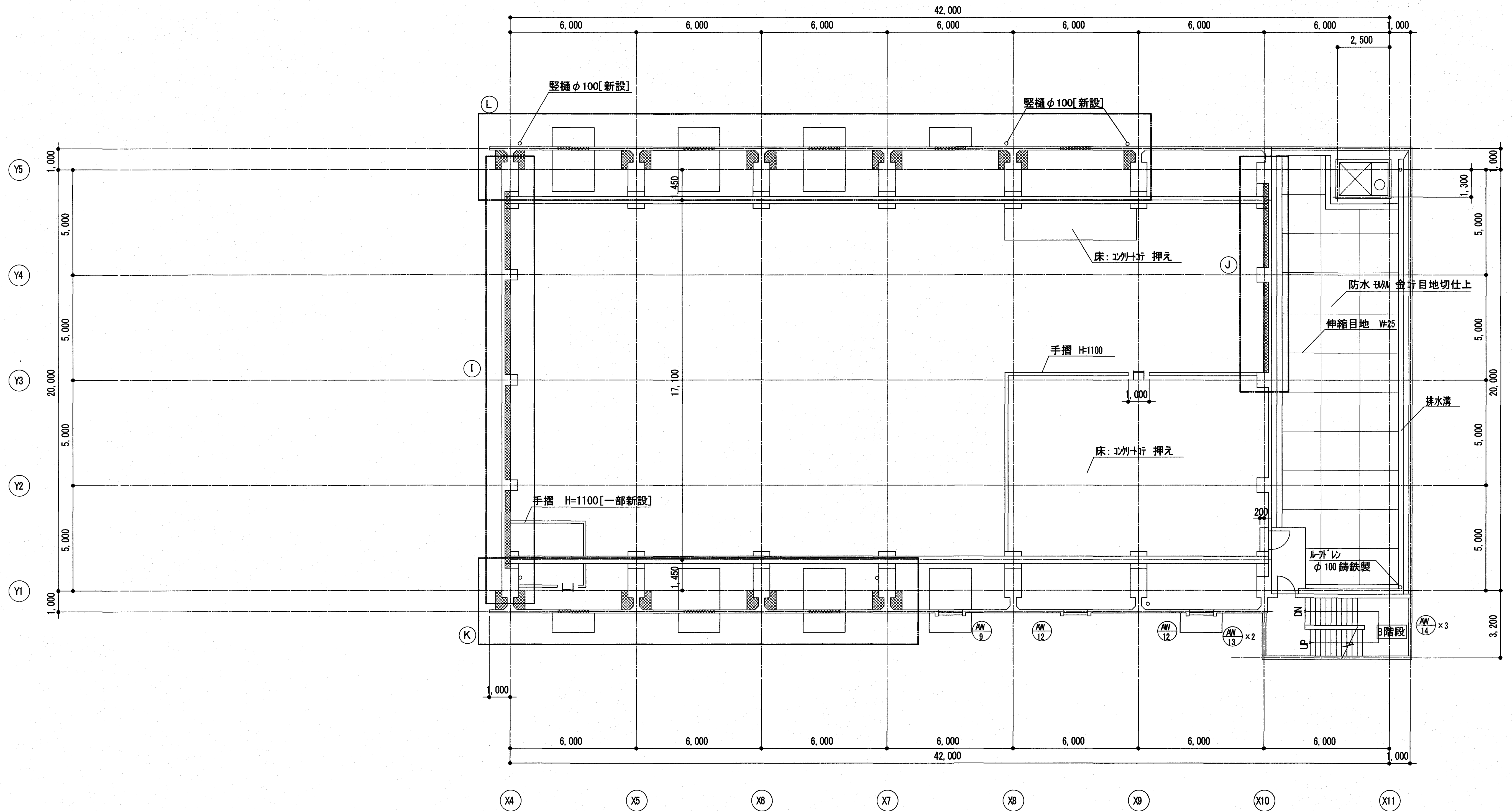
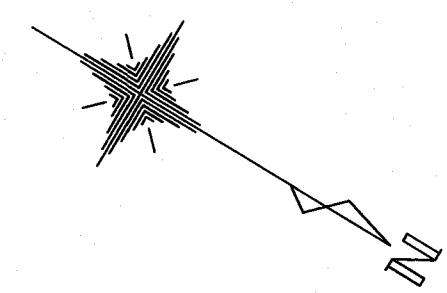
潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事(R6-1)

図面名(改修前)2階平面図

縮尺 1/100

係 係長 課長補佐 課長 図面番号

作図 年 月 日 A-09



2階平面図 S=1/100

改修補強 別

符号	改修内容	前	後	詳細図面名称
①	RC 壁増打ち	壁厚 t=150	壁厚 t=150+250	部分詳細図 (11)
②	開口閉塞、RC 壁増打ち	壁厚 t=150	壁厚 t=150+250	部分詳細図 (12)
③	開口閉塞、柱増打ち	-	壁厚 t=150	部分詳細図 (14)
④	開口閉塞、柱増打ち	-	壁厚 t=150	部分詳細図 (16)

【凡例】

- [] : 改修内容を示す
- ⊙ : 建具記号(記載箇所のみ改修。)
- : 壁増打ちを示す。
- : 耐震補強箇所を示す。

受注者

株式会社日産技術コンサルタント
 一級建築士事務所 大阪府知事登録(チ)第 10818号
 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第 229478号

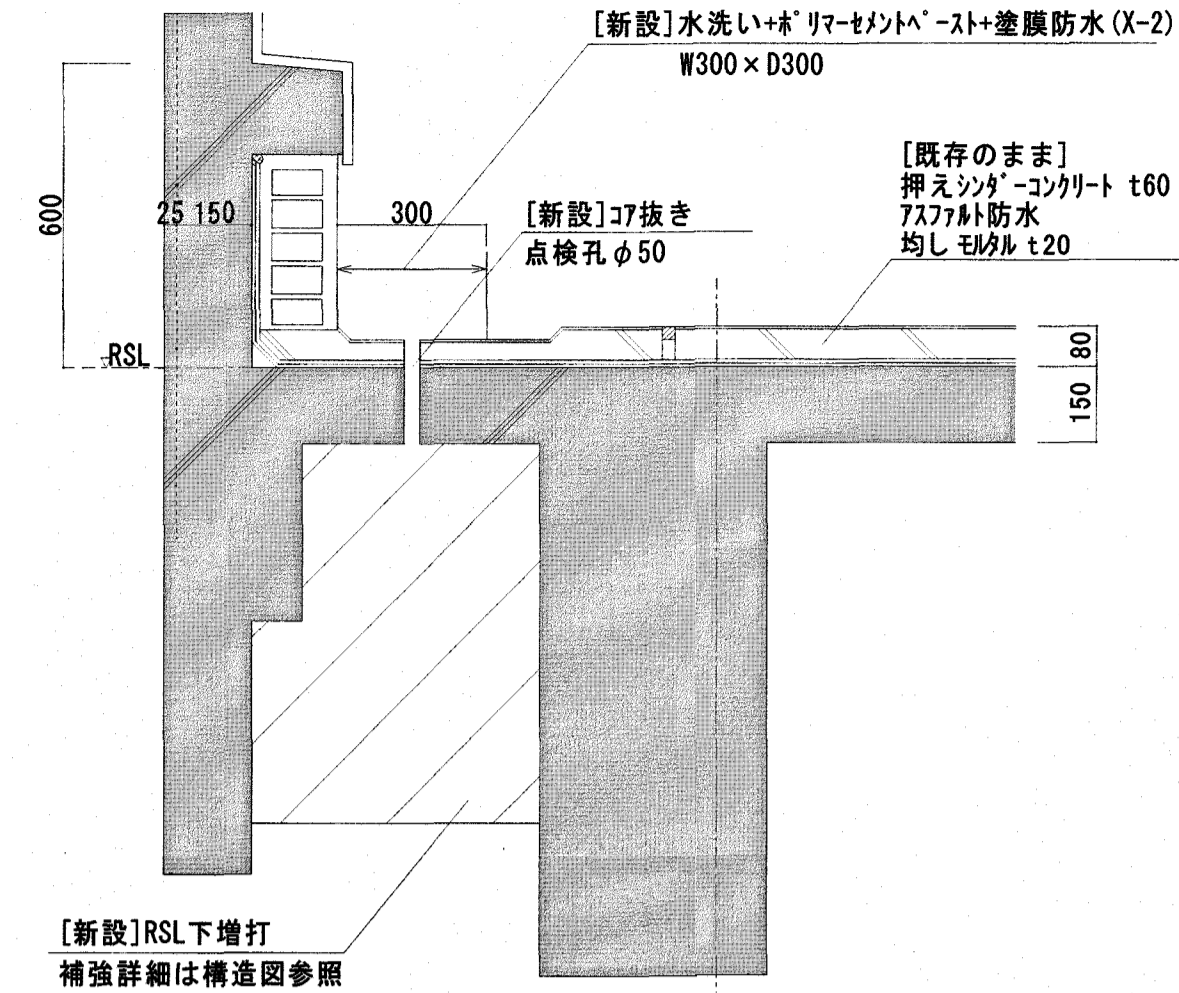
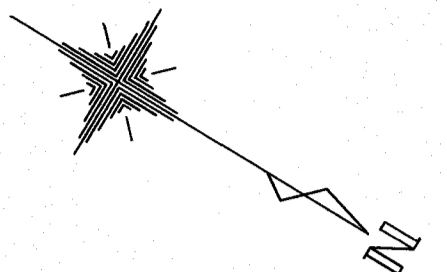
工事名

潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事(R6-1)

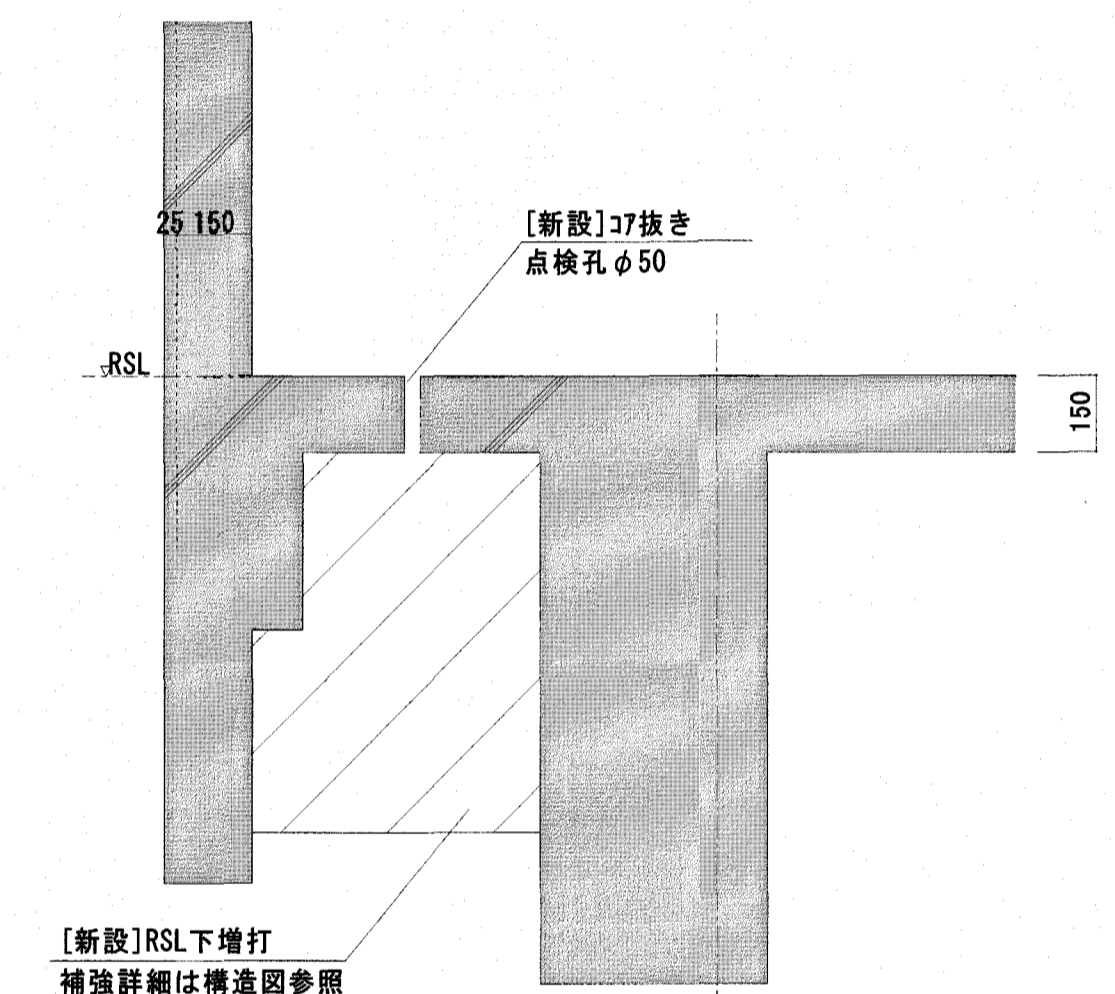
図面名(改修後)2階平面図

縮尺 1/100

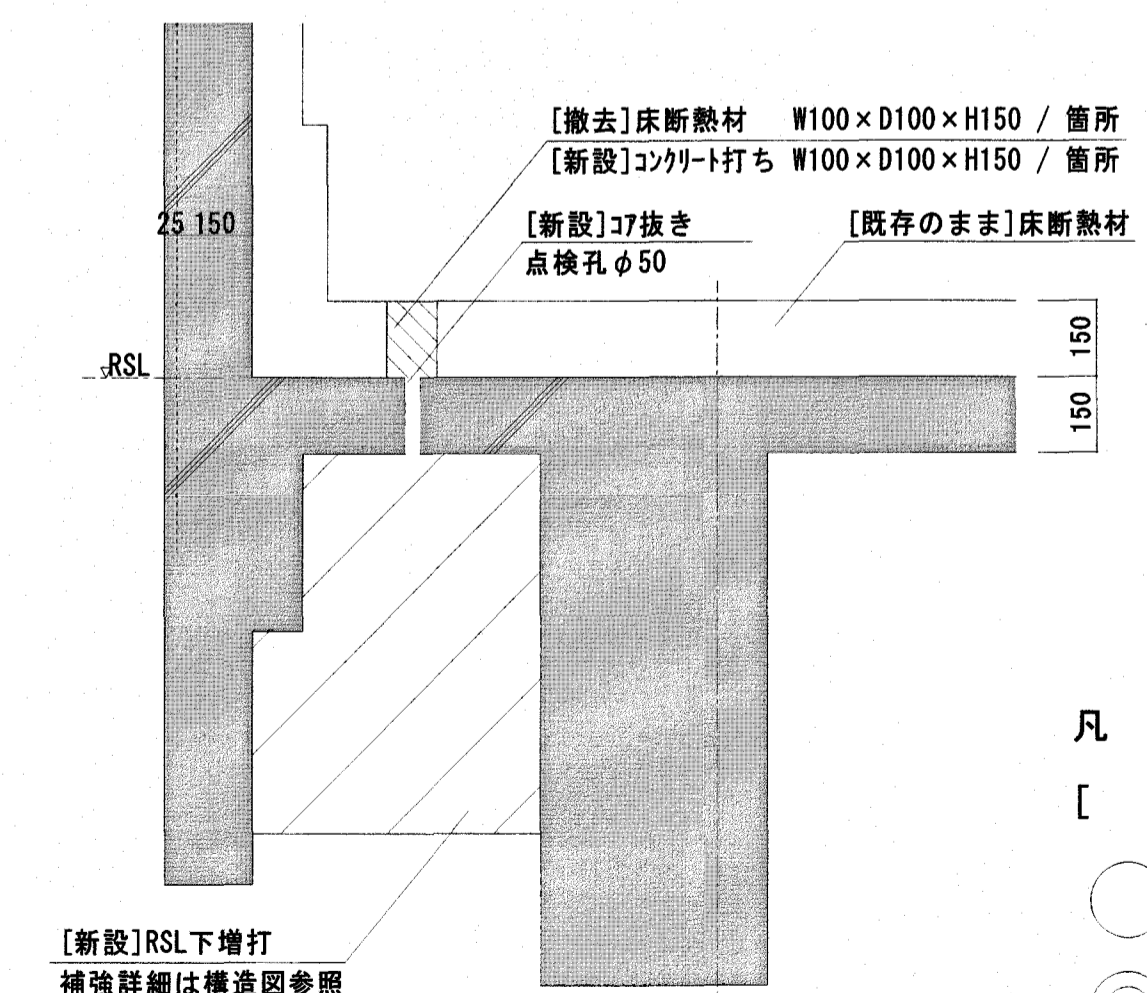
係	係長	課長補佐	課長	図面番号
作図	年 月 日			A-10



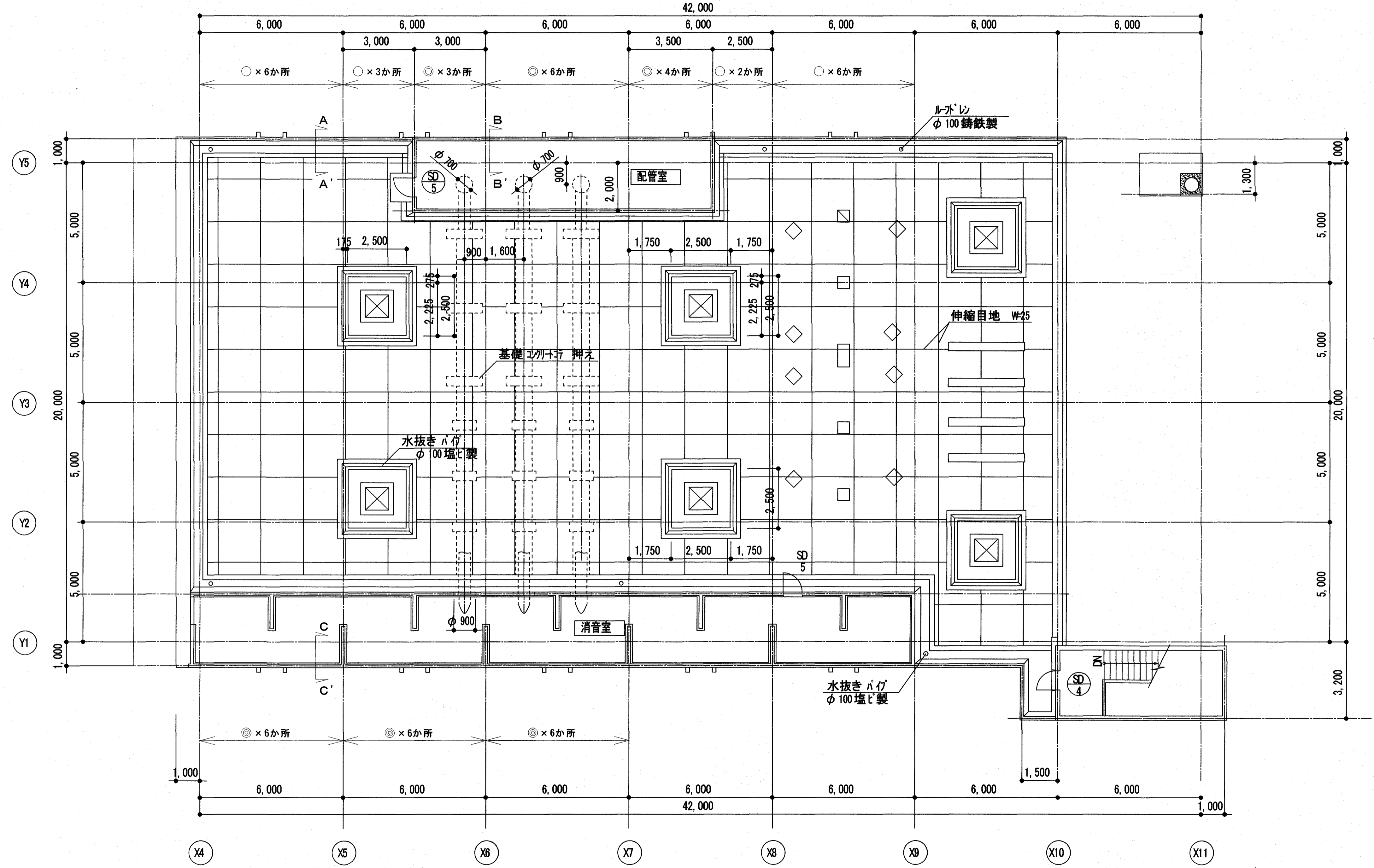
A-A' 断面図 1/15



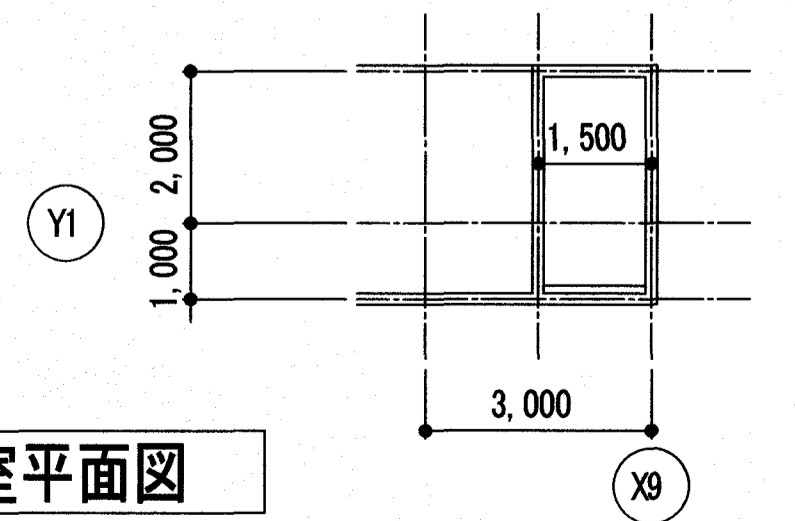
B-B' 断面図 1/15



C-C' 断面図 1/15

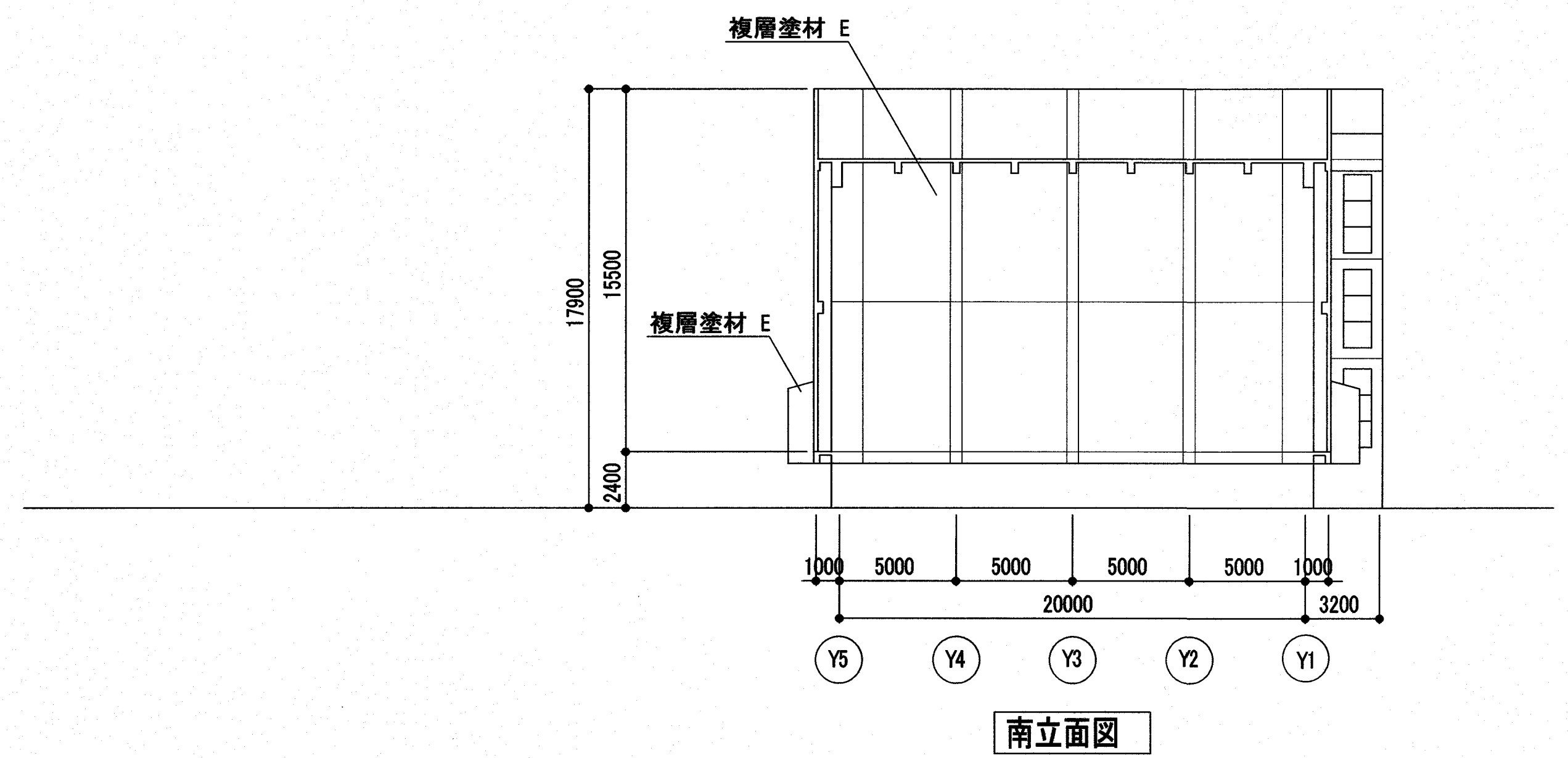
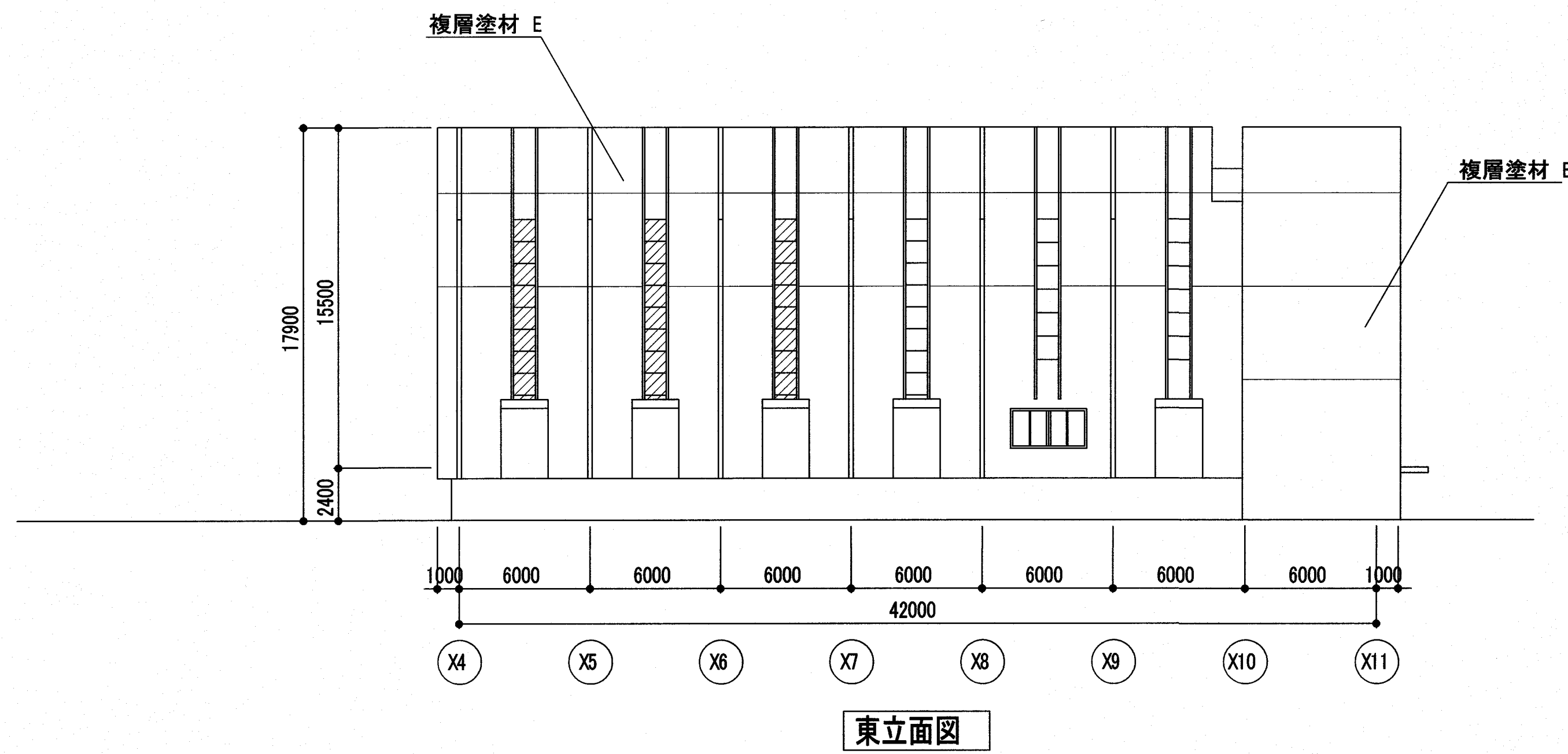
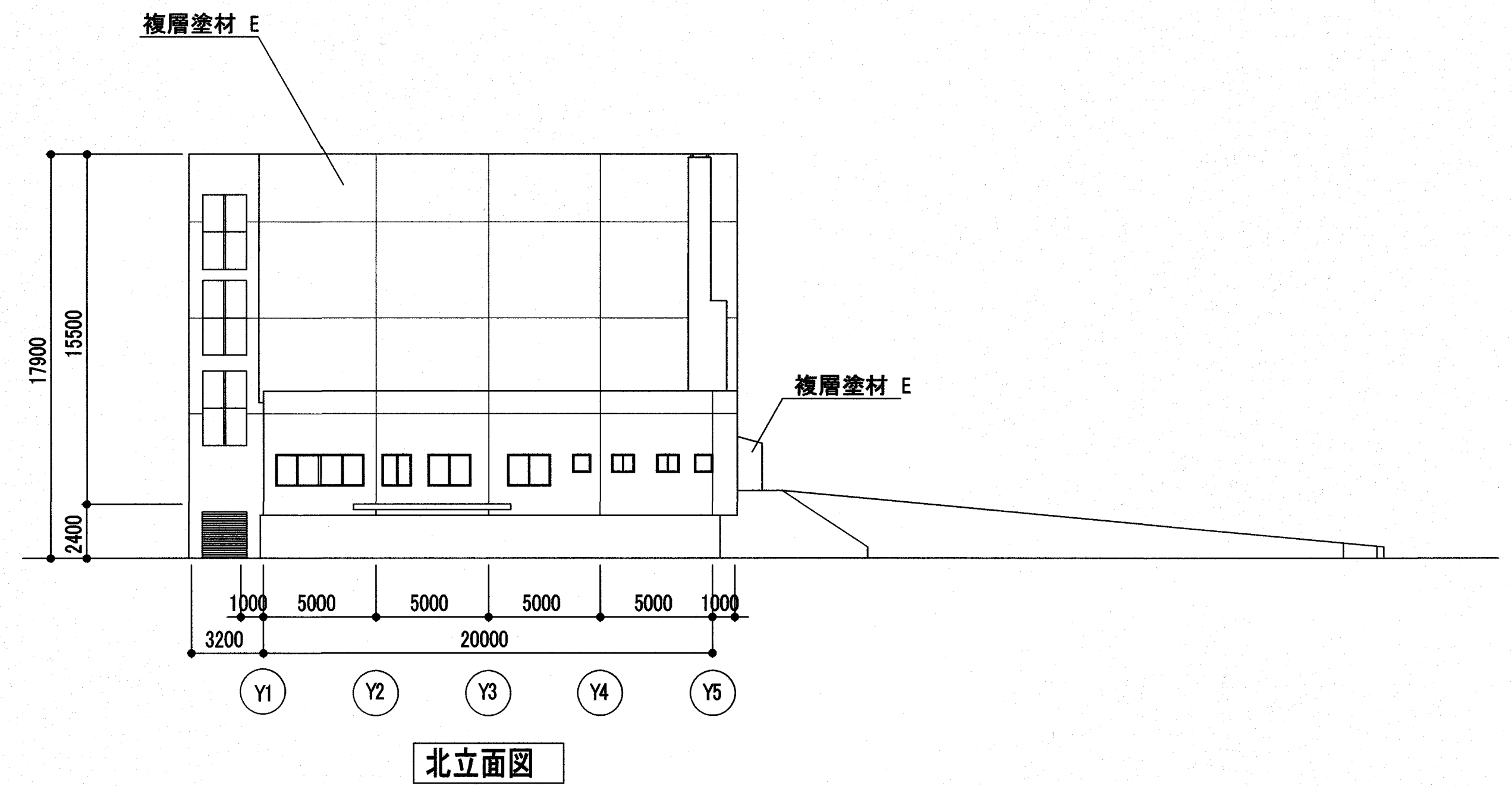
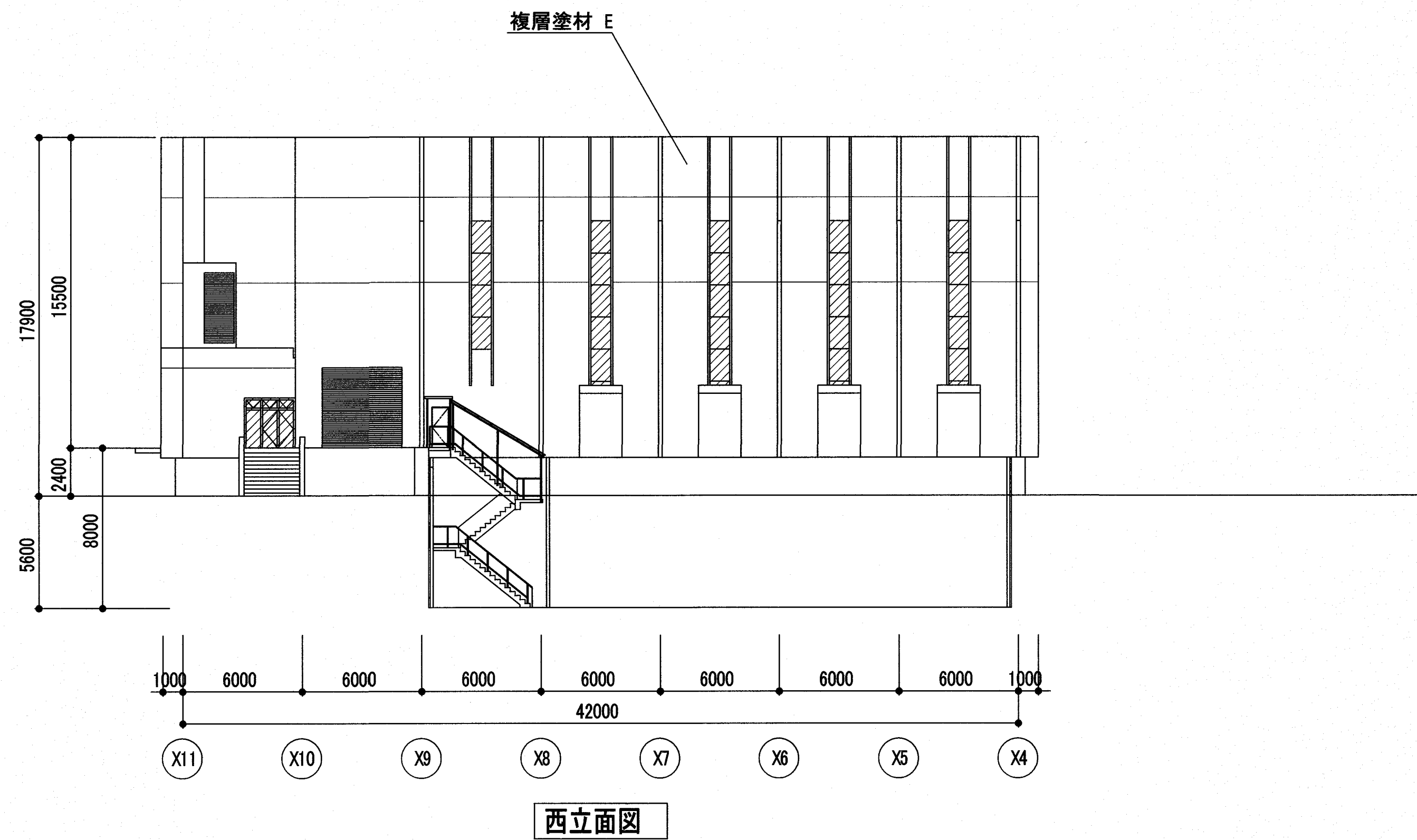


R階平面図 S=1/100



- 凡例
- []・・・改修内容を示す
 - ・・・[新設]RSL増打部点検孔φ50
 - ・・・[新設]水洗い+ホリマセメント+ス+塗膜防水(X-2) W300×D300
 - ・・・[新設]RSL増打部点検孔φ50
 - ◎・・・[撤去]床断熱材 W100×D100×H150
 - ◎・・・[新設]RSL増打部点検孔φ50、コンクリート打ちW100×D100×H150

受注者	株式会社日産技術コンサルタント	工事名	係	係長	課長補佐	課長	図面番号	
	一級建築士事務所 大阪府知事登録(子)第 10818号 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第 229478号	潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事(R6-1)						A-11
		図面名(改修前後)R階平面図	縮尺	1/100.15		作図	年 月 日	



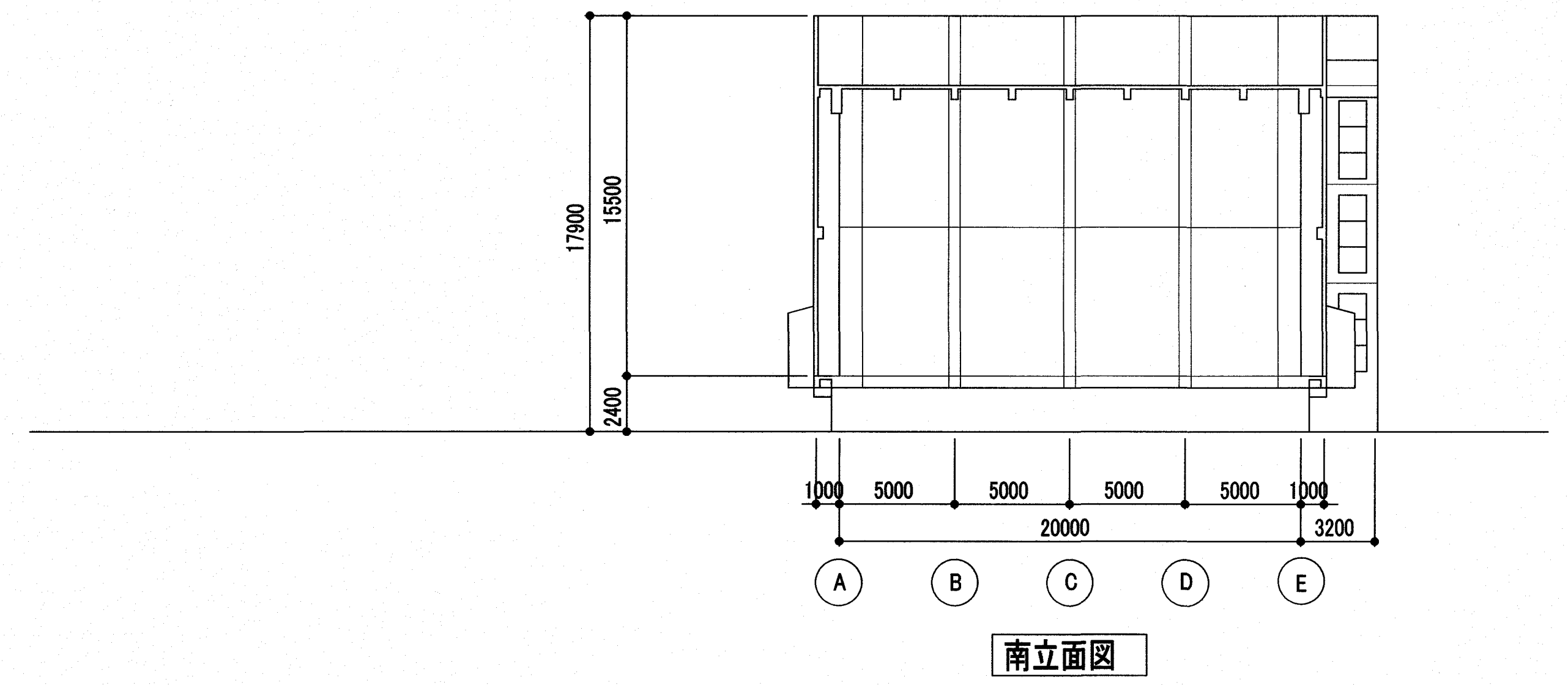
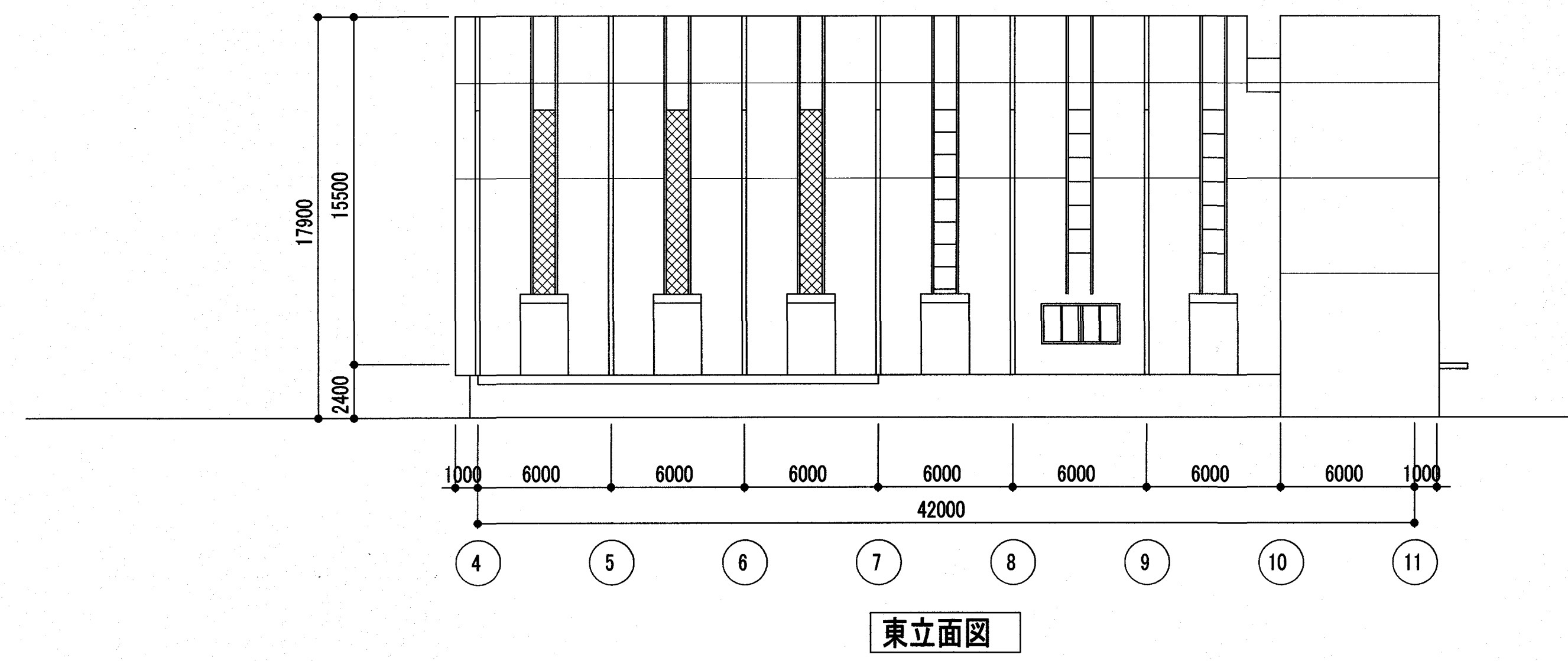
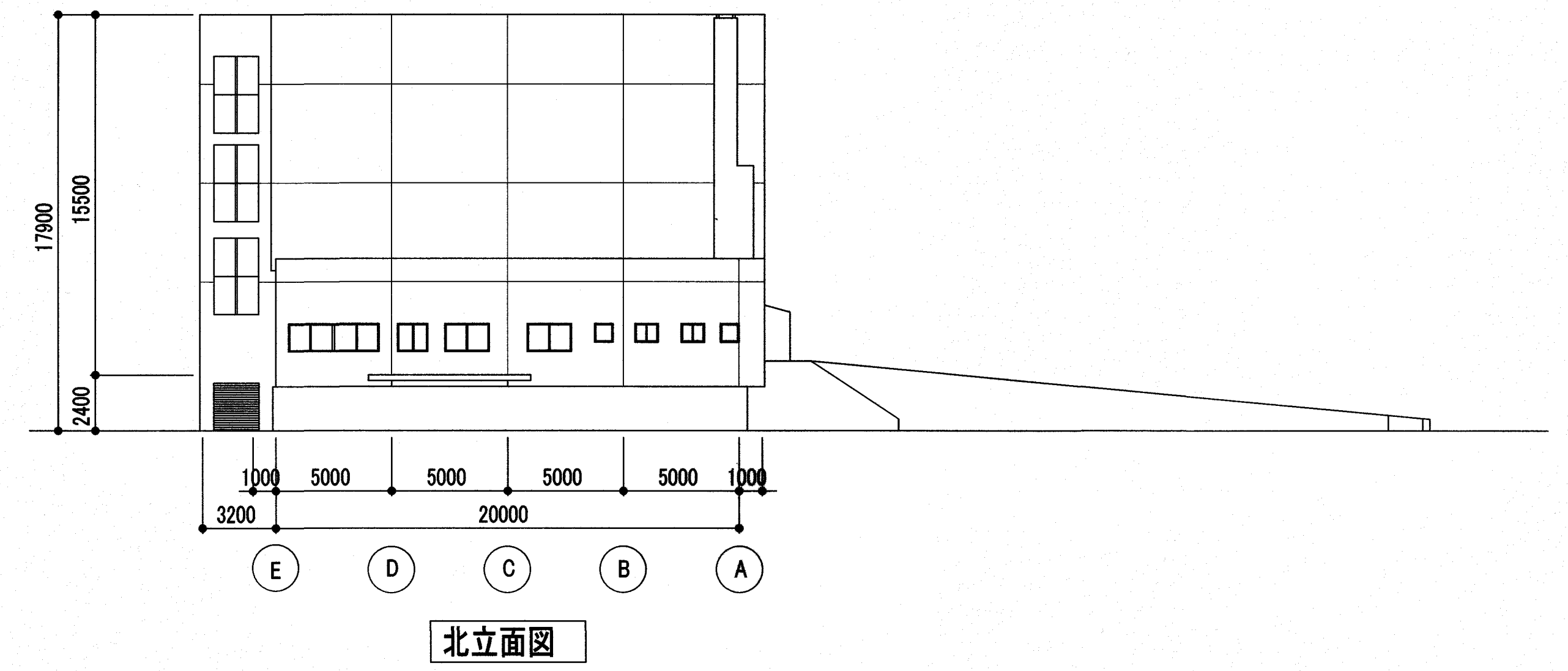
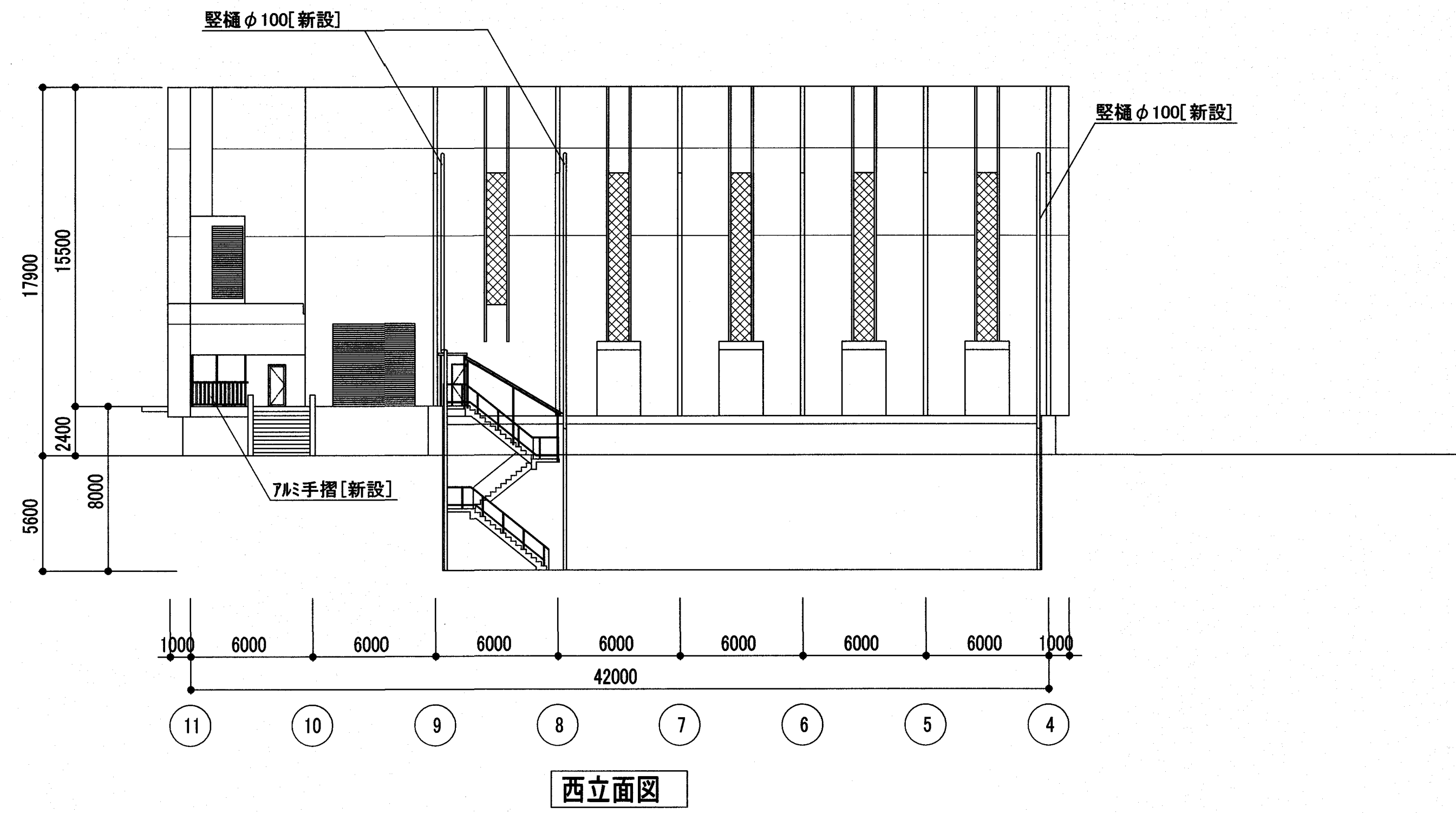
- 【凡例】
- [] : 改修内容を示す
 - ▨ : ヲン撤去を示す

受注者

株式会社日産技術コンサルタント
 一級建築士事務所 大阪府知事登録(チ)第 10818号
 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第 229478号

工事名
 潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事(R6-1)
 図面名(改修前)立面図 縮尺 1/200

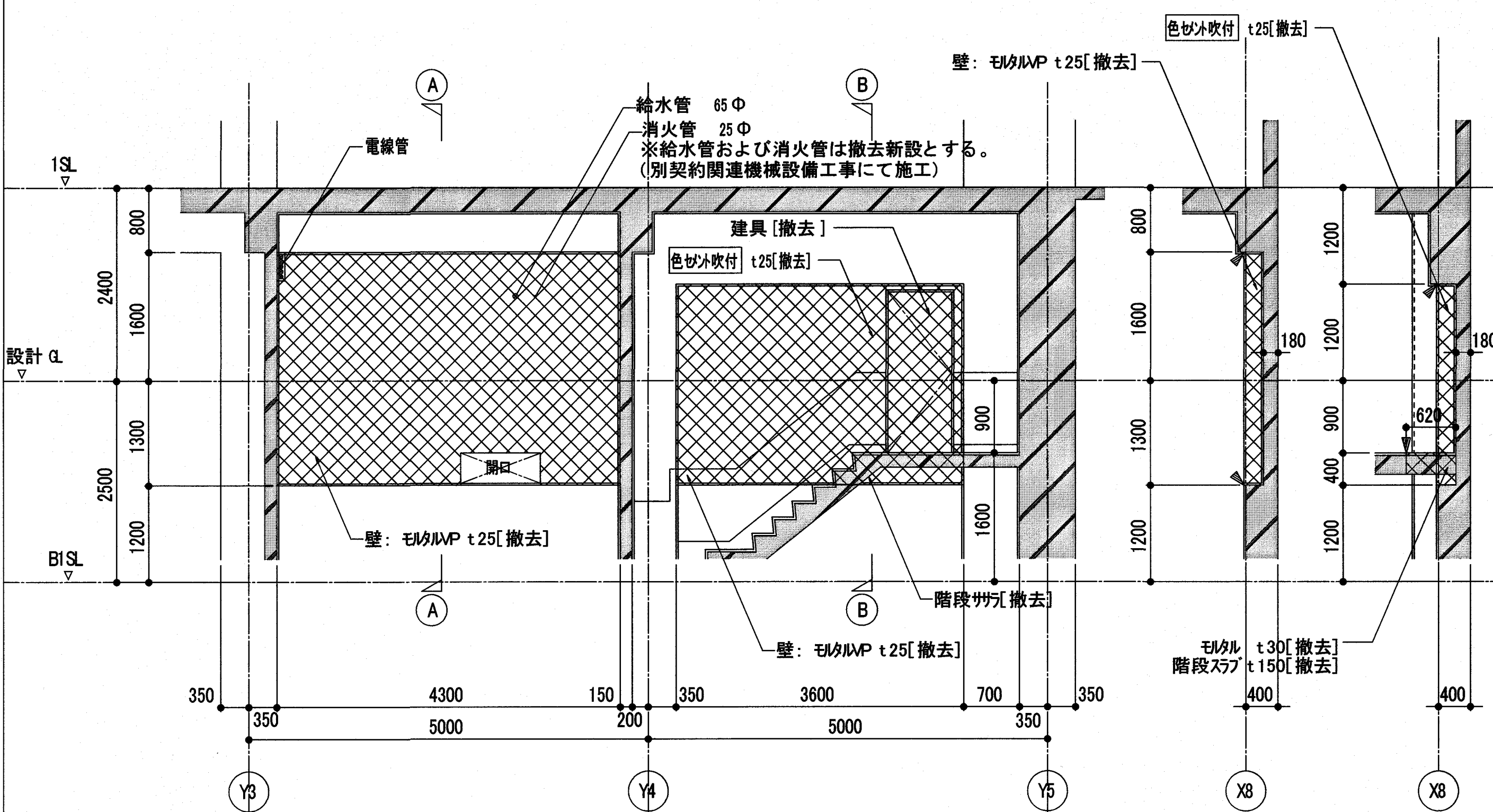
係	係長	課長補佐	課長	図面番号
				A-12
作図	年	月	日	



【凡例】
 [] : 改修内容を示す
 [Hatched Box] : 開口閉塞+複層塗材E[新設]を示す

受注者	株式会社日産技術コンサルタント	工事名	係	係長	課長補佐	課長	図面番号
	一級建築士事務所 大阪府知事登録(子)第 10818号 大阪府中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第 229478号	潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事(R6-1)					A-13
		図面名(改修後)立面図	縮尺	作図 年 月 日			

改修前						改修後					
内部仕上表						内部仕上表					
室名	床	幅木	腰	壁	天井	室名	床	幅木	腰	壁	天井
A 階段	モルタル下地 [一部撤去]	モルタル t25 H=100 [一部撤去]	モルタル t1000 H=1000 [一部撤去]	色付吹付 [一部撤去]	色付吹付 [一部撤去]	A 階段	モルタル下地 [一部新設]	モルタル t25 EP塗 H=100 [一部新設]	EP塗 [一部新設]	EP塗 [一部新設]	コンクリート打放し下地
	段鼻: 磁器質タイル張り [一部撤去]			モルタル下地	コンクリート打放し下地		段鼻: 磁器質タイル張り [一部新設]		コンクリート打放し下地	コンクリート打放し下地	
搬入室	モルタル下地	モルタル t25 H=100	-	モルタル t25 H=100	色付吹付 [一部撤去]	搬入室				EP塗 [一部新設]	コンクリート打放し下地
					コンクリート打放し下地					コンクリート打放し下地	

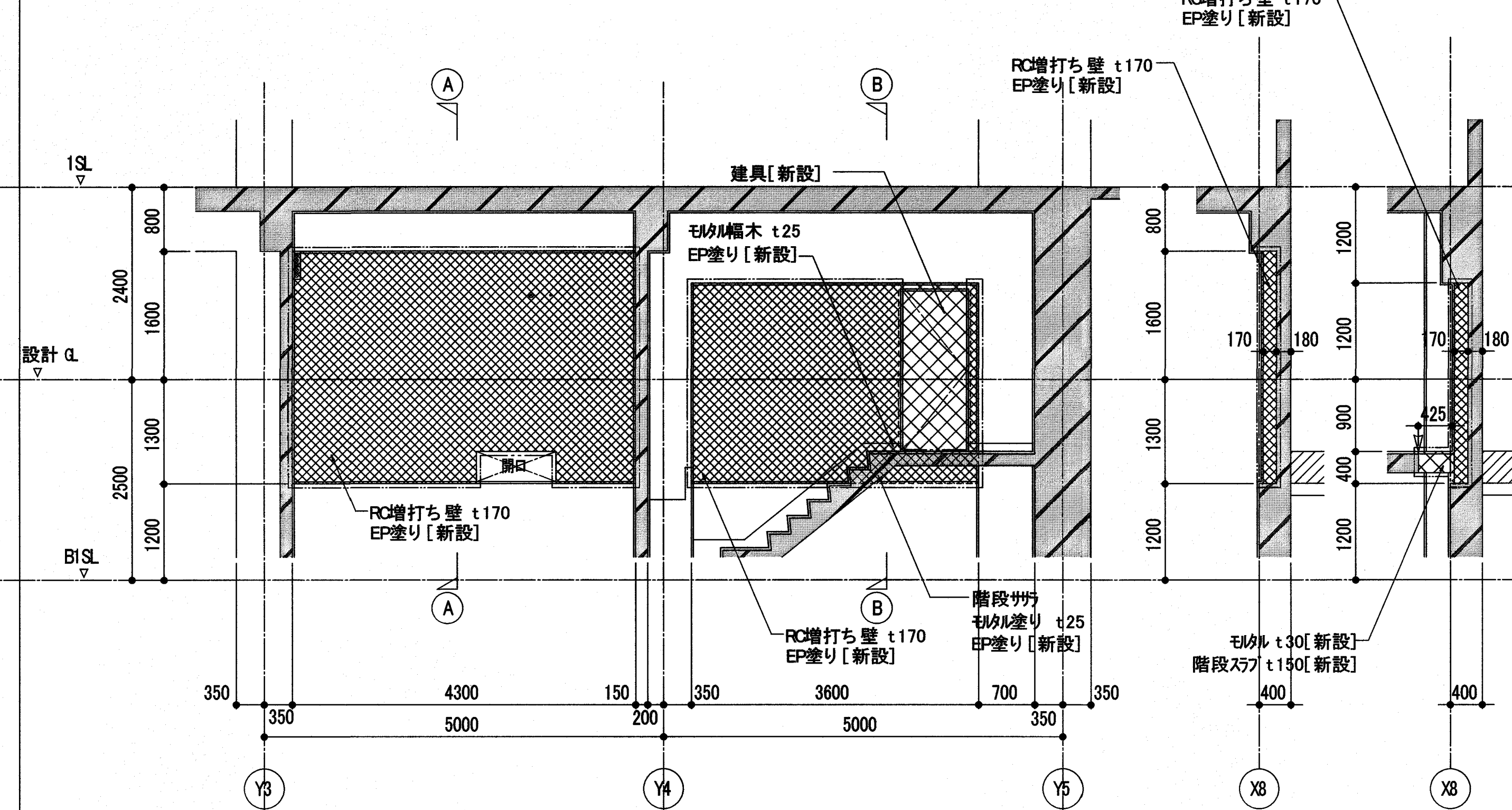


X8通り展開図 1/50

A-A断面図

B-B断面図

平面詳細図 1/50



X8通り展開図 1/50

A-A断面図

B-B断面図

平面詳細図 1/50

SD-4 [撤去]
スル片開きドア
W=800 H=2000、枠・杏摺共

SD-1 [新設]
スル片開きドア
W=800 H=2000、枠・杏摺共

- 【凡例】
- [] : 改修内容を示す
 - ▽ : 加付入れを示す。
 - ▨ : 既存躯体を示す。
 - ▩ : 撤去範囲を示す。

- 【凡例】
- [] : 改修内容を示す
 - ▽ : シーリング (PS-2 20×10) を示す
 - ▨ : RC増打ち壁を示す (補強詳細は構造図を参照)
 - ▩ : 既存躯体を示す。
 - ▩ : 新設範囲を示す。 (補強詳細は構造図を参照)

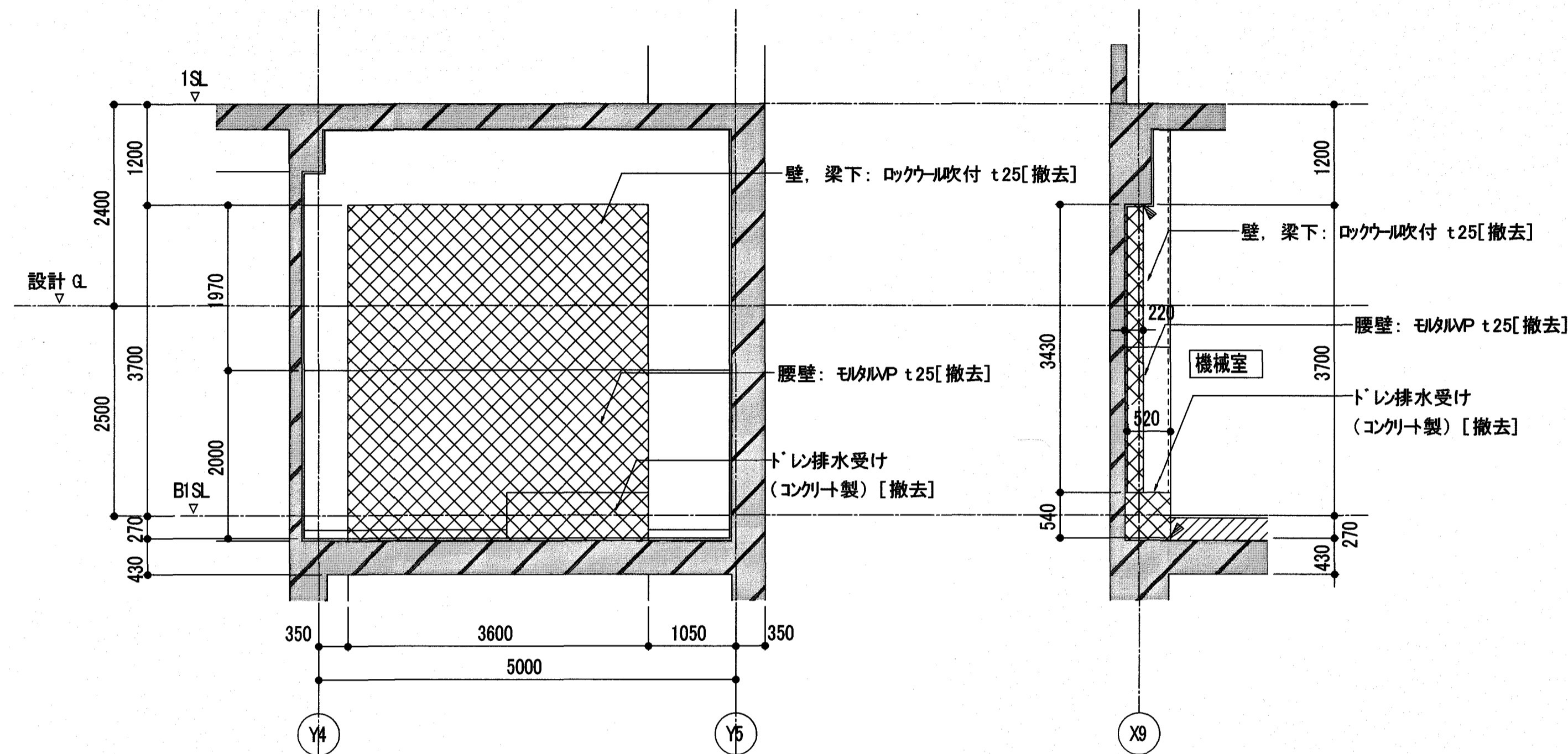
図中VPはVP塗りを示す。
各設備配管の撤去・新設等は別契約関連工事にて施工する。

受注者 株式会社日産技術コンサルタント
 一級建築士事務所 大阪府知事登録(子)第 10818号
 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第 229478号

工事名 潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)
 図面名 部分詳細図(1) 縮尺 1/50

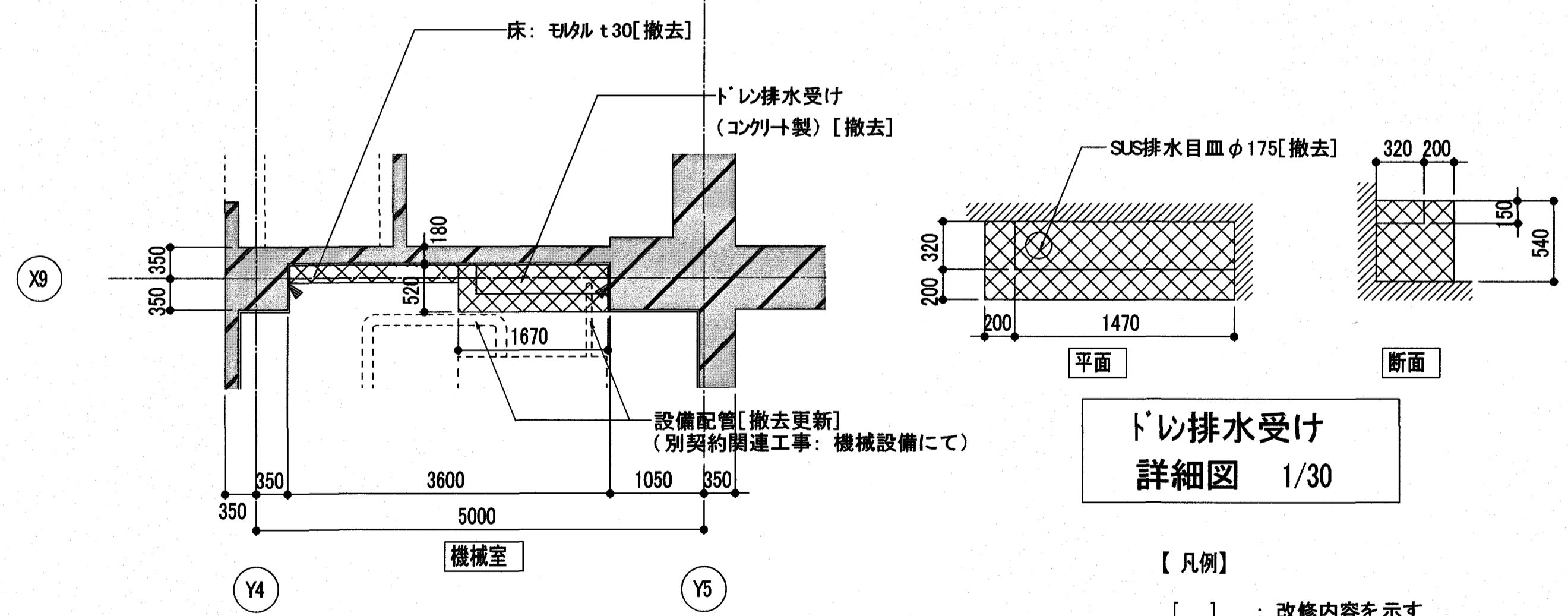
係 係長 課長補佐 課長 図面番号
 作図 年 月 日 A-14

改修前					改修後						
内部仕上表					内部仕上表						
仕上げ材: 7/8/16 含有建材を示す。					仕上げ材: 仕上既存のままを示す。						
室名	床	幅木	腰	壁	天井	室名	床	幅木	腰	壁	天井
機械室	モルタル金ゴテ押え [一部撤去]	モルタル金ゴテ押え H=100 [一部撤去]	モルタル金ゴテ押え H=2,000 [一部撤去]	ロックウール吹付 t25 [一部撤去]	ロックウール吹付 t10	機械室	コンクリート金ゴテ押え [一部新設]	-	EP塗リ H=2,000 [一部新設]	グラスウール吸音材	
									コンクリート打放し下地	グラスウール共 t25 [一部新設]	



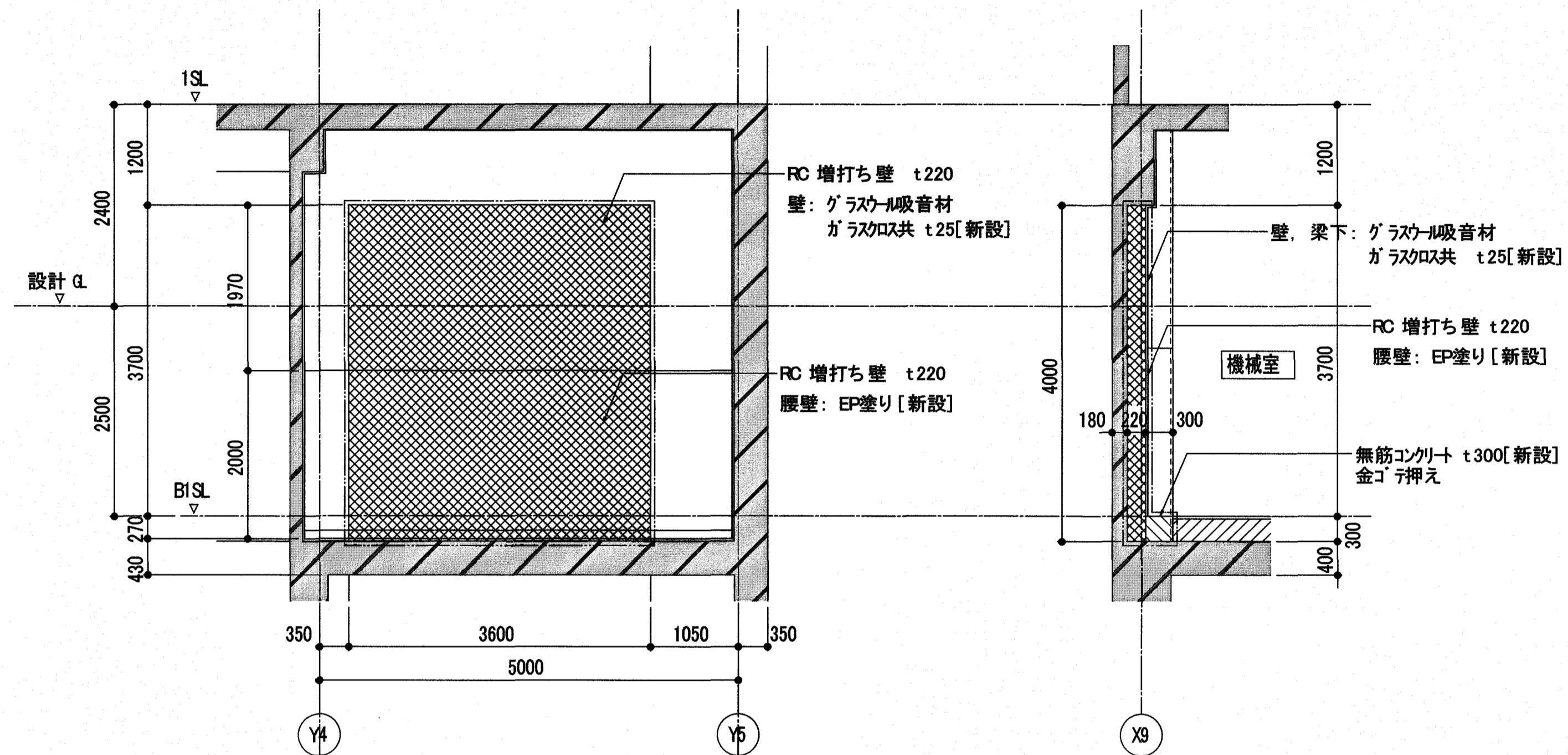
X9 通り展開図 1/50

断面詳細図 1/50



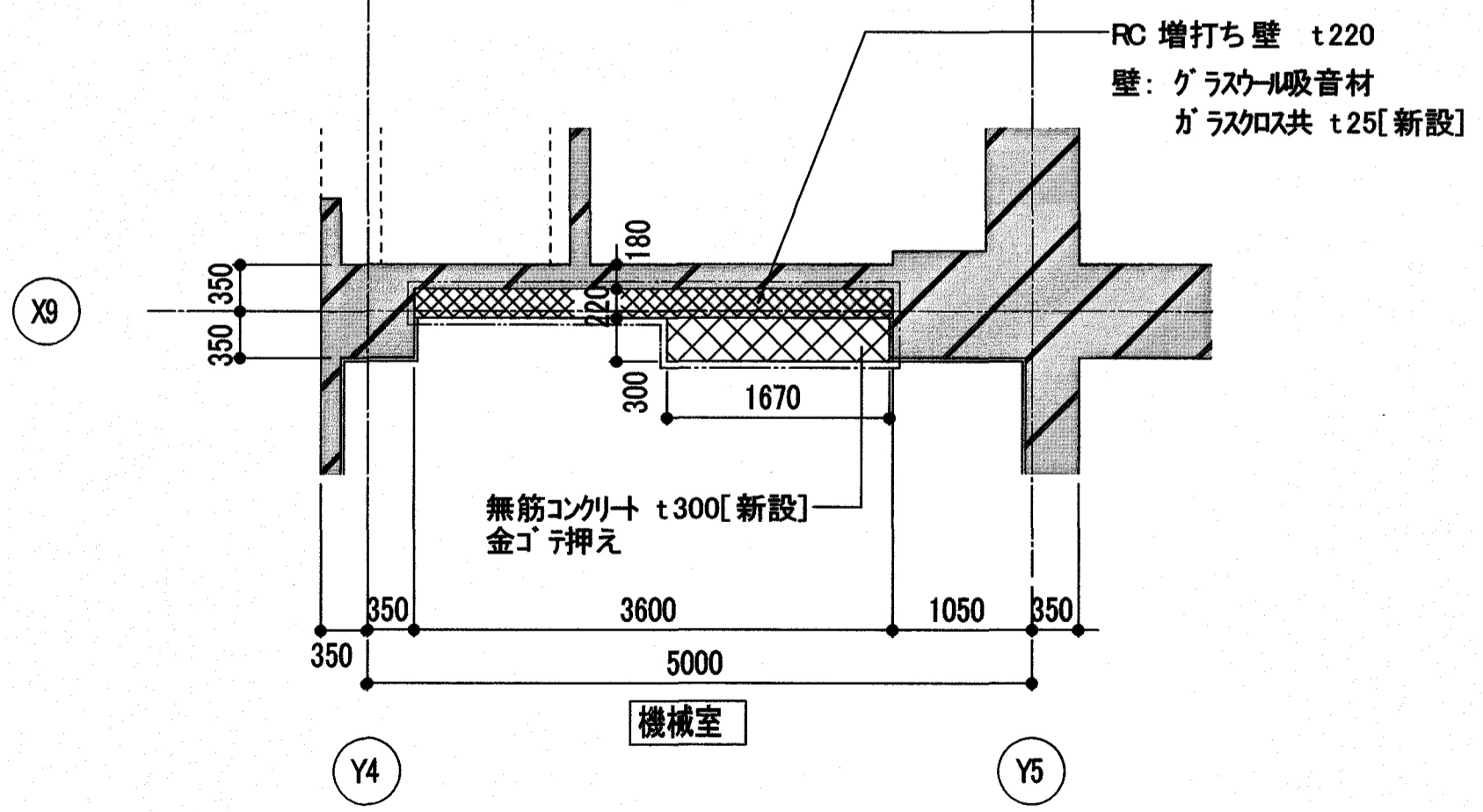
平面詳細図 1/50

- 【凡例】
- [] : 改修内容を示す
 - ▽ : カッター入れを示す
 - 斜線: 既存躯体を示す。
 - 点線: 撤去範囲を示す。



X9 通り展開図 1/50

断面詳細図 1/50



平面詳細図 1/50

- 【凡例】
- [] : 改修内容を示す
 - 斜線: 既存躯体を示す。
 - 点線: 新設範囲を示す。(補強詳細は構造図を参照)

内部仕上表

仕上げ材 : 7A' 含有建材を示す

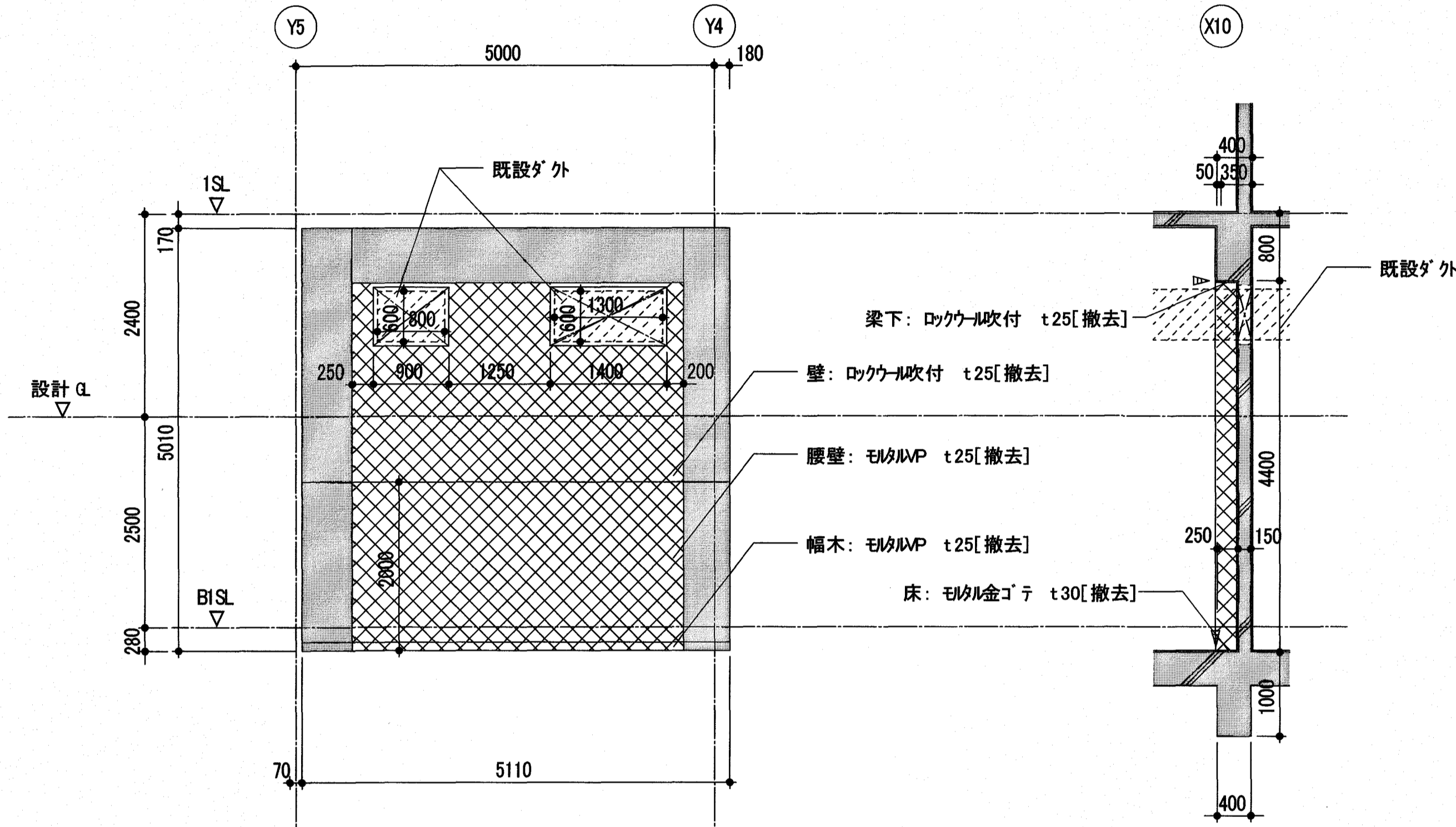
改修前

内部仕上表

仕上げ材 : 仕上既存のままを示す。

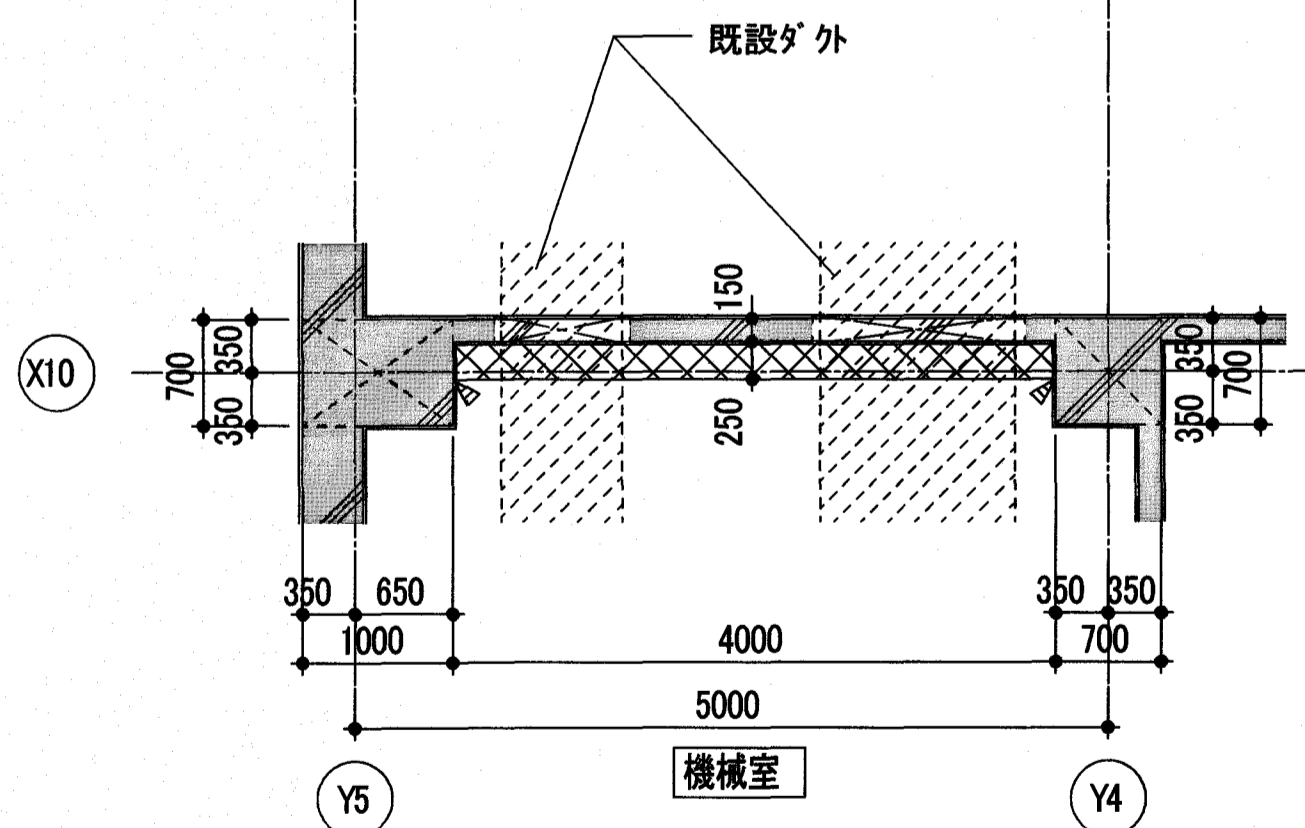
改修後

室名	床	幅木	腰	壁	天井	室名	床	幅木	腰	壁	天井
機械室	モルタルゴテ押え [一部撤去]	モルタルゴテVP H=100 [一部撤去]	モルタルゴテVP H=2,000 [一部撤去]	ロックウール吹付 t25 [一部撤去]	ロックウール吹付 t10	機械室	-	-	EP塗リ H=2,000 [一部新設]	グラスウール吸音材	-
									コンクリート打放し下地	ガラスクロス共 t25 [一部新設]	



X10 通り展開図 1/50

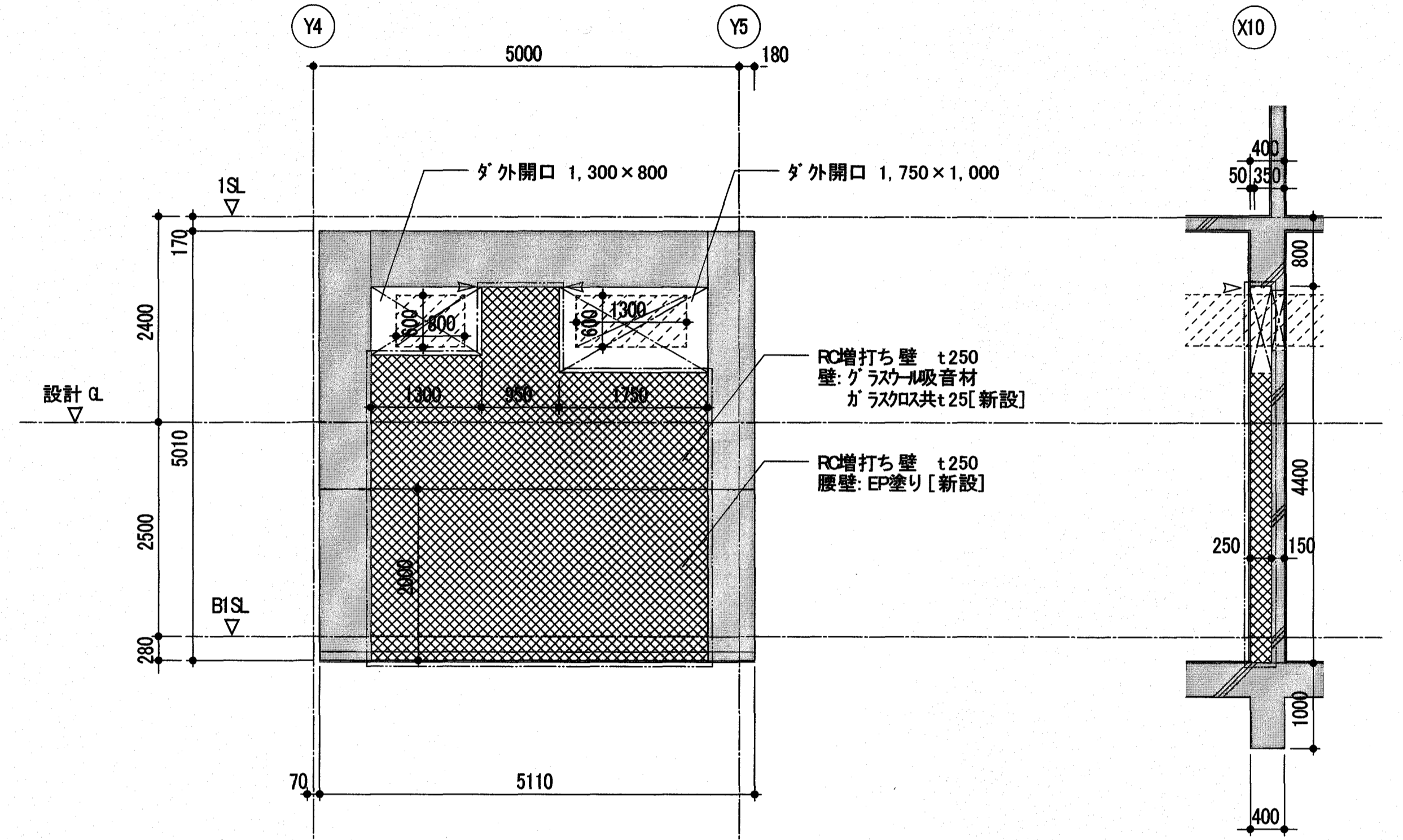
断面詳細図 1/50



平面詳細図 1/50

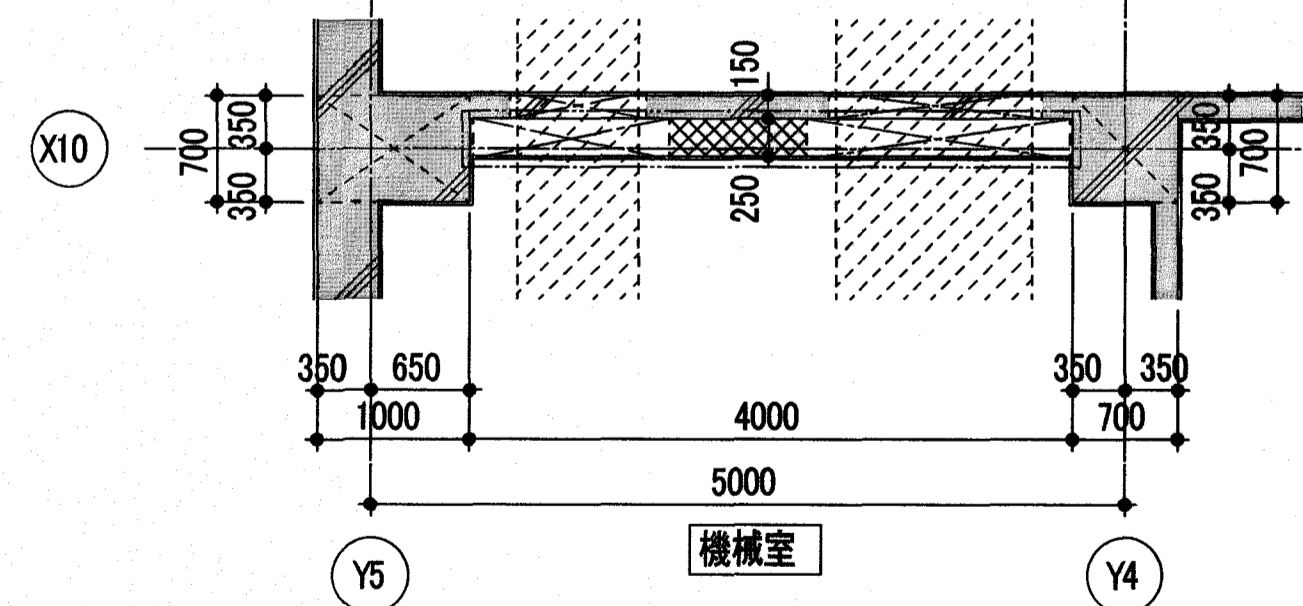
【凡例】

- [] : 改修内容を示す
- ▽ : カッター入れを示す
- ▨ : 既存躯体を示す
- ▩ : 撤去範囲を示す



X10 通り展開図 1/50

断面詳細図 1/50



平面詳細図 1/50

【凡例】

- [] : 改修内容を示す
- ▽ : シリング (PS-2 20x10) を示す
- ▩ : RC増設壁を示す (補強詳細は構造図を参照)
- ▨ : 既存躯体を示す。
- ▩ : 新設範囲を示す。 (補強詳細は構造図を参照)

図中VPはVP塗りを示す。
各設備配管の撤去・新設等は別契約関連工事にて施工する。

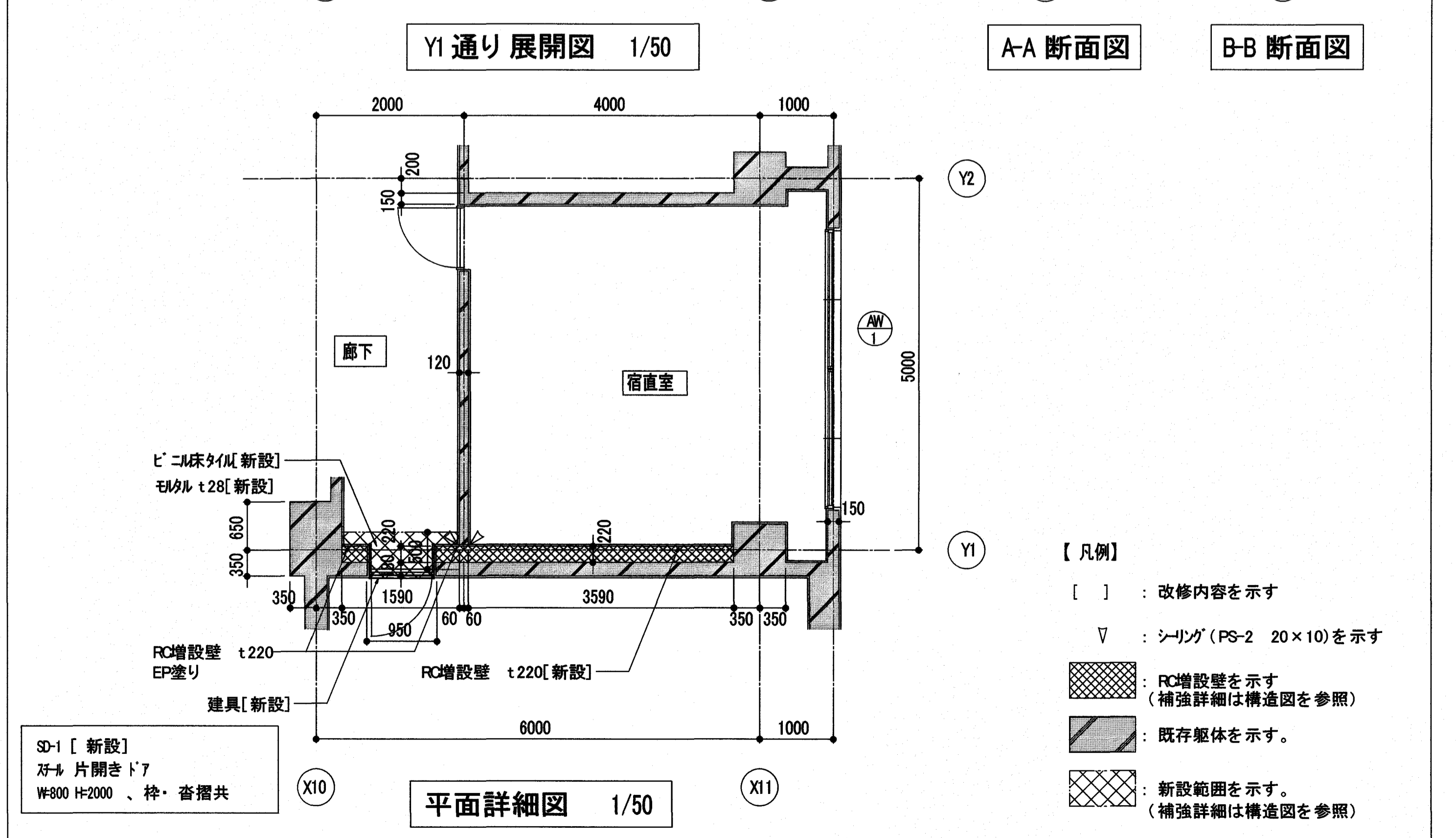
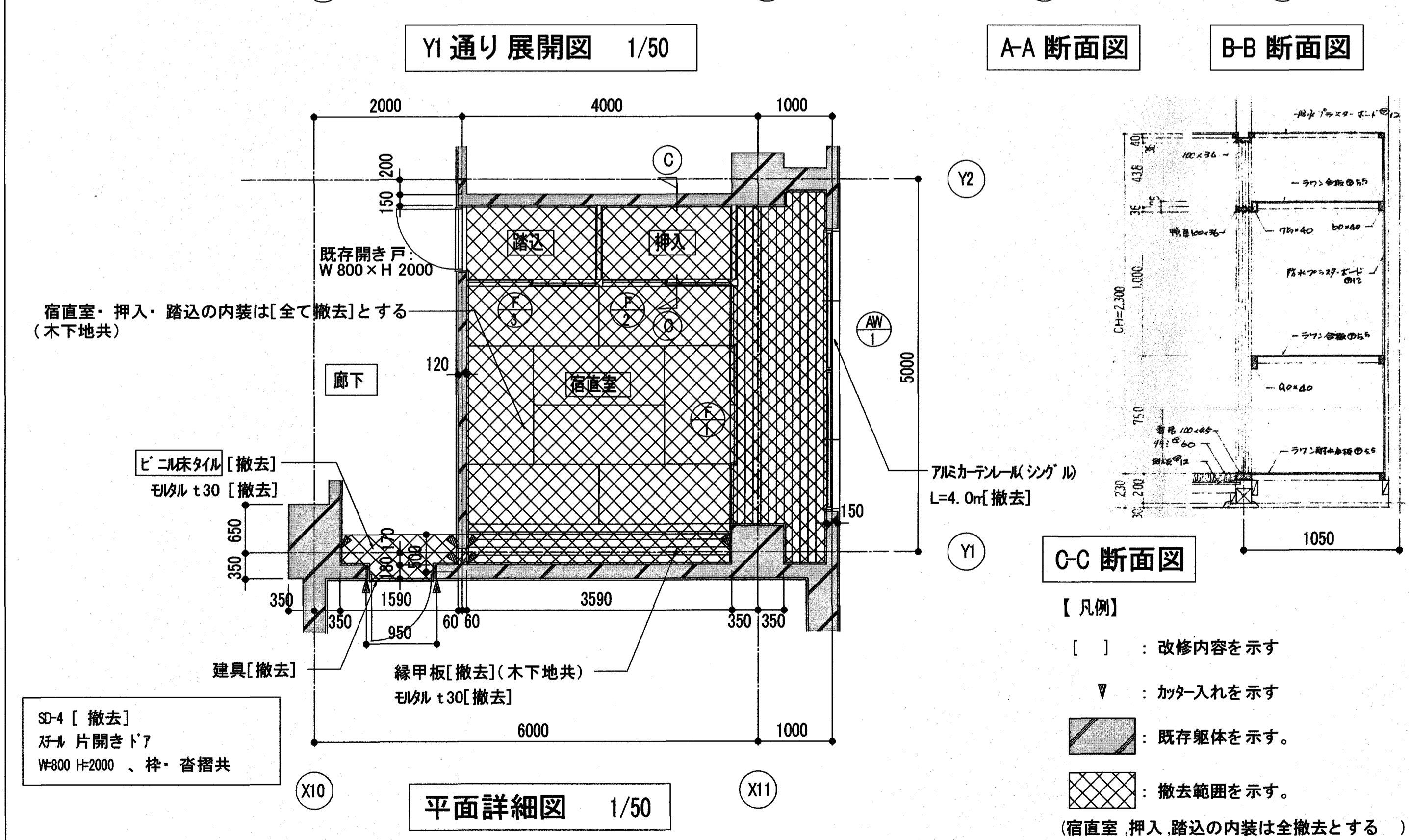
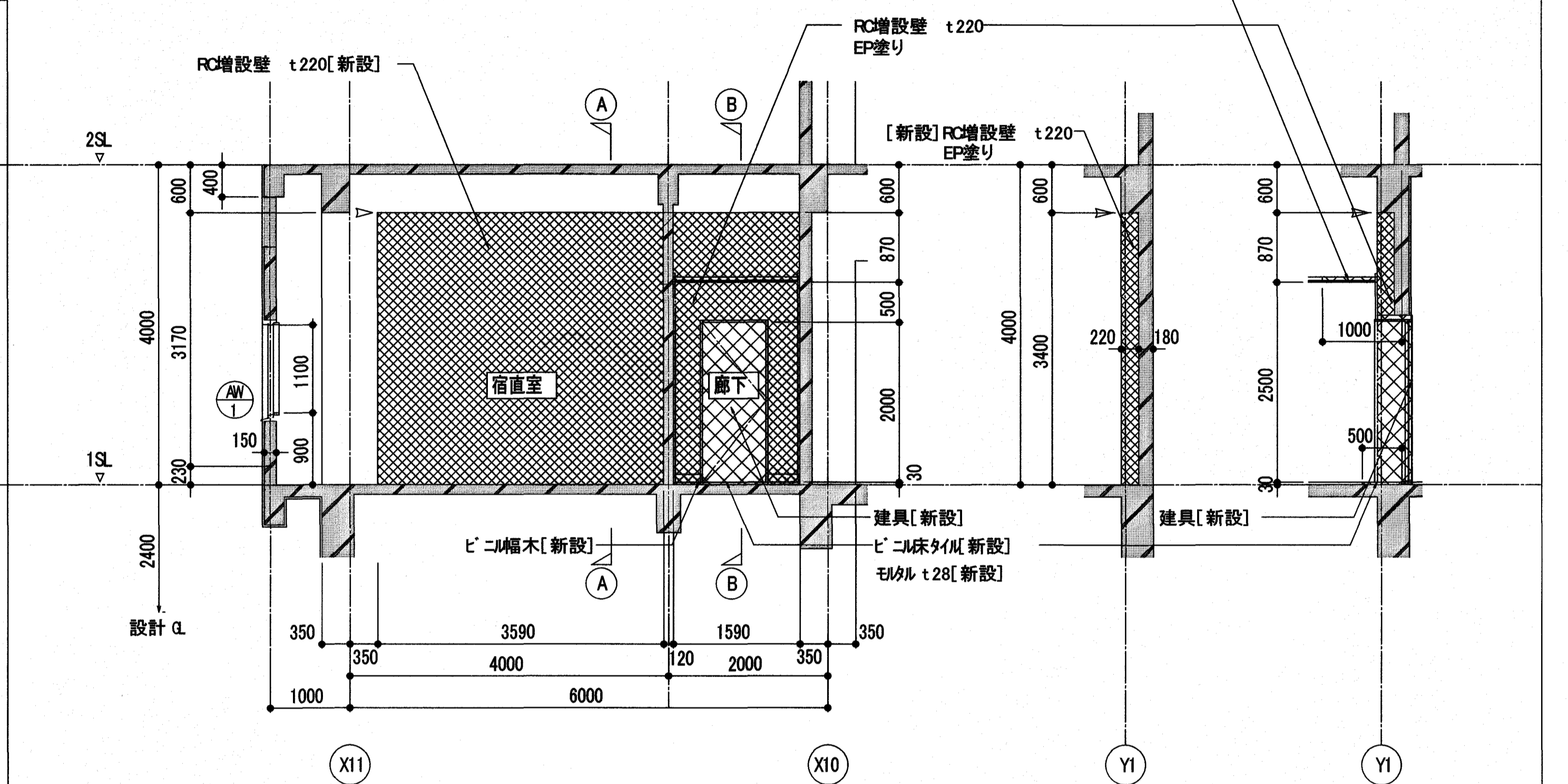
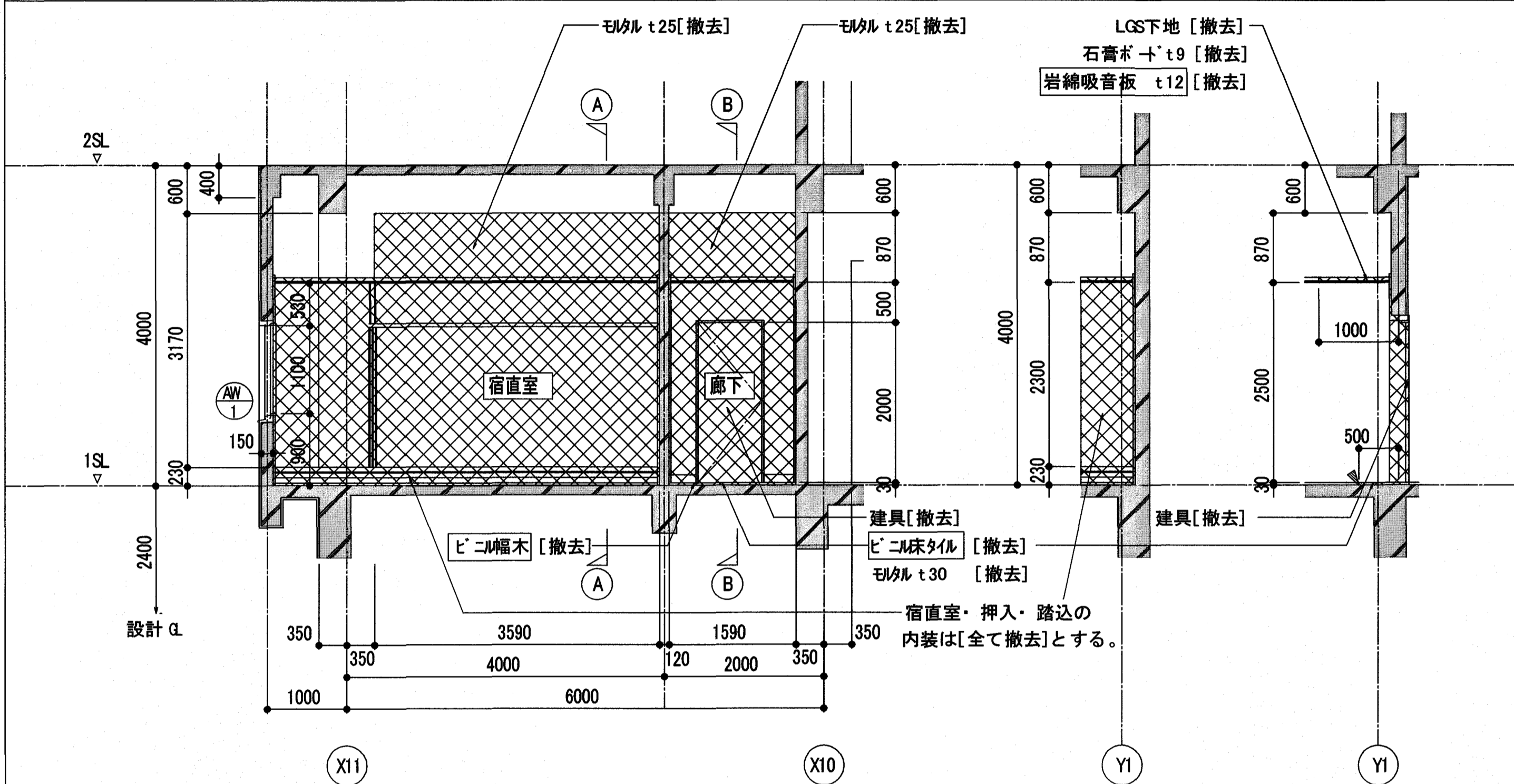
受注者

株式会社日産技術コンサルタント
 一級建築士事務所 大阪府知事登録(子)第 10818号
 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311
 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第 229478号

工事名
 潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)
 図面名 部分詳細図(3) 縮尺 1/50

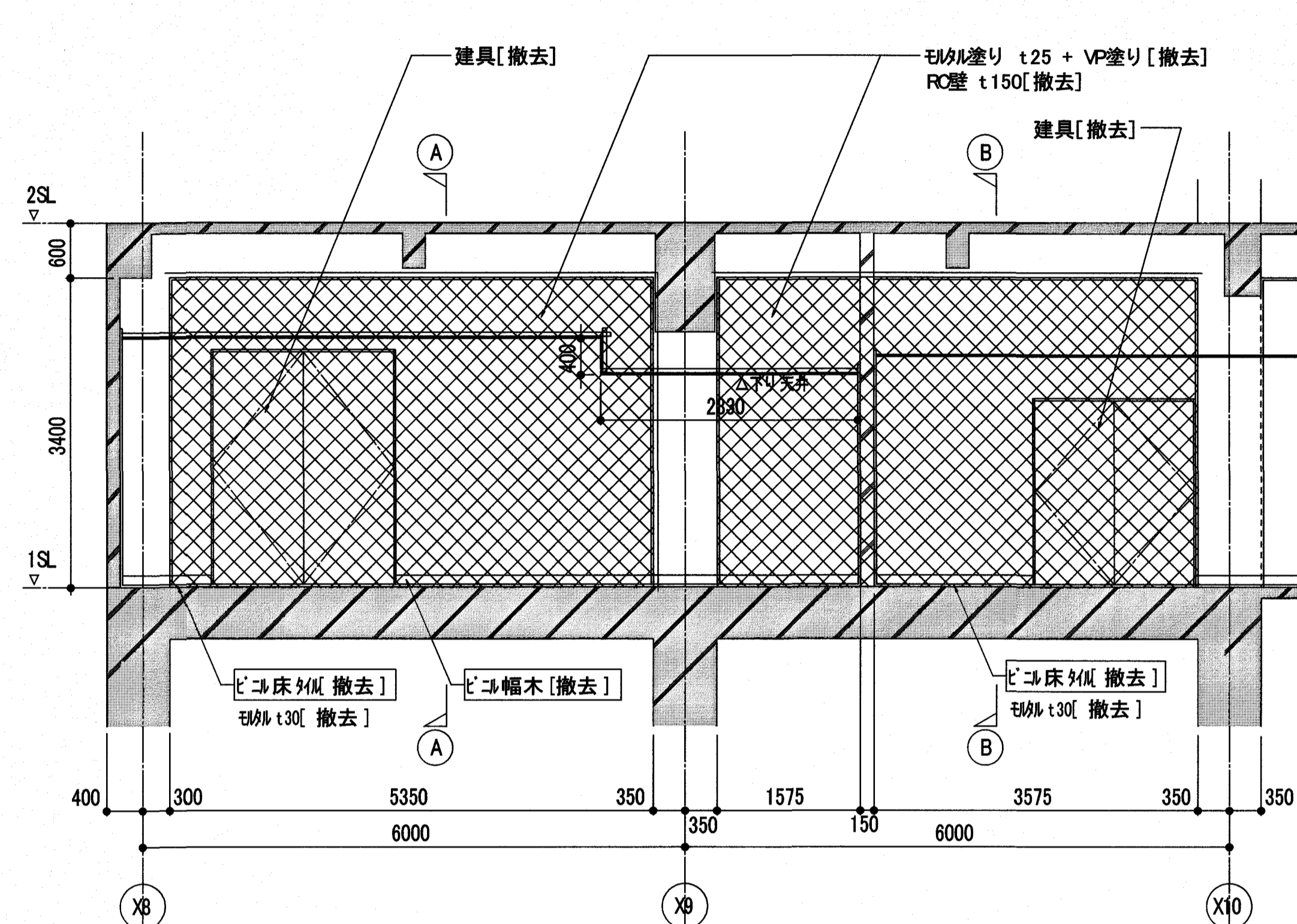
係	係長	課長補佐	課長	図面番号
田	高	松	高	A-16
作図	年	月	日	

改修前						改修後						
内部仕上表						内部仕上表						
仕上げ材 : 7/8/9 含有建材を示す。						仕上げ材 : 仕上げ既存のままを示す。						
室名	床	幅木	腰	壁	天井	室名	床	幅木	腰	壁	天井	
宿直室	畳敷き(木下地共) [撤去] 緑甲板張り(木下地共) [撤去]	畳寄せ [撤去]	同右	合成樹脂エマルジョン吹付 [撤去] 石膏ボード下地共	化粧石膏ボード t9 [撤去]	宿直室	内装全撤去(スラム), RC面はモルタル塗り(床面t30, 壁面t20) ※天井面は不要					
押入	7/8合板 t5.5 [撤去]	雑巾摺 [撤去]	同右	石膏ボード素地 t12 [撤去]	石膏ボード素地 t12 [撤去]	廊下	ビニル床タイル張り [一部新設]	ビニル幅木 H=100 [一部新設]	-	EP塗り [一部新設] コンクリート打放し下地	岩綿吸音板 t12 [一部新設] 石膏ボード t9.5下地 [一部新設]	
踏込	ビニル床タイル張り [撤去]	ビニル幅木 H=100 [撤去]	同右	ゾコト吹付 [撤去] モルタル t25下地 [撤去]	岩綿吸音板 t12 [撤去] 石膏ボード t9下地 [撤去]							
廊下	ビニル床タイル張り [一部撤去]	ビニル幅木 H=100 [一部撤去]	同右	ゾコト吹付 [一部撤去] モルタル t25下地 [一部撤去]	岩綿吸音板 t12 [一部撤去] 石膏ボード t9下地 [一部撤去]							

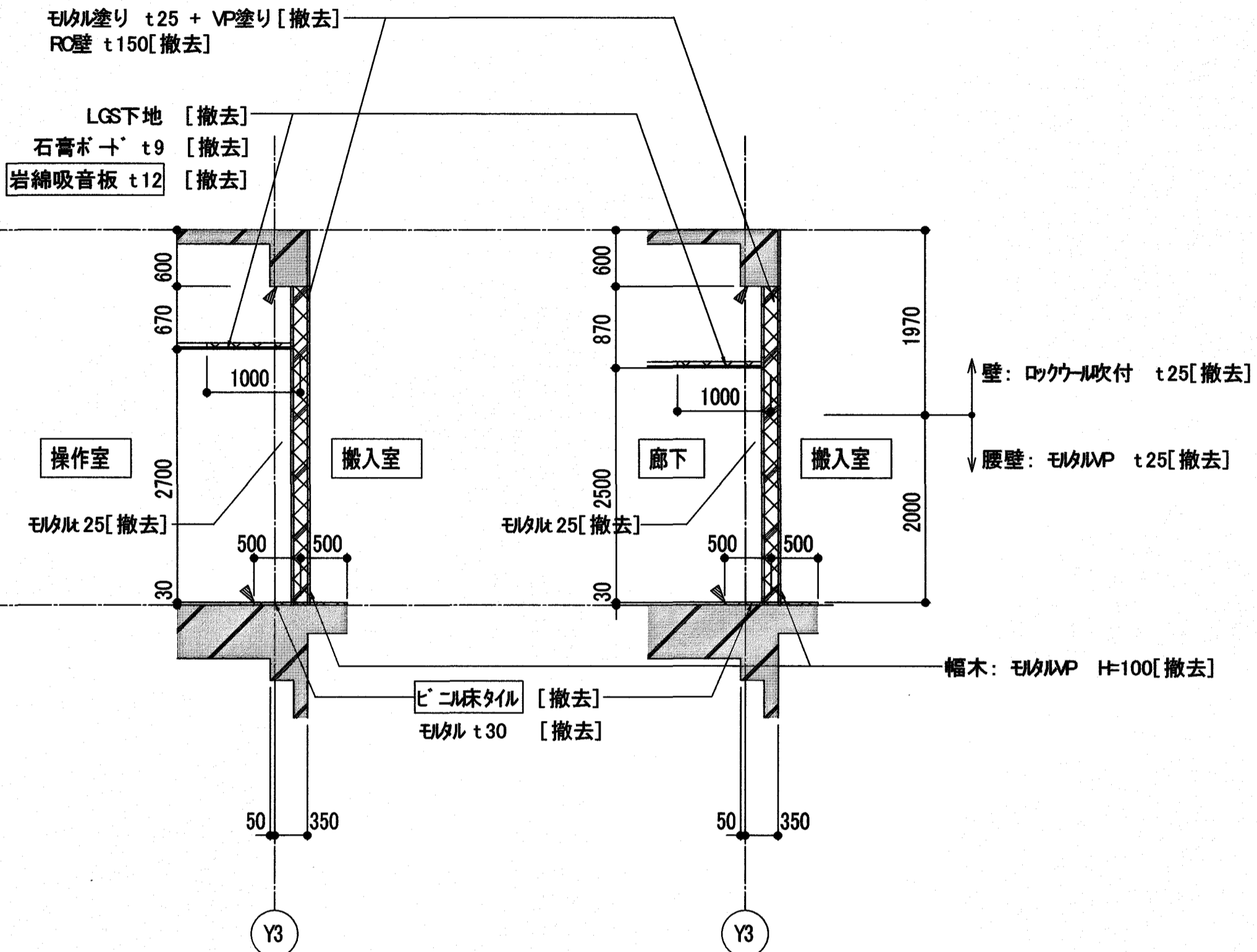


内部仕上表 仕上げ材 : 7/8/9 含有建材を示す。

室名	床	幅木	腰	壁	天井
操作室	ビニル床タイル張り [一部撤去]	ビニル幅木 H=100 [一部撤去]	-	ゾラ吹付 [一部撤去] モタル金ゴテ下地 [一部撤去]	岩綿吸音板 t12 [一部撤去] 石膏ボード t9下地 [一部撤去]
搬入室	モタル金ゴテ押え [一部撤去]	モタル金ゴテVP H=100 [一部撤去]	モタル金ゴテVP H=2,000 [一部撤去]	ゾラ吹付 t25 [一部撤去]	ゾラ吹付 t10
廊下	ビニル床タイル張り [一部撤去]	ビニル幅木 H=100 [一部撤去]	-	ゾラ吹付 [一部撤去] モタル金ゴテ下地 [一部撤去]	岩綿吸音板 t12 [一部撤去] 石膏ボード t9下地 [一部撤去]

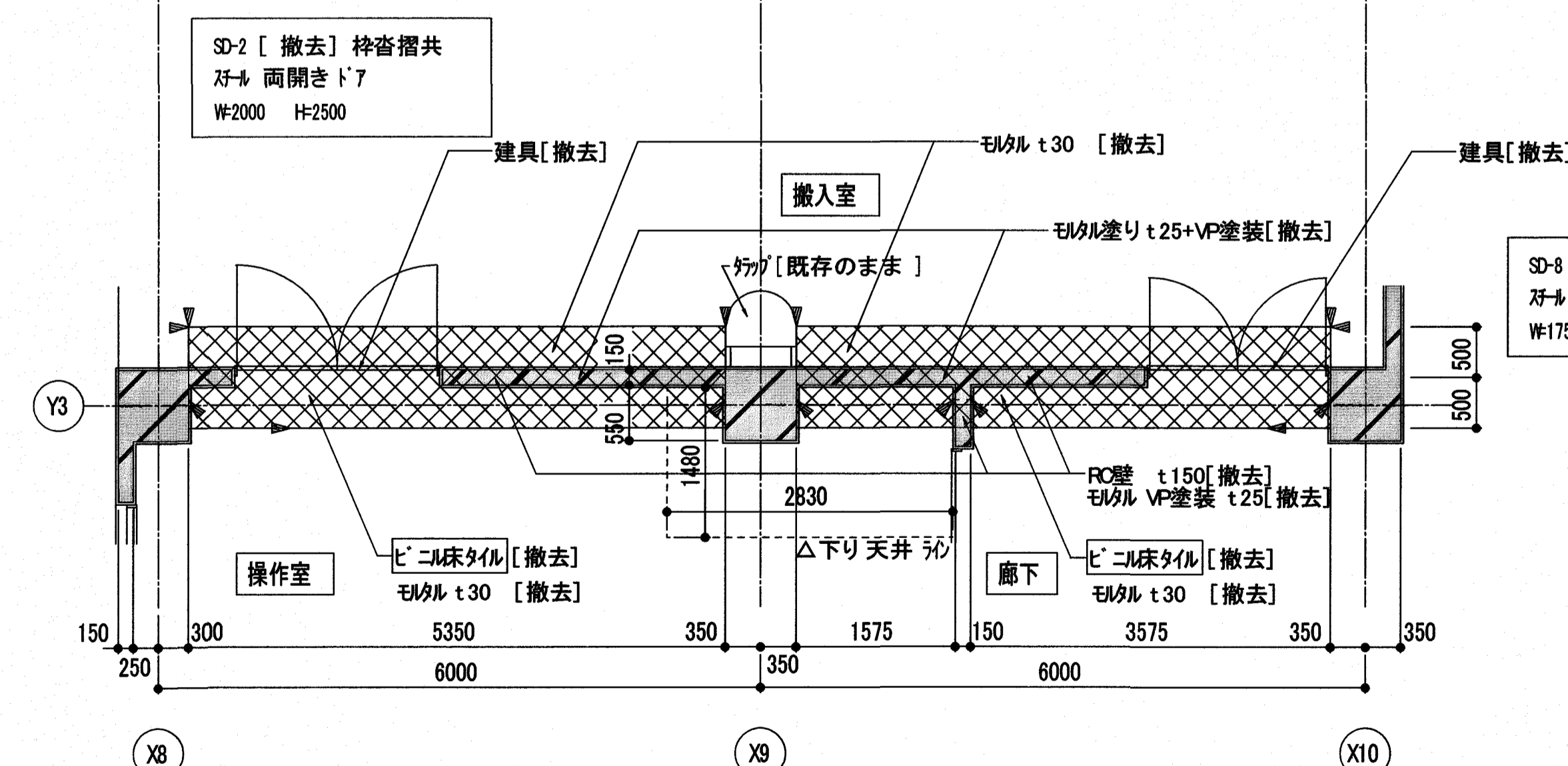


Y3通り展開図 1/50



A-A断面図

B-B断面図



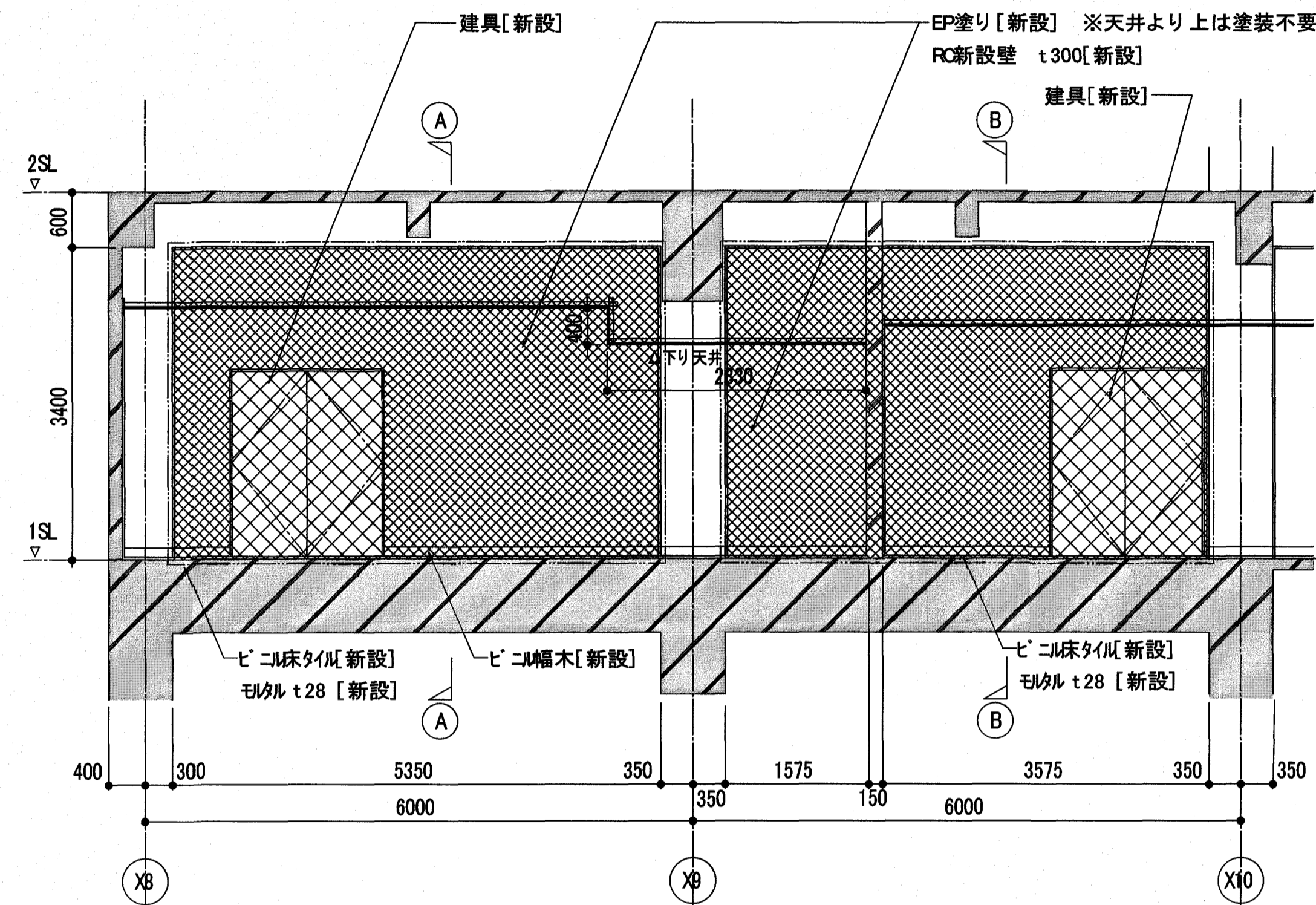
平面詳細図 1/50

- 【凡例】
- [] : 改修内容を示す
 - ▽ : カッター入れを示す
 - ▨ : 既存躯体を示す
 - ▩ : 撤去範囲を示す

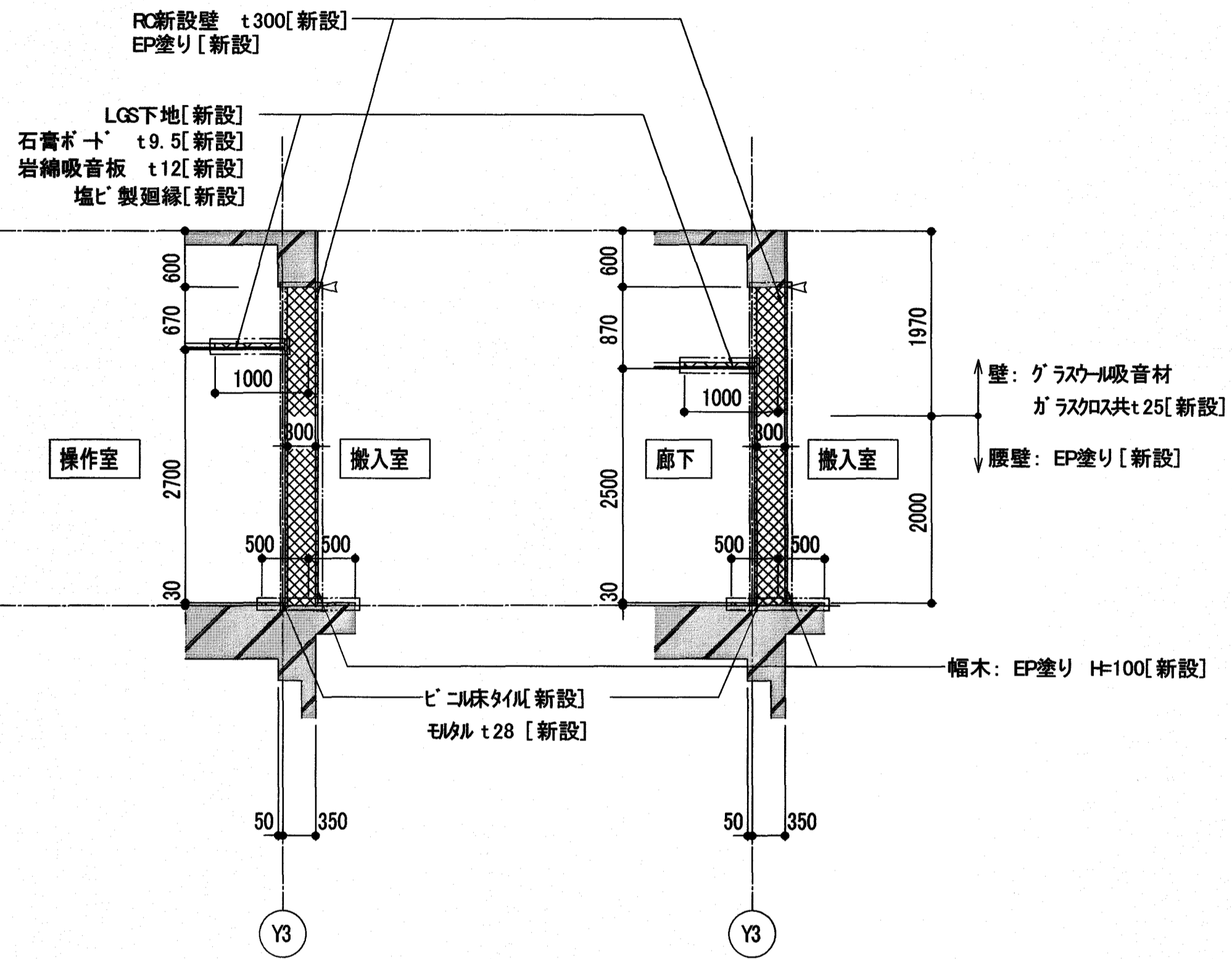
内部仕上表  : 仕上既存のままを示す。

室名	床	幅木	腰	壁	天井
操作室	ビニル床タイル張り [一部新設]	ビニル幅木 H=100 [一部新設]	-	EP塗リ H=2,700 [一部新設] コンクリート打放し下地	岩綿吸音板 t12 [一部新設] 石膏ボード t9.5下地 [一部新設]
搬入室	モルタル金ゴテ押え [一部新設]	EP塗リ H=100 [一部新設] コンクリート打放し下地	EP塗リ H=2,000 [一部新設] コンクリート打放し下地	グラスウール吸音材 ガラスクロス共 t25 [一部新設]	-
廊下	ビニル床タイル張り [一部新設]	ビニル幅木 H=100 [一部新設]	-	EP塗リ H=2,700 [一部新設] コンクリート打放し下地	岩綿吸音板 t12 [一部新設] 石膏ボード t9.5下地 [一部新設]

※操作室 下がり壁はCB-Rt12.5 + EP塗リ

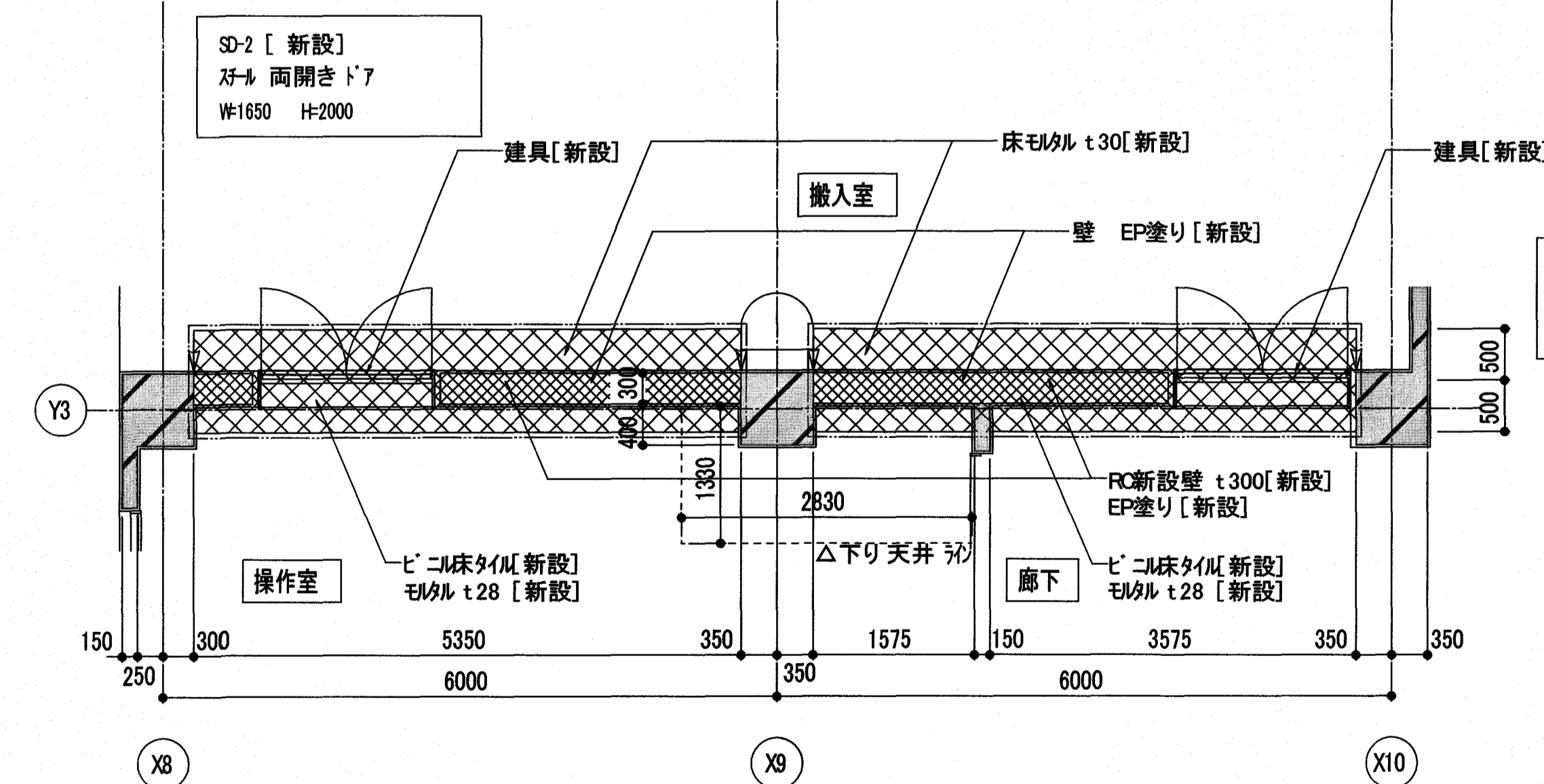


Y3通り展開図 1/50

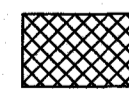








A-A断面図

B-B断面図

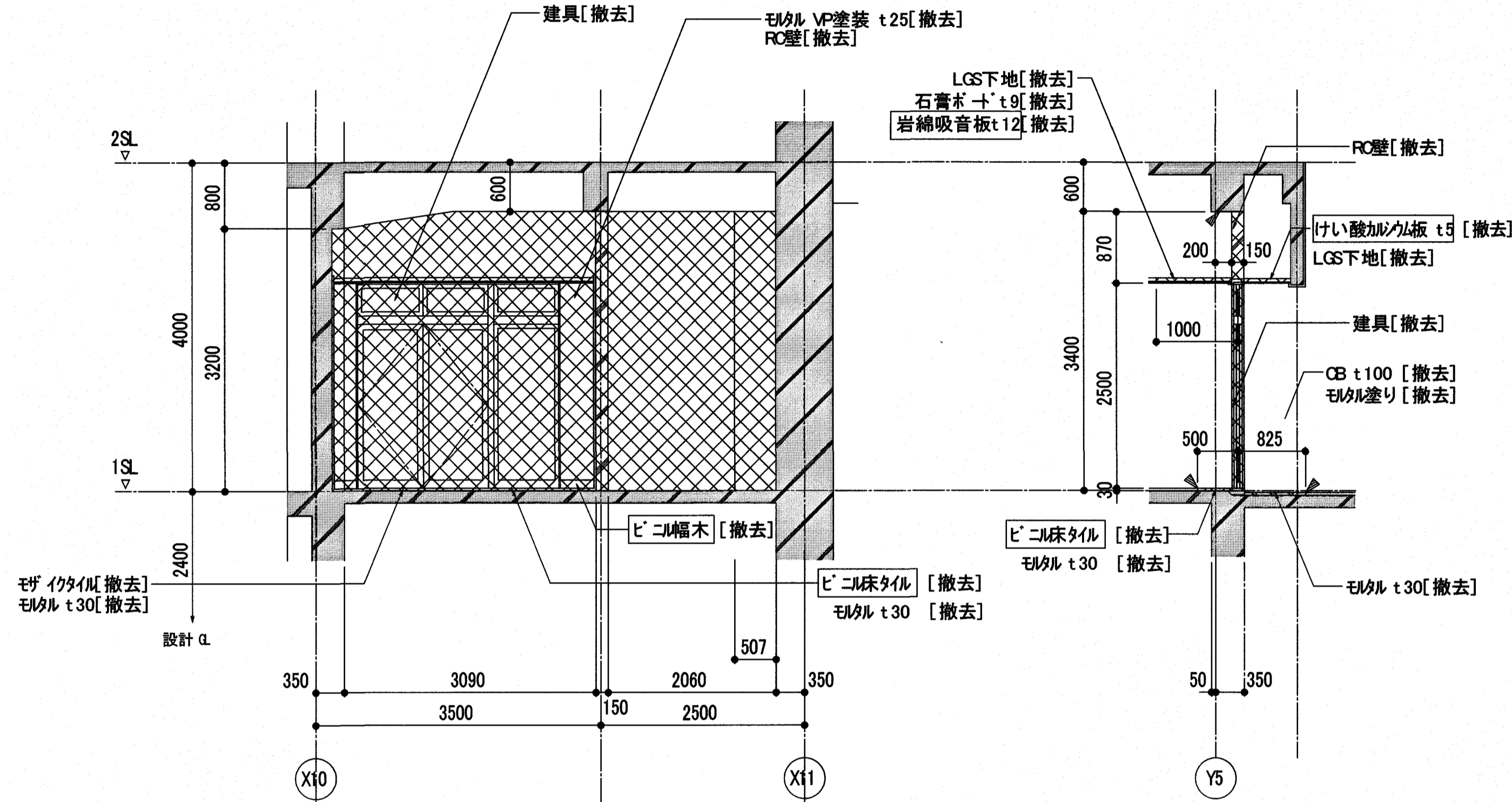


平面詳細図 1/50

- 【凡例】
- [] : 改修内容を示す
 - ∇ : シーリング(PS-2 20×10)を示す
 -  : RC増設壁を示す (補強詳細は構造図を参照)
 -  : 既存躯体を示す
 -  : 新設範囲を示す (補強詳細は構造図を参照)

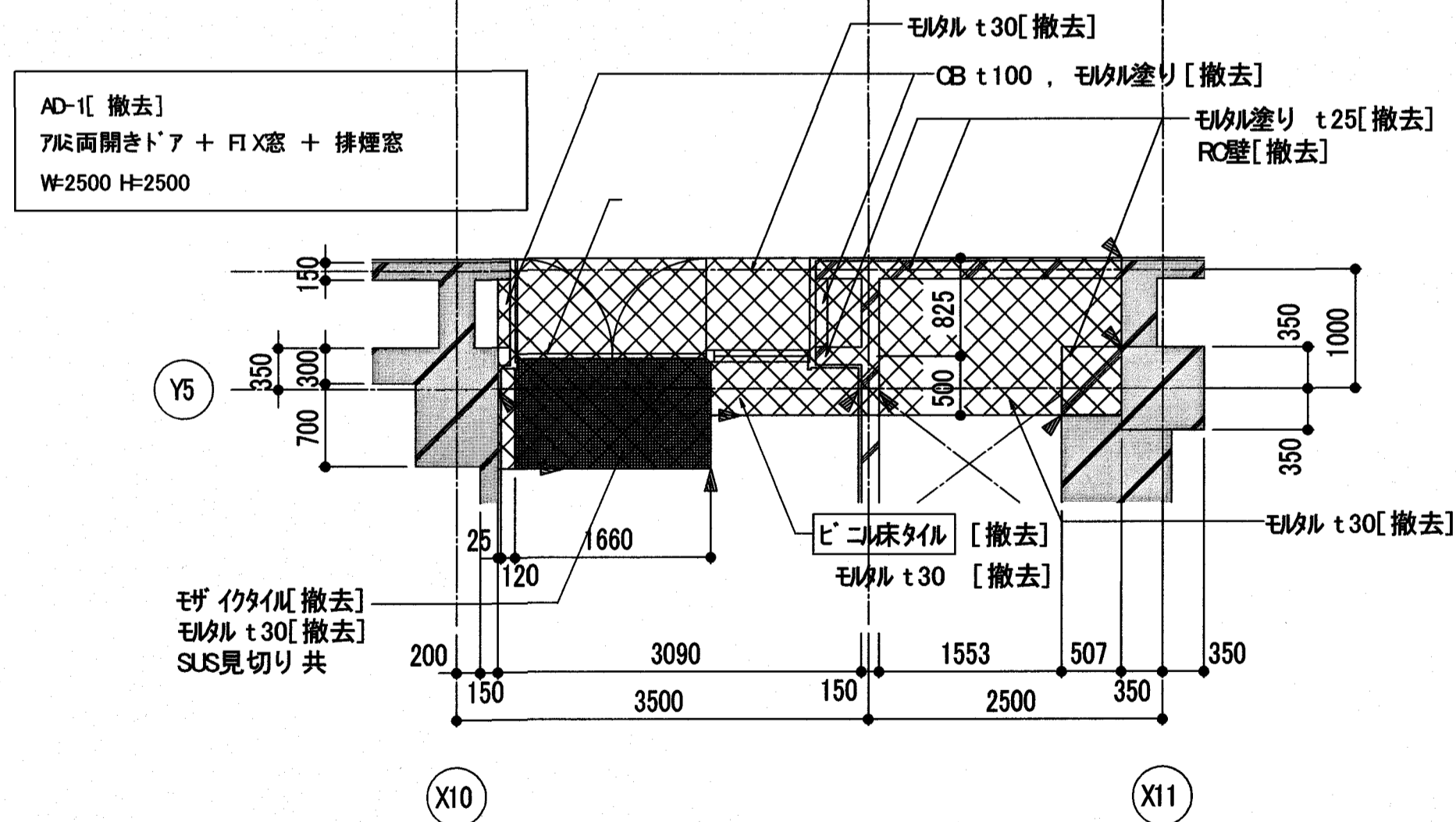
受注者	株式会社日産技術コンサルタント	工事名	係	係長	課長補佐	課長	図面番号	
	一級建築士事務所 大阪府知事登録(チ)第 10818号 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311 管理技術者 国松 幹央 一級建築士登録 第 229478号	潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事(R6-1)						A-19
		図面名 部分詳細図(6)	縮尺 1/50	作図	年	月	日	

改修前					改修後						
内部仕上表					内部仕上表						
仕上げ材 : 7mm未満含有建材を示す。					仕上げ材 : 仕上げ既存のままを示す。						
室名	床	幅木	腰	壁	天井	室名	床	幅木	腰	壁	天井
玄関 廊	ビニル床タイル張り [一部撤去] 一部モザイクタイル張り [撤去]	ビニル幅木 H=100 [一部撤去]	-	ゾコト吹付 [一部撤去] モザイク金ゴテ下地 [一部撤去]	岩綿吸音板 t12 [一部撤去] 石膏ボード t9下地 [一部撤去]	玄関 廊	ビニル床タイル張り [一部新設]	ビニル幅木 H=100 [一部新設]	-	EP塗リ [一部新設] コンクリート打放し下地	岩綿吸音板 t12 [一部新設] 石膏ボード t9下地 [一部新設]



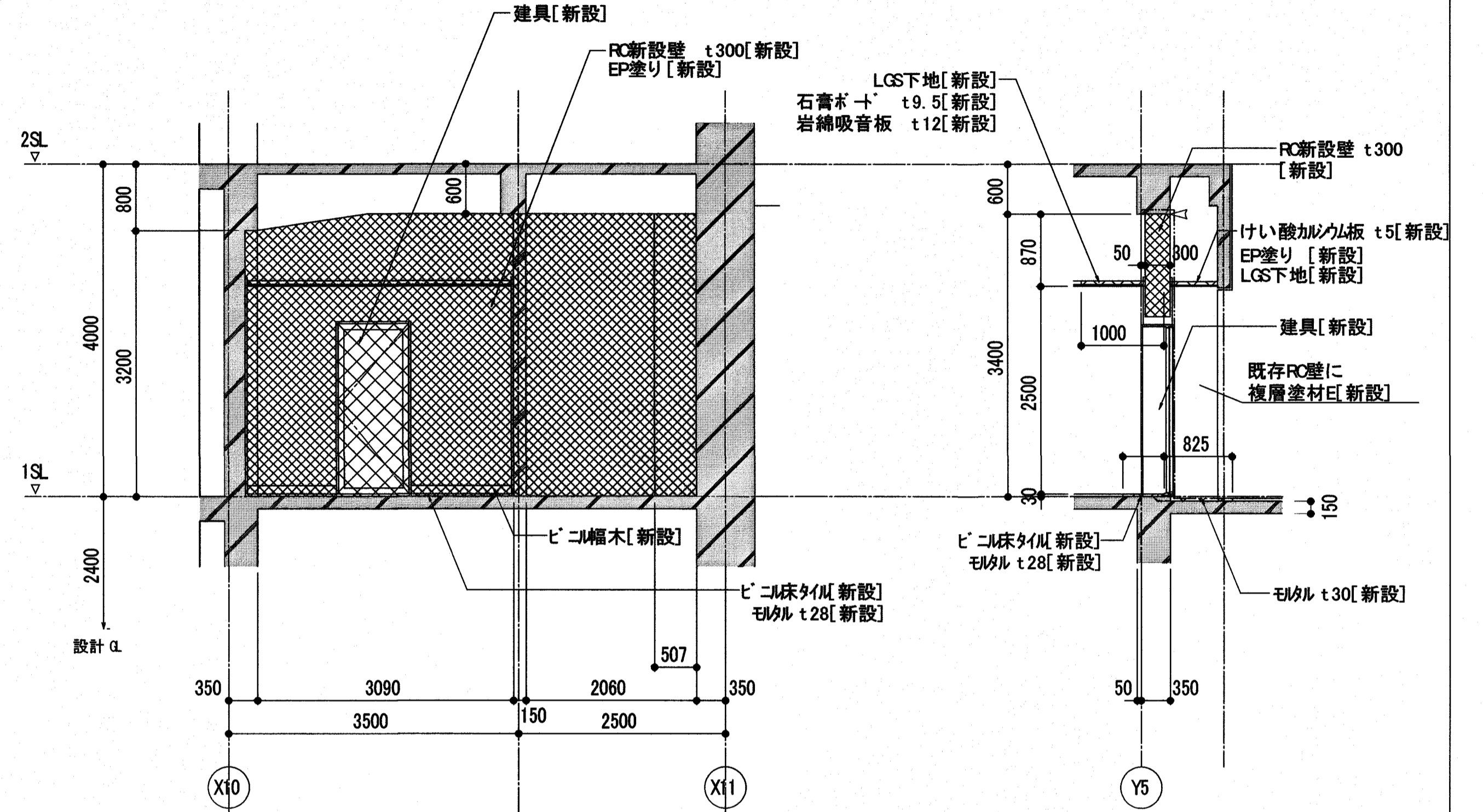
Y5通り展開図 1/50

断面詳細図 1/50



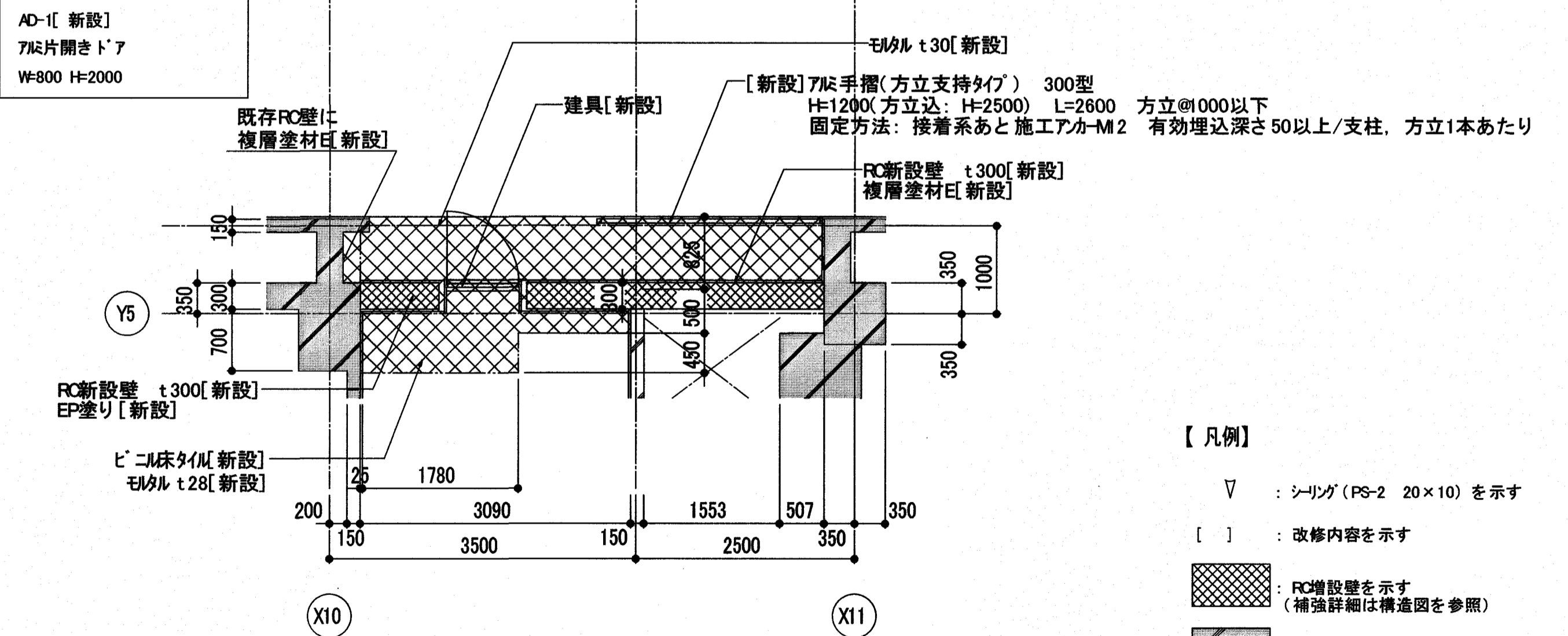
平面詳細図 1/50

- 【凡例】
- [] : 改修内容を示す
 - ▽ : カッター入れを示す
 - ▨ : 既存躯体を示す
 - ▩ : 撤去範囲を示す



Y5通り展開図 1/50

断面詳細図 1/50



平面詳細図 1/50

- 【凡例】
- ▽ : シリング (PS-2 20×10) を示す
 - [] : 改修内容を示す
 - ▨ : RC増設壁を示す (補強詳細は構造図を参照)
 - ▩ : 既存躯体を示す。
 - ▩ : 新設範囲を示す。 (補強詳細は構造図を参照)

7mm手摺: 取付部材や取付方法はメーカー仕様による。

受注者	株式会社日産技術コンサルタント	工事名	潮江水再生センター場内分合流雨水ポンプ棟耐震改修工事 (R6-1)	係	係長	課長補佐	課長	図面番号
	一級建築士事務所 大阪府知事登録(チ)第 10818号 大阪市中央区南久宝寺町 3-1-8 TEL.06-6243-2311 管理技術者 国松 幹夫 一級建築士登録 第 228478号	図面名	部分詳細図(7)	縮尺	1/50			A-20
		作図	年	月	日			